

【思想文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
5131001	哲学	特殊講義	2	前期	集中	西條 玲奈		思想文化学系1
5131002	哲学	特殊講義	2	前期	集中	藤川 直也		思想文化学系2
5131003	哲学	特殊講義	2	後期	木3	品川 哲彦		思想文化学系3
5131004	哲学	特殊講義	2	前期	月2	大塚 淳		思想文化学系4
5131005	哲学	特殊講義	2	後期	集中	千葉 清史		思想文化学系5
5131006	哲学	特殊講義	2	前期	集中	坂本 尚志		思想文化学系6
5131007	哲学	特殊講義	2	前期	水5	大西 琢朗		思想文化学系7
5131008	哲学	特殊講義	2	後期	水5	大西 琢朗		思想文化学系8
5131009	哲学	特殊講義	2	前期	集中	鈴木 貴之		思想文化学系9
5131010	哲学	特殊講義	2	後期	月2	大塚 淳		思想文化学系10
5141001	哲学	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介		思想文化学系11
5141002	哲学	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介		思想文化学系12
5141003	哲学	演習	2	前期	木2	安部 浩		思想文化学系13
5141004	哲学	演習	2	後期	木2	安部 浩		思想文化学系14
5141005	哲学	演習	2	前期	火3	戸田 剛文		思想文化学系15
5143001	哲学	演習I	2	前期	水2	出口 康夫		思想文化学系16
5143002	哲学	演習I	2	後期	水2	出口 康夫		思想文化学系17
5143003	哲学	演習I	2	前期	月1	八木沢 敬	大学院共通科目	思想文化学系18
5143005	哲学	演習I	2	後期	火4	大塚 淳		思想文化学系19
5143006	哲学	演習I	2	後期	月1	八木沢 敬	大学院共通科目	思想文化学系20
5143007	哲学	演習I	2	前期	月5	大西 琢朗		思想文化学系21
5143008	哲学	演習I	2	後期	月5	大西 琢朗		思想文化学系22
M228001	哲学	演習I	2	前期	金4,金5	出口 康夫,大塚 淳,大西 琢郎		思想文化学系23
M228002	哲学	演習I	2	後期	金4,金5	出口 康夫,大塚 淳,大西 琢郎		思想文化学系24
M450001	哲学	語学	2	前期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	思想文化学系25
M451001	哲学	語学	2	後期	金3	西村 洋平	大学院共通科目	思想文化学系26
M452001	哲学	語学	2	前期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	思想文化学系27
M453001	哲学	語学	2	後期	水2	勝又 泰洋	大学院共通科目	思想文化学系28
5231001	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	金2	西村 洋平	古代	思想文化学系29
5231002	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	木原 志乃	古代	思想文化学系30
5231003	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	金2	西村 洋平	古代	思想文化学系31
5231004	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	月5	中畑 正志	古代	思想文化学系32
5231005	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	月5	早瀬 篤	古代	思想文化学系33
5234001	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	小村 優太	中世	思想文化学系34
5234002	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	木2	周藤 多紀	中世	思想文化学系35
5234003	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	木2	周藤 多紀	中世	思想文化学系36
5236001	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	金3	大河内 泰樹	近世	思想文化学系37
5236002	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	直江 清隆	近世	思想文化学系38
5236003	西洋哲学史	特殊講義	2	前期	集中	板橋 勇仁	近世	思想文化学系39
5236004	西洋哲学史	特殊講義	2	後期	集中	千葉 清史	近世	思想文化学系40
5240001	西洋哲学史	演習	4	通年	月3	中畑 正志	古代	思想文化学系41
5240002	西洋哲学史	演習	4	通年	木4,木5	中畑 正志,早瀬 篤	古代	思想文化学系42
5241001	西洋哲学史	演習	2	前期	火3	早瀬 篤	古代	思想文化学系43
5241002	西洋哲学史	演習	2	後期	火3	早瀬 篤	古代	思想文化学系44
5242001	西洋哲学史	演習	4	通年	木4,木5	周藤 多紀	中世	思想文化学系45
5243001	西洋哲学史	演習	2	前期	金4	井澤 清	中世	思想文化学系46
5243002	西洋哲学史	演習	2	後期	金4	井澤 清	中世	思想文化学系47
5243003	西洋哲学史	演習	2	前期	月4	周藤 多紀	中世	思想文化学系48
5243004	西洋哲学史	演習	2	後期	月4	周藤 多紀	中世	思想文化学系49
5244001	西洋哲学史	演習	4	通年	金4,金5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系50
5245001	西洋哲学史	演習	2	後期	水5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系51
5245002	西洋哲学史	演習	2	前期	火2	竹内 綱史	近世	思想文化学系52
5245003	西洋哲学史	演習	2	前期	水5	大河内 泰樹	近世	思想文化学系53
5245004	西洋哲学史	演習	2	後期	木5	中川 明才	近世	思想文化学系54
5245005	西洋哲学史	演習	2	前期	木5	中川 明才	近世	思想文化学系55
5245006	西洋哲学史	演習	2	前期	金3	景山 洋平	近世	思想文化学系56
5331001	日本哲学史	特殊講義	2	前期	水5	上原 麻有子		思想文化学系57
5331002	日本哲学史	特殊講義	2	後期	水5	上原 麻有子		思想文化学系58
5331003	日本哲学史	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系59
5331004	日本哲学史	特殊講義	2	前期	集中	直江 清隆		思想文化学系60
5331005	日本哲学史	特殊講義	2	前期	集中	板橋 勇仁		思想文化学系61
5331007	日本哲学史	特殊講義	2	後期	金3	大河内 泰樹		思想文化学系62
5341001	日本哲学史	演習	2	前期	金3	景山 洋平		思想文化学系63
M243001	日本哲学史	演習	2	前期	木2	安部 浩		思想文化学系64
M243002	日本哲学史	演習	2	後期	木2	安部 浩		思想文化学系65
M244001	日本哲学史	演習II	4	通年	不定	上原 麻有子	金(前期)4-5,金(後期)3-4	思想文化学系66
5431001	倫理学	特殊講義	2	前期	集中	林 誓雄		思想文化学系67
5431002	倫理学	特殊講義	2	前期	火2	児玉 聡		思想文化学系68

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
5431003	倫理学	特殊講義	2	後期	火2	児玉 聡		思想文化学系69
5431004	倫理学	特殊講義	2	後期	水3	児玉 聡		思想文化学系70
5431005	倫理学	特殊講義	2	後期	木2	Campbell, Michael		思想文化学系71
5431006	倫理学	特殊講義	2	前期	木2	Campbell, Michael		思想文化学系72
5431007	倫理学	特殊講義	2	前期	月4	伊勢田 哲治,清水 雄也		思想文化学系73
5431008	倫理学	特殊講義	2	前期	集中	鈴木 貴之		思想文化学系74
5440001	倫理学	演習	4	通年	火4	児玉 聡		思想文化学系75
5440002	倫理学	演習	4	通年	金4	児玉 聡		思想文化学系76
5443001	倫理学	演習	2	前期	木3	鈴木 崇志		思想文化学系77
5443002	倫理学	演習	2	後期	木3	三上 航志		思想文化学系78
5443003	倫理学	演習	2	前期	金5	永守 伸年		思想文化学系79
5443004	倫理学	演習	2	後期	金5	永守 伸年		思想文化学系80
5443005	倫理学	演習	2	前期	水4	佐藤 義之		思想文化学系81
5443006	倫理学	演習	2	後期	水4	佐藤 義之		思想文化学系82
5531003	宗教学	特殊講義	2	前期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系83
5531004	宗教学	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系84
5531005	宗教学	特殊講義	2	前期	火5	伊原木 大祐		思想文化学系85
5531006	宗教学	特殊講義	2	後期	火5	伊原木 大祐		思想文化学系86
5531002	宗教学	特殊講義	2	後期	木3	鬼頭 葉子		思想文化学系87
5531001	宗教学	特殊講義	2	前期	集中	板橋 勇仁		思想文化学系88
5541001	宗教学	演習	2	前期	水5	杉村 靖彦		思想文化学系89
5541002	宗教学	演習	2	後期	水5	杉村 靖彦		思想文化学系90
5541004	宗教学	演習	2	前期	火4	伊原木 大祐		思想文化学系91
5541005	宗教学	演習	2	後期	火4	伊原木 大祐		思想文化学系92
5541006	宗教学	演習	2	前期	火2	竹内 綱史		思想文化学系93
5541007	宗教学	演習	2	前期	月4	津田 謙治		思想文化学系94
5541008	宗教学	演習	2	後期	月4	津田 謙治		思想文化学系95
5541009	宗教学	演習	2	前期	木2	安部 浩		思想文化学系96
5541003	宗教学	演習	2	後期	木2	安部 浩		思想文化学系97
5541010	宗教学	演習	2	前期	金3	景山 洋平		思想文化学系98
M264001	宗教学	演習II	4	通年	金4,金5	杉村 靖彦,伊原木 大祐		思想文化学系99
5551001	宗教学	講読	2	前期	木2	根無 一行		思想文化学系100
5551002	宗教学	講読	2	後期	木2	根無 一行		思想文化学系101
5631001	キリスト教学	特殊講義	2	後期	木4	渡部 和隆		思想文化学系102
5631002	キリスト教学	特殊講義	2	後期	月2	津田 謙治		思想文化学系103
5631003	キリスト教学	特殊講義	2	前期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系104
5631004	キリスト教学	特殊講義	2	後期	水4	杉村 靖彦		思想文化学系105
5631005	キリスト教学	特殊講義	2	後期	木3	鬼頭 葉子		思想文化学系106
5631006	キリスト教学	特殊講義	2	前期	集中	洪 伊杓		思想文化学系107
5641001	キリスト教学	演習	2	前期	木4	谷塚 巖		思想文化学系108
5641004	キリスト教学	演習	2	前期	木2	平出 貴大		思想文化学系109
5641005	キリスト教学	演習	2	後期	金4	河崎 靖		思想文化学系110
5641006	キリスト教学	演習	2	前期	月4	津田 謙治		思想文化学系111
5641007	キリスト教学	演習	2	後期	月4	津田 謙治		思想文化学系112
M272001	キリスト教学	演習	4	通年	火4	津田 謙治		思想文化学系113
9639001	キリスト教学	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	思想文化学系114
9640001	キリスト教学	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	思想文化学系115
5731005	美学美術史学	特殊講義	2	前期	金3	平川 佳世		思想文化学系116
5731006	美学美術史学	特殊講義	2	後期	金3	平川 佳世		思想文化学系117
5731007	美学美術史学	特殊講義	2	前期	水2	杉山 卓史		思想文化学系118
5731008	美学美術史学	特殊講義	2	後期	水2	杉山 卓史		思想文化学系119
5731018	美学美術史学	特殊講義	2	前期	水5	筒井 忠仁		思想文化学系120
5731019	美学美術史学	特殊講義	2	後期	水5	筒井 忠仁		思想文化学系121
5731009	美学美術史学	特殊講義	2	前期	金2	稲本 泰生		思想文化学系122
5731010	美学美術史学	特殊講義	2	後期	金2	稲本 泰生		思想文化学系123
5731001	美学美術史学	特殊講義	2	前期	月1	呉 孟晋		思想文化学系124
5731002	美学美術史学	特殊講義	2	後期	月1	呉 孟晋		思想文化学系125
5731011	美学美術史学	特殊講義	2	前期	火3	岡田 暁生		思想文化学系126
5731012	美学美術史学	特殊講義	2	後期	火3	岡田 暁生		思想文化学系127
5731015	美学美術史学	特殊講義	2	前期	月3	武田 宙也		思想文化学系128
5731016	美学美術史学	特殊講義	2	後期	月3	武田 宙也		思想文化学系129
5731003	美学美術史学	特殊講義	2	前期	火1	礪波 恵昭		思想文化学系130
5731014	美学美術史学	特殊講義	2	前期	集中	佐藤 直樹		思想文化学系131
5731013	美学美術史学	特殊講義	2	後期	火2	加須屋 明子		思想文化学系132
5731020	美学美術史学	特殊講義	2	前期	月4	松永 伸司		思想文化学系133
5741001	美学美術史学	演習I	2	前期	火3	平川 佳世,筒井 忠仁		思想文化学系134
5741002	美学美術史学	演習I	2	後期	火3	平川 佳世,筒井 忠仁		思想文化学系135
5745003	美学美術史学	演習II	2	後期	金1	平川 佳世		思想文化学系136
5745004	美学美術史学	演習II	2	前期	木2	杉山 卓史		思想文化学系137

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
5745005	美学美術史学	演習II	2	前期	木3	小寺 里枝		思想文化学系138
5745006	美学美術史学	演習II	2	後期	木3	倉持 充希		思想文化学系139
5745007	美学美術史学	演習II	2	前期	金2	平川 佳世		思想文化学系140
M286001	美学美術史学	演習III	2	前期	金5	平川 佳世, 杉山 卓史, 筒井 忠仁		思想文化学系141
M286002	美学美術史学	演習III	2	後期	金5	平川 佳世, 杉山 卓史, 筒井 忠仁		思想文化学系142

思想文化学系1

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学 文学研究科 助教 西條 玲奈			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		分析フェミニズムにおけるジェンダーとアイデンティティ									
【授業の概要・目的】											
<p>社会には不正義と抑圧が存在する。こうした状況の中で私たちは不正な社会とどのように関わり、自分が何者かを了解していけばよいのだろうか。この授業では社会的属性の中でもジェンダーに焦点を定め、ジェンダー集団の本性とそこに属する個人のアイデンティティに関する問題を、分析フェミニズムの議論状況をふまえて扱う。フェミニズムとは女性や性的マイノリティに対する性差別の終結をめざす政治運動である。ここで強調したい分析フェミニズムの特徴は、フェミニズムの目的を共有しつつ、分析哲学的な方法論、概念の分析や改良を行い、不正義の内実を明らかにし、抑圧された人々に概念的リソースを提供するところである。特に分析形而上学の理論的背景をもつ Sally Haslangerによる分析フェミニズムの方法論をふまえ、哲学がフェミニズムに何ができるのか、フェミニズムの主体である「女性」とは誰のことなのか、そして個人はどのようにジェンダー化されるのかという主題を論じる。時間的な余裕があれば、個人のジェンダーアイデンティティがもつ歴史性を概念化するために、実践的アイデンティティやナラティブアイデンティティの議論を参照する。</p>											
【到達目標】											
<p>・到達目標</p> <p>(1)概念の整合性の検討や過不足ない定義の提案が現実の社会問題に結びつくことを知る</p> <p>(2)ジェンダーが群概念であることを理解し、ジェンダー集団、ジェンダー規範、ジェンダーアイデンティティの概念を区別しそれぞれを説明できるようになる</p> <p>(3)(1)と(2)をふまえて個人ジェンダーアイデンティティの形成プロセスを反省することができる</p>											
【授業計画と内容】											
<p>・授業計画と内容</p> <p>哲学はフェミニズムに何ができるか---分析フェミニズムの方法論</p> <p>1. 政治運動としてのフェミニズムと分析フェミニズム</p> <p>2. 分析フェミニズムの方法論 Sally Haslangerの改良的アプローチ 1</p> <p>3. 分析フェミニズムの方法論 Sally Haslangerの改良的アプローチ 2 (つづき)</p> <p>「女性」とはだれのことなのか---ジェンダー集団とジェンダー規範</p> <p>4. Judith Butlerのアイデンティティポリティクス批判とSally Haslangerによるジェンダー集団の階級的定義</p> <p>5. Sally Haslangerによるジェンダー集団の階級的定義とインターセクショナルな抑圧</p> <p>6. Theodore Bachによるジェンダーの歴史的性質付き自然種としての定義</p> <p>7. Theodore Bachによるジェンダーの歴史的性質付き自然種としての定義とその検討 (つづき)</p> <p>8. トランスジェンダー排除の問題: Katherine JenkinsによるHaslanger批判</p> <p>私はどのようにジェンダー化されるのか---ジェンダーアイデンティティと歴史性</p> <p>9. Charlotte Wittによる社会的自己の統合としてのジェンダー</p> <p>10. トランスインクルーシブなジェンダーアイデンティティの定義: Katherine Jenkinsの規範相関説</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

11. 男女二元論を超えて：Robin Dembroffによるジェンダークエアの理論
12. アイデンティティの歴史性1 分析形而上学における人の通時的同一性の問題とSchetmanの実践的アイデンティティ論
13. アイデンティティの歴史性2 Schetmanによる実践的アイデンティティ論（つづき）
14. アイデンティティの歴史性3 Catrina Mackenzieによるアイデンティティ形成における想像力とナラティブの役割
15. 授業全体のまとめ
（授業の進行や受講生の理解の度合い、関心にあわせて内容が増える、あるいはすべての主題を扱いきれないことがあります。）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

コメントペーパー（30%）、レポート（70%）

【教科書】

講義で使用する資料は授業中に配布します。

【参考書等】

（参考書）

Atkins, Kim., & Mackenzie, Catrina 『Practical Identity and Narrative Agency』（Routledge, 2008.）ISBN: 978-0415883917（特に、2.Marya Schechtman, "Staying Alive: Personal Continuation and a Life Worth Having", 6.Catriona Mackenzie, "Imagination, Identity and Self-Transformation"）

Haslanger, Sally 『Resisting Reality』（Oxford University Press, 2012.）ISBN:978-0199892624（特に5. "Feminism and Metaphysics: Negotiating the Natural.", 7. "Gender and Race: (What) Are They? (What) Do We Want Them To Be?", 13. "What Are We Talking About? The Semantics and Politics of Social Kinds"）

Witt, Charlotte 『The Metaphysics of Gender』（Oxford University Press, 2011.）ISBN:978-0199740406

秋葉剛史・倉田剛・鈴木生郎・谷川卓 『ワードマップ現代形而上学: 分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』（新曜社, 2014年.）ISBN:978-4788513662（特に「第1章人の同一性」、「第5章普遍」）

上記の文献のほか下記の論文を扱う予定です。英語の文献はオンラインで閲覧可能です。

Bach, Theodore.(2012). "Gender is a natural kind with a historical essence." *Ethics* 122.2: 231-272.

Dembroff, Robin. (2019) "Beyond binary: genderqueer as critical gender kind." *Philosopher's Imprint*.

Jenkins, Katharine. (2016). "Amelioration and inclusion: Gender identity and the concept of woman". *Ethics*, 126(2), 394-421.

-----.(2018). "Toward an account of gender identity". *Ergo*, 5(27), 713-744.

木下頌子.(2020)「現実に立ち向かうための分析フェミニズム」『現代思想』第48巻第4号, 272-282.

哲学(特殊講義)(3)へ続く

哲学(特殊講義)(3)

(関連URL)

<https://transinclusivefeminism.wordpress.com/>(「トランスフォビアへの抵抗とトランスインクルーシブなフェミニズムのためのリソース集」授業でトランスライツに関連する話題を扱います。こちらのサイトでは日本および英米のトランス排除の現状や専門書の紹介などが掲載されており参考になります。)

[授業外学修(予習・復習)等]

予習は不要です。復習として配布資料の内容を確認の上、不明点や疑問点を明らかにしておいてください。

授業の配布資料はすべて日本語ですが、英語で分析哲学の文献をある程度読めるとレポート課題に取り組みやすくなります。

(その他(オフィスアワー等))

授業において女性差別、トランスフォビア、レイシズムなどの具体的な差別問題に言及することがあります。こうした主題について議論する場合、誰もが発言の機会を奪われないよう公正な環境を整えることが欠かせません。授業に参加することをもって受講生はハラスメント防止への協力に同意しているものとします。たとえば、学術的な批判や個人の経験の共有などをのぞき、自分が受けた印象から個人または集団のジェンダー、セクシュアリティ、国籍やルーツ、信条を決めつけること、問いただすことや侮辱することをこの授業では許容しません。繰り返し違反した場合、教員の判断で退室してもらうこともあります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系2

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学大学院総合文化研究科 藤川 直也 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		語用論の基礎と応用言語哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>現代語用論の基礎と応用言語哲学について学ぶ。</p> <p>(1) 現代語用論の基礎：言葉を用いたコミュニケーションは、私たちが日々行う協調的な活動を支える基本的な仕組みの一つであると同時に、それ自体が協調的な活動でもある。本講義の前半では、現代語用論の礎となっているいくつかの理論的概念（会話的推意、共通基盤、発語内行為）をそれらの出自にまで辿って紐解きながら、コミュニケーションにおける協調性の役割を詳らかにする。</p> <p>(2) 応用言語哲学：私たちは協調的なコミュニケーションを可能にするためのさまざまな仕組みを共有している。ここではそうした仕組みの中でも、特に言葉の意味や使い方に関する社会で共有された取り決めをコミュニケーションインフラと呼ぶ。本講義の後半では、人工物としてのコミュニケーションインフラの可変性、コミュニケーションインフラに対する脅威としての様々な言葉の悪用、多様性と包括性を踏まえたコミュニケーションインフラの改良について論じる。</p>											
【到達目標】											
<p>現代語用論の基礎概念とその理論的背景を理解する。</p> <p>言語哲学を実社会の問題への応用する手法について学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に講義形式で行う。グループディスカッションの時間も設ける。</p> <p>(1) 語用論の基礎</p> <p>(i) グライスのコミュニケーション理論</p> <p>第一回 グライスのコミュニケーションの一般理論</p> <p>第二回 会話的推意</p> <p>第三回 協調性と合理性</p> <p>(ii) 言語行為と共通基盤：私たちは言葉で何をやり取りしているのか</p> <p>第四回 発語内行為と共通基盤の変化</p> <p>第五回 相互信念としての共通基盤</p> <p>第六回 相互コミットメントとしての共通基盤</p> <p>第七回 中間のまとめ</p> <p>(2) 応用言語哲学</p> <p>(iii) コミュニケーションインフラとは？</p> <p>第八回 協調的なコミュニケーションを可能にする仕組みとしてのコミュニケーションインフラとその可変性：概念工学と言語行為工学</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

(iv) コミュニケーションインフラに対する脅威

第九回 言い逃れの意味論・語用論：ほのめかし、隠語、イチジクの葉ともっともらしい否認可能性

第十回 欺きが生み出す不信と過信

第十一回 言葉の意味を捻じ曲げる：意味をめぐる争いと言葉のハイジャック

第十二回 コミュニケーションインフラに対する脅威にどのように立ち向かうか

(v) コミュニケーションインフラを改良する

第十三回 「私たちのインフラ」とは誰のインフラなのか：解釈的不正義、言語行為的不正義、コミュニケーション弱者とインフラの整備

第十四回 コミュニケーションをゆるめる

第十五回 全体まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業内に4回程度出題する課題に基づいて評価する。

[教科書]

教科書はとくに使用しない。適宜資料をこちらから配布する。

[参考書等]

(参考書)

Herman Cappelen and Josh Dever 『Bad Language』 (Oxford University Press, 2019) ISBN:978-0198839651

澤田智洋 『ガチガチの世界をゆるめる』 (百万年書房, 2020)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業時に指示する課題に取り組むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系3

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 文学部 教授 品川 哲彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		形而上学の触発 Hans Jonasを手がかりに									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学とは、ふだんあたりまえと思われていることがらを根本から考えなおす営みである。その問いは、経験によっては証明できず、経験を可能にする思索の枠組みを問う営み、形而上学へと私たちがいざなってやまない。本講義は20世紀のドイツ出身のユダヤ人哲学者ハンス・ヨナスの提示した問いを糸口・撚り糸として、伝統的な形而上学の問いが、上述の哲学の営みという意味で現代なおもっているアクチュアルな意味を探究する。</p>											
【到達目標】											
<p>ハンス・ヨナスは、ユダヤ-キリスト教の伝統からみて異教/異端の思想であるグノーシス思想の研究を出発点として、独自の生命の哲学、未来世代の人類に対する現在世代の責任、ホロコーストの後に神を考える可能性を考察した。このかなり独特な哲学者の思索を触発剤・撚り糸として(したがって、この哲学者についての「知識を得る」ことが本来の目的ではない)、本講義は、(1)哲学史の伝統的な思想の意味を新たに発見しようとする新鮮な感受性、(2)自明と思われていることをあらためて考えなおす柔軟な思考力、を養うことを目的としている。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イントロダクション 本講義の問題設定 第2回 ハンス・ヨナス その哲学史的な位置づけ 第3回 古代・中世から近代へ 目的論的自然観から機械論的自然観へ 第4回 グノーシス思想 キリスト教発生と同時代にあった別の信仰の可能性。この世界は荒地か 第5回 自由の問題 自由、悪、個 第6回 デカルト 真理の明証説と他者としての神 第7回 カント 形而上学批判とそれでもなお残る自然の目的についての臆測 第8回 フッサール 他者としての人間。相互主観的真理観の成立。 第9回 ハイデガー 実存分析と形而上学批判 第10回 ヨナス(1) 実存分析とグノーシス思想との結合 第11回 ヨナス(2) 人間を自然のなかに位置づける自然哲学の試み 第12回 ヨナス(3) 地球環境危機と未来倫理。人類が存続すべき理由 第13回 ヨナス(4) アウシュビッツ以後の神。もはや救済する神はいない 第14回 ヨナス(5) 宇宙論。妄想か、正統的な問題提起か。 第15回 反時代的な思想がもっている時代性</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加（40点）、レポート（60点）により評価する。レポートは、(1)主題が講義内容に対応する知識の的確な理解にもとづいているか、(2)主題としてとりあげた問題とそれにたいする見解とがどれほど論理的に結びついているか、を基準として評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講義中にとったノートをよく読み直すこと。
授業中に紹介した文献のなかで興味のもてたものについて、自分で調べてレポート執筆に備えること。

（その他（オフィスアワー等））

シラバスは変更することがある。
担当者のメールアドレス: tsina[at]kansai-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系4

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		生物学の哲学 (Philosophy of Biology)									
【授業の概要・目的】											
<p>人文科学 (Humanities) は、その名の通り、人間の営みを理解する試みである。しかし人間も生物界の一員である限り、人間本性への探求は、必然的に生物としてのヒトの理解を伴っていなければならない。実際、19世紀のダーウィン進化論の誕生以降、生物学は我々の人間観・道徳観・社会観に対して大きな影響を及ぼしてきた。本授業では、現代の生物学の哲学(Philosophy of biology)における議論を参照しつつ、生物学の哲学的含意を考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 進化生物学の理論的構造を理解する - 生物学の哲学的・社会的含意を理解する - 現代科学哲学の論文を読めるようになる 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 初回オリエンテーション 2. 進化論とは何か (2回) <ul style="list-style-type: none"> - ダーウィンとメンデル - 集団遺伝学の成立と20世紀の進化生物学 3. 進化論の理論的構造 (3回) <ul style="list-style-type: none"> - 本質思考と集団思考 (Mayr) - 進化はトートロジーか? 20世紀生物学哲学の見解 - 進化論における説明 4. 自然のうちの合目的性 (3回) <ul style="list-style-type: none"> - 目的論の歴史 - 現代進化論における「機能」と「目的」 - 適応主義とエージェント思考 5. 利他性 (2回) <ul style="list-style-type: none"> - 進化ゲーム理論 - 利他性の進化 6. 進化論と社会 (3回) <ul style="list-style-type: none"> - 優生学 - 人種の遺伝学 7. 予備・まとめ (1回) 8. フィードバック 											
----- 哲学(特殊講義) (2)へ続く -----											

哲学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

- 単元ごとの課題 (30%)
- 期末レポート (70%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

森元良太、田中泉吏 『生物学の哲学入門』 (勁草書房)

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前に、配布された資料・論文などに目を通しておくこと。また単元ごとに理解度を確認するための課題を課す予定。

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系5

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 社会科学総合学院 教授 千葉 清史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	どうやったら正しい解釈に到達できるのか? : 『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」を題材として										
[授業の概要・目的]											
<p>哲学的テキストを十分に理解するためには、ただ漫然と読んでいただけではダメである。要所要所で読解のための「補助線」を引き、また適切な解釈的問いを立てていくことが必要だ。(《仮説を立て、検証する》という手続きは文献解釈でも必要なのだ。)さて、適切な解釈的問いを立て、「正しい」解釈に到達するためにはどのようにしたらよいのか?</p> <p>本講義では私は、特にイマヌエル・カント(著)『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」(以下「アンチノミー論」と略記)を題材とし、初学者が、どのような点に注目し、そしてどのような解釈的問いを立てていけば、テキストをより深く/明瞭に理解することができるようになるかを示したいと思う。</p> <p>本講義は、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の方式で行なわれる。すなわち、たんに講師が一方的に情報提供を行う、というやり方ではなく、履修者のみなさんに実際に当該テキストを読み、試行錯誤し、議論してもらおう(おそらく小グループをいくつか作り、議論することになるだろう)。その点で、本講義は、通常の「講義」というよりは「実習」に近い。私の助言を参考にしつつ、実際に解釈実践を積むことで、解釈スキルを養成することこそが、本講義のねらいである。</p> <p>なお、時間的制限により、本講義ではアンチノミー論の全てを扱うことはしない。検討対象となるのは次の箇所である: 第一節、第二節(特に第一アンチノミー)、第六節、第七節、第九節(特に数学的アンチノミーの解決(A532/B560まで))。また、最終日には、アンチノミー論と類似の論証構造を持つ『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスムス」の解釈の実践を通じて、各自の解釈スキル向上の達成度を確認する予定である。(ただし、履修者のレベルに合わせて、進度は柔軟に変更していく。)</p> <p>本講義は、カント哲学についての基礎知識を持っていない が学習意欲はある 学部生がついていけるようなレベル設定にするが、大学院生であっても、さらには『純粋理性批判』を専門とする研究者であってすら、十分学ぶべきことがあるような内容となるはずである。(とりわけ4日目の講義では、かなり高度な内容を扱う。)大学院生の受講者は、毎回の課題をこなすことに加え、私が提示する解釈にも批判的な検討を加えることで、自らの議論構成力を向上させるよう努めていただきたい; そのためのアドバイスは積極的に行ないたいと思う。意欲あるみなさんの参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>本講義を最後まで聴講するならば、結果的に、アンチノミー論全体についてのかなり明瞭な理解が得られることだろう。しかし、本講義の眼目はむしろ、解釈スキルの養成にある。すなわち、テキスト読解に際して、履修者のみなさんが自分自身で適切な解釈的問いを立て、自ら解釈の精度を高めていけるように「なる」ことこそが、本講義の目標である。</p> <p>また、大学院生の参加者はさらに、本講義を通じて、自発的にさまざまな解釈的問いを立て、それらを自分の目的に合わせて使い分ける手法を学び取ってほしい。この技能は論文執筆 特に修士論文や博士論文 にあたって、その全体の論証構成を設定(して論文全体のねらいを明確化する)ために重要となることだろう。</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[授業計画と内容]

[1日目] 読解のための着手点を築き上げる

事前課題：アンチノミー論（のうち本講義で扱う箇所；上述）を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭にまとめてくる；レジュメを持参することが望ましい。また、第2回・第3回講義で検討するので、特にアンチノミー論第一節と第六節を詳しく読んでくること。

*この段階で十全な解釈を提示できる必要はない。この課題の眼目は、現時点での、みなさんの理解を確認することにある。（これについては以下の課題でも同様。）

第1回：履修者間での相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する / 読解上の基礎知識の解説(1)〔『純粹理性批判』概説 / 「アンチノミー」とは何か〕

第2回：読解上の基礎知識の解説(2)〔アンチノミー論の『純粹理性批判』全体における体系的位相 / 認識能力（感性、悟性、理性、（継起的）綜合、等々）についてのカントの理説 / 中心概念「条件の系列Reihe der Bedingungen」（第一節）；他にも基礎知識についての質問があれば受け付ける〕

第3回：解釈上の補助線の提示(1) / アンチノミー論理解のカギとなる「超越論的實在論 / 超越論的觀念論」について（第六節）

[2日目] アンチノミー論第七節（アンチノミーの一般的解決）の読解

事前課題：前回講義で提起された解釈上の補助線に留意しつつ、第七節を各自で読み、そこで展開されている議論についての自分の理解をまとめてくる；レジュメ持参が望ましい。

第4回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する

第5回：第七節の解釈上の問題提起 / 統一的解釈の提示

第6回：解釈上の補助線の提示(2)：アンチノミー解決の観点からアンチノミー導出（第二節）の議論を振り返るとどうなるか？

[3日目] アンチノミー論第二節（諸アンチノミーの導出）の読解

事前課題：前回講義で配布する論文（15頁程度；日本語）を参考にしつつ、第二節の特に第一アンチノミーの導出の箇所を読み、定立・反定立の証明についての自分の理解をまとめてくる；レジュメ持参が望ましい。

第7回：課題の相互発表 / アンチノミー導出の統一的構造の把握

第8回：アンチノミー導出 & 解決の統一的構造　すなわちアンチノミー論の全体像　の把握

第9回：(1)問いの変更：アンチノミー論そのものの理解ではなく、超越論的觀念論の主張内容の解明を主眼とするように解釈的問題設定を変更したらどうなるか？（自分の意図や目的に合わせて解釈的問いを変更する仕方を学ぶ） / (2)次回のための問題提起：カントの超越論的觀念論によるアンチノミー解決によれば、条件の系列は有限でもなければ実無限でもない；それは可能無限である。さて、条件の系列が「可能無限である」とはどのようなことなのか？ここには、たんに「可能無限」という語の意味を調べればよい、というだけではすまない重大な問題が存する。この問題について予告的に紹介し、次回への準備とする。

[4日目] カントのアンチノミー解決を深掘りする

ねらい：現代の分析哲学や数学の哲学の道具立てを援用することによって、ただテキストを読んでいただいただけでは出てこないような新たな解釈的問いが立てられるようになり、このことを通じてテキスト解釈をさらに深めていくことができることを体験する。

事前課題：前回講義の問題設定を参考にして、アンチノミー論第九節の、とりわけ第一アンチノミーの解決の箇所（A517-523/B545-551）を読み、その内容についての自分なりのイメージを作っておく；レジュメ持参が望ましい。また、「実無限 / 可能無限」の区別についてインターネット等を用いて簡単に調べてくること。

哲学(特殊講義)(3)

第10回：課題の相互発表 / カント解釈上の問題 / 「可能無限」概念そのものをめぐる問題

第11回：直観主義数学を導きの糸として、可能無限の最初のモデルを得る

第12回：次回のための問題提起：(1)直観主義数学から得た成果を（カントの超越論的観念論が扱う）経験的領域に適用しようとする際に生じる問題の紹介（monotonicity, publicness, defeasibility）。(2)『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスムス」は、アンチノミー論と非常によく似た論証構造を持っている。この箇所解釈の実践を通じて、今までの学習成果を確認する。

[5日目] これまでに学んできたスキルを活用してみる

事前課題：今までの講義内容（とりわけ、解釈上の問いの立て方）を参考にして、第一版「第四パラロギスムス」を各自で読み、そこで展開されている議論を可能な限り明瞭な仕方でもとめた発表レジュメを作成して持参する（自分用と提出用の2部；成績評価に使用する）。

第13回：直観主義数学から得た成果を経験的領域に適用する際の諸問題の解決のアウトラインを紹介

第14回：課題の相互発表 / 各自の解釈スキルがどの程度向上したのかを確認

第15回：第一版「第四パラロギスムス」の統一的解釈 / 超越論的観念論をめぐる解釈上の問題の提示 / 全体の総括

【履修要件】

特に設けない。すなわち、『純粋理性批判』の基礎知識を持っている、といったことを履修要件とはしない。ただし、毎回の課題をこなす そのためには少なくとも、自分自身でカントのテキストを読む必要がある 用意と覚悟のある人のみ本講義を受講していただきたい。

【成績評価の方法・観点】

(1) 第1～4日の事前課題：それぞれ10%（計40%）

(2) 第5日の事前課題：20%

(3) 講義中の議論（グループ / 全体ディスカッション）への貢献：40%

【教科書】

イマヌエル・カント、『純粋理性批判』 どの訳でもかまわないので、入手すること。（岩波文庫（篠田訳）、光文社古典新訳文庫（中山訳）はお勧めしない。安価で入手可能なものとしては、『世界の大思想』シリーズ（高峯訳）がお勧め。）

講義では基本的に日本語訳を用いるが、ドイツ語原文や英訳を参考にできる人はそうすることを強くお勧めする。

【参考書等】

（参考書）

入門書

・御子柴善之、『自分で考える勇気：カント哲学入門』，岩波ジュニア新書，2015年。（カント哲学について全く / ほとんど知らない人が全体像を理解するためにはこの本がよいだろう。）

・御子柴善之、『シリーズ 世界の思想：カント 純粋理性批判』，角川選書，2020年。（『純粋理性批判』全体の流れを理解するのに便利。とりわけ初心者が苦勞する、個々のテキスト箇所の理解のために必要となる前提知識をわかりやすく説明してくれる。）

・中島義道、『『純粋理性批判』を噛み砕く』，講談社，2010年。（アンチノミー論の、特に冒頭部、第一節、第二節を詳細に解説したもの。カントによるアンチノミー導出の議論（第二節）をよ

哲学(特殊講義)(4)へ続く

哲学(特殊講義)(4)

りよく理解したい人は、本書にあたるとよい。)

・有福孝岳(他)編, 『カント事典 縮刷版』, 弘文堂, 2014年。(わからない言葉が出てきたらこれで調べよう。)

研究書

・Henry Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004。(今日の『純粋理性批判』研究のための必読書。)

・ヘンリー・アリソン, 『カントの自由論』, 法政大学出版局, 2017年(原著1990年)。(本講義では取り扱われない、第三アンチノミーの解決に関心がある人は、本書の第1部にあたるとよい。)

・Jonathan Bennett, Kant's Dialectic, Cambridge University Press, 1974。(本講義では取り扱われない、カントによる個々のアンチノミー導出の議論が詳細に検討されている。)

・Kiyoshi Chiba, Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit, Walter de Gruyter, 2012。(本講義の先にさらに何があるのかに興味がある人は、この本の第4章と第7章を見るとよい。)

・P.F. ストロウソン, 『意味の限界: 『純粋理性批判』論考』, 勁草書房, 1987年(原著1966年)。「分析カント」の創始。今日でもなお啓発的な多くの洞察を含んでいる。)

*ほかの参考文献については講義中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

上述の、毎回の事前課題を着実にやってくることで、そして何よりも、『純粋理性批判』の当該箇所を自分自身で読み込んでおくことが必要となる。とりわけ、最初の二日分の事前課題のために読むべき分量は多いので、これらに関しては講義開始前に準備しておくことをお勧めする。(実際のところ、第1日目・2日目の課題のための準備を事前に十分に済ませておけば、第3日目以降の課題のために必要となる時間はそれほど多くはならないはずだ。)

また、『純粋理性批判』についての基礎知識は履修のための必要条件ではないが、あれば本講義をより有意義にできることは間違いない。上述「参考書」の「入門書」に挙げてある文献のほか、各自でいろいろと模索してみるとよいだろう。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先メールアドレス:

kchiba.f@outlook.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系6

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 坂本 尚志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 1960年代フランスにおける概念の哲学の系譜									
【授業の概要・目的】											
20世紀の思想を扱う場合に無視できない重要性を持つメディアである「雑誌」ならびにそれが表象する場をいかに分析できるのかを考察する。特に、少人数のグループによって少部数が編集・刊行されたのみにもかかわらず、同時代の思想に影響を与えた雑誌に着目する。具体的には、1960年代後半にパリの高等師範学校生によって刊行された2つの雑誌『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』を対象とし、刊行の背景、内容、同時代ならびに後世に与えた影響について、所収されたいくつかのテキストを読解しつつ考察する。これらの内容により、雑誌と内在的諸構造の分析ならびにその歴史的、思想的文脈の再構成に関する方法論的知見を身に付けることを目指す。											
【到達目標】											
雑誌を対象とした思想史的分析の方法を理解する 1960年代フランス思想史の基本的論点について説明できる 哲学・思想に関するテキストを読解し、その論点について説明できる											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、進行状況や受講生の関心や議論の内容等に応じて適宜順序、内容を変更する場合がある。											
第1回 イントロダクション 1960年代のフランス思想と「概念の哲学」											
第2回 高等師範学校という舞台											
第3回 アルチュセール、ラカン、カンギレム 2つの『手帖』誕生の背景											
第4回 『マルクス=レーニン主義手帖』と『分析手帖』 分裂と発展											
第5回 『分析手帖』の考察 - 精神分析											
第6回 『分析手帖』の考察 - マルクス主義											
第7回 『分析手帖』の考察 - エピステモロジー											
第8回 『分析手帖』の考察 - スピノザルネサンス											
第9回 『分析手帖』における論争 - ミレールとバディウ											
第10回 『分析手帖』とフーコー 「エピステモロジーサークルへの回答」											
第11回 『マルクス=レーニン主義手帖』 - その成立を探る											
第12回 『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』 - 文学をめぐる対立											
第13回 68年5月の衝撃 - 2つの『手帖』の終焉											
第14回 廃墟だったのか、それとも未来への種子だったのか？ 2つの『手帖』の意義											
第15回 フィードバック											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業参加等）50%
最終レポート50%

[教科書]

授業で使用する資料については、事前にアップロードあるいは当日配布する。

[参考書等]

（参考書）

上野修、米虫正巳、近藤和敬編 『主体の論理・概念の倫理 20世紀フランスのエピステモロジーとスピノザ主義』（以文社、2017年）ISBN:978-4753103386（坂本尚志「構造と主体の問い 『分析手帖』という「出来事」」（169-191ページ））

フランソワ・ドゥス 『構造主義の歴史 上 記号の沃野 1945~1966年』（国文社、1999年）ISBN:978-4772004626

フランソワ・ドゥス 『構造主義の歴史 下 白鳥の歌1967~1992』（国文社、1999年）ISBN:978-4772004633

Peter Hallward and Knox Peden 『Concept and Form, 2 vols.』（Verson, 2012）

（関連URL）

https://doi.org/10.20634/ellf.115.0_255(坂本尚志「『分析手帖』と『マルクス=レーニン主義手帖』1960年代フランスにおける学知、革命、文学」)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

質問事項については、授業前後に問い合わせるか、メールにてお願いします。
メールアドレスは授業中にお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系7

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		証明と論理：論理学革命の帰結									
【授業の概要・目的】											
<p>数学の証明は古来より哲学者の興味の対象となってきた。とはいえ、証明の何がそんなに興味深いのだろうか。本講義では、ハッキング『数学はなぜ哲学の問題になるのか』を横におきつつ、さまざまな観点から証明について考えてみたい。その中でも、19世紀後半から急速に発展した「数学の証明を分析する数学」としての論理学がもたらした見方の変化に注目して話を進める。</p>											
【到達目標】											
<p>哲学の主要分野のひとつである数学の哲学についての基本的な知識を身につける。ある主題について哲学的に考えるにあたって、どの程度その主題にかんする知識を習得し、どのような距離感とともに考察するのかという感覚を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下は取り上げるトピックの暫定的なリストであり、受講者からの希望があればある程度変更も可能である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入：数学はなぜ哲学の問題になるのか 2. 推論のパラドクス 3. フレーゲの論理主義(1) 4. フレーゲの論理主義(2) 5. フレーゲの論理主義(3) 6. ヒルベルトの形式主義(1) 7. ヒルベルトの形式主義(2) 8. ライプニッツとデカルト 9. デカルト 10. ライプニッツ 11. 証明の機械化 12. 将棋AIと機械カニバリズム 13. 古代ギリシアの認知歴史学 14. 計算する生命 15. 総括 											
【履修要件】											
<p>論理学・数学についての知識はとくに前提しないが、全学共通科目ないし哲学演習Iで論理学を履修しているのが望ましい。</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回のコメントペーパー、数回の課題と、学期末のレポートで評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

イアン・ハッキング 『数学はなぜ哲学の問題になるのか』(森北出版、2017年)

[授業外学修(予習・復習)等]

数回の課題を通じて文献を読み進め、期末レポートに仕上げるというプロセスを想定している。授業の内容に固執せず、自分なりの興味を発展させてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系8

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		証明と論理：必然性と創造性									
【授業の概要・目的】											
<p>数学の証明は古来より哲学者の興味の対象となってきた。とはいえ、証明の何がそんなに興味深いのだろうか。本講義では、証明のもつ重要な、しかし相反するよう見える2つの性質、すなわち必然性と創造性について、いくつかの関連する観点から考えてみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>哲学の主要分野のひとつである数学の哲学についての基本的な知識を身につける。ある主題について哲学的に考えるにあたって、どの程度その主題にかんする知識を習得し、どのような距離感とともに考察するのかという感覚を身につける。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下は取り上げるトピックの暫定的なリストであり、受講者からの希望があれば変更も可能である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 推論のパラドクス：必然性と創造性 3. 証明は命題の意味を変えるのか 4. Logical Mustと自然主義 5. 証明と可能性 6. ダメットの証明論的意味論と实在論(1) 7. ダメットの証明論的意味論と实在論(2) 8. ダメットの証明論的意味論と实在論(3) 9. ダメットの証明論的意味論と实在論(4) 10. ブランダム の推論主義と客観性(1) 11. ブランダム の推論主義と客観性(2) 12. 証明と真理：完全性定理(1) 13. 証明と真理：完全性定理(2) 14. 証明と真理：完全性定理(3) 15. まとめ 											
【履修要件】											
<p>論理学・数学についての知識はとくに前提しないが、全学共通科目ないし哲学演習Iで論理学を履修しているのが望ましい。</p>											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回のコメントペーパー、数回の課題と、学期末のレポートで評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

数回の課題を通じて文献を読み進め、期末レポートに仕上げるというプロセスを想定している。授業の内容に固執せず、自分なりの興味を発展させてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系9

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 総合文化研究科 准教授 鈴木 貴之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人工知能の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>1970年代から80年代にかけての第2次人工知能ブーム期には、人工知能の可能性と限界に関して、哲学者を交えた活発な議論が行われていた。そこでは、人間のような知能をもつ人工知能を実現することが不可能だと主張する哲学者も少なくなかった。その後、深層学習などの新たな手法の発展によって、人工知能研究は飛躍的な進展を遂げた。この進展によって、過去の哲学者による批判は克服されたのだろうか。汎用人工知能や人工超知能の実現は時間の問題なのだろうか。</p> <p>この講義では、第2次人工知能ブーム期までの古典的な人工知能研究とそれに対する哲学的な批判を振り返るとともに、その後の人工知能研究の発展をたどり、現在の人工知能にはどのような原理的な課題や限界があるのかを検討したい。同時に、汎用人工知能の実現という文脈を超えて考えたときに、知的道具としての人工知能にはどのような可能性があるかということについても検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能研究の基本的な発想を理解する。 ・古典的な人工知能研究に対する哲学者の批判を理解する。 ・近年の人工知能研究の主要な手法の概略を理解する。 ・現在の人工知能の課題と限界について理論的な考察ができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>講義では、以下のテーマについて論じる予定である。それぞれのテーマについて、60分ほど講義をした後、30分ほどその内容について参加者全員で議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工知能研究の基本的発想 2. 古典的人工知能研究：演繹的推論 3. 古典的人工知能研究：探索 4. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：意味理解 5. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：関連性 6. 現代の人工知能研究：機械学習 7. 現代の人工知能研究：深層学習 8. 現代の人工知能研究：強化学習 9. 人工知能と人間の心：視覚情報処理 10. 人工知能の人間の心：自然言語処理 11. 人工知能と人間の心：運動制御 12. 現代の人工知能研究の課題と限界：汎用知能は可能か 13. 現代の人工知能研究の課題と限界：身体的重要性 14. 現代の人工知能研究の課題と限界：道具としての人工知能 15. まとめ 											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への参加（30％）とレポートの内容（70％）によって評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

メラニー・ミッチェル 『教養としてのAI講義』（日経BP）ISBN:978-4296000128

谷口忠大 『イラストで学ぶ人工知能概論』（講談社）ISBN:978-4065218846

その他の参考書は授業中に随時紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前の予習はとくに必要ありませんが、上記の参考書に目を通しておくと見通しがよくなると思います。

（その他（オフィスアワー等））

講義の前に最新の授業計画をKULASISの授業ページにアップする予定です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系10

科目ナンバリング		G-LET01 65131 LJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(特殊講義) Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		統計学の哲学(発展)									
【授業の概要・目的】											
統計学は、現代の科学的・帰納推論において特権的な役割を果たしている。本授業では、前年度開講の「統計学の哲学入門」の内容を踏まえ、統計学の哲学的側面および含意について、入門レベルより一歩踏み込んだ考察を行う。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 統計学や行為決定論など、現代における帰納推論の枠組みを理解する - 統計学の背後にある哲学的な見方を理解する - 特に階層ベイズやブートストラップ等、現代統計学の主要なアイデアと、内在/外在主義認識論や可能世界などの哲学的概念と統計学の関わりを理解する 											
【授業計画と内容】											
全体を大きく(1)基礎・入門的課題、(2)ベイズ統計、(3)頻度主義統計、(4)発展的課題、に区分けし、各回について3#123164回ほどの授業を行う											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・入門的課題 <ul style="list-style-type: none"> - 初回オリエンテーション - 統計学の哲学の基礎(2回) - 統計学の存在論と認識論 - ベイズ統計と古典統計 2. ベイズ統計 <ul style="list-style-type: none"> - 意思決定理論と確率の表現定理 - 階層ベイズ - 計算ベイズ 3. 頻度主義 <ul style="list-style-type: none"> - 尤度原理の問題 - 信頼区間と可能世界 - ブートストラップ統計の認識論 4. 発展的課題 <ul style="list-style-type: none"> - 情報幾何学 - 因果推論と情報幾何 <ul style="list-style-type: none"> - 予備・まとめ(1回) - フィードバック 											
----- 哲学(特殊講義)(2)へ続く -----											

哲学(特殊講義)(2)

【履修要件】

2021年度開講の「統計学の哲学」を受講済み、ないしその教科書『統計学を哲学する』を通読していること。

【成績評価の方法・観点】

- 単元ごとの課題・小レポート（40%）
- 期末レポート（60%）

【教科書】

大塚淳 『統計学を哲学する』（名古屋大学出版会）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

【授業外学修（予習・復習）等】

各授業前に、指定された参考図書を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

火曜日2限または個別予約

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系11

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題を取りあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。</p> <p>このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。</p> <p>また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理学とは何をする学問か 形式言語 最小命題論理の -導入規則および除去規則 最小命題論理の 、 -導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学 											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』 (東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』 (日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』 (Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/ (授業 Blog)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1 or 2 日前)にwebsite (PandA) にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系12

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを旨とする。</p> <p>後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。最後に、論理学の話題として、授業の進展にあわせながら、受講生の希望を踏まえ発展的な課題を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介1)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介2)

(受講生の希望を踏まえたエクストラな話題の紹介3)

[履修要件]

前期の演習「論理学1」を履修すること

[成績評価の方法・観点]

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

[教科書]

毎回ハンドアウトを配布する。

[参考書等]

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』(Dover)

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系13

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと講読文献の説明 2. 「前書」と題目(3-7) 3. 「感じ取られる自由の確実性と自由の体系的概念の問題」及び「汎神論概念の諸解釈・その1」(9-12/35) 4. 「汎神論概念の諸解釈・その2」(12/36-16/18) 5. 「汎神論概念の諸解釈・その3」(16/18-21/20) 6. 「汎神論概念の諸解釈・その4」及び「<観念論的・普遍的自由概念>対<人間の生ける自由概念>」(21/21-25/14) 7. 「悪への能力としての人間の自由の問題系(現実性の神的起源に鑑みつつ)」(25/15-29/19) 8. 「自然哲学的演繹(啓示の原理の内的二重性)」(29/20-34/27) 9. 「悪の可能性の演繹・その1」(34/28-39/3) 10. 「悪の可能性の演繹・その2」(39/4-42/16) 11. 「悪の可能性の演繹・その3」(42/17-45/7) 12. 「悪の現実性の演繹・その1」(45/8-48/3) 13. 「悪の現実性の演繹・その2」(48/4-52/29) 											
----- 哲学(演習)(2)へ続く -----											

哲学(演習)(2)

14. 西谷啓治「悪の問題」
15. フィードバック

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)
西谷啓治 『西谷啓治著作集第6巻・宗教哲学』 (創文社)

[参考書等]

(参考書)
シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)
F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系14

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4) 6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29) 7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10) 8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17) 9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8) 10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31) 11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87) 12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」 13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ペーメの意志-形而上学について」 14. 総括と総合討論 15. フィードバック 											
----- 哲学(演習) (2)へ続く -----											

哲学(演習) (2)

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

[参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系15

科目ナンバリング		G-LET01 75141 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 戸田 剛文			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・リードの『人間の知的能力論』の読解									
【授業の概要・目的】											
スコットランド常識学派の代表者といわれるトマス・リードの『人間の知的能力論』を原典で読む。 リードは、近代イギリス経験論の影響をうけつつ、ロックからヒュームにいたる哲学者を批判した哲学者であり、その評価は近年ますます高まっている。知識とはどのようなものかを考える上でも、彼の議論は興味深い手掛かりをわれわれに与えてくれる。											
【到達目標】											
身近なテーマを用いることにより、普段、当然のように考えている概念がいかなるものであるのかを考察することで、常に深く考える思考力を身につける。											
【授業計画と内容】											
とくに担当者を決めず、数行ずつ訳してもらいながら進めていく。 途中で重要な人物や理論などについて、調べてもらって解説してもらう。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳、質問、議論などの平常点で判断する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
授業のテーマに関連することをさらに調べて自分なりの考えを発展させてください。 (その他(オフィスアワー等)) オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系16

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習Ⅰ) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		自己の哲学 Philosophy of Self									
【授業の概要・目的】											
<p>「自己とは何か」「自己はいかにして経験・意識されるのか」「我々はどのような自己を実現すべきなのか」自己をめぐるこれらの問題は、古今東西の哲学の大問題でした。またこれらの問題は、心理学・認知科学・精神医学・社会学などの分野でも盛んに論じられてきました。この授業では、講師が展開している「われわれとしての自己」という新たな自己観から、これらの問題にアプローチします。またパンデミック状況が許せば、海外の第一線の哲学的自己論の研究者をゲストスピーカーとして招き、「われわれとしての自己」とは異なった視点を交えた議論も行います。</p> <p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of the novel idea of self proposed by the lecturer; i.e., Self-as-We. If the pandemic situation allows, we will invite frontiers of philosophy of self from overseas, and discuss on those issues with them.</p>											
【到達目標】											
<p>受講者は、自己論に関連する様々なトピックに関する哲学的議論について、歴史的な経緯を踏まえた最先端の知識を得ることができると共に、それらの知識を活用しつつ哲学的な議論を展開するスキルを身につけることができる。</p> <p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to philosophy of self (I) Modern Western Philosophy 哲学的自己論入門 (I) 西洋近世哲学</p> <p>2 Introduction to philosophy of self (II) Eastern Philosophy 哲学的自己論入門 (II) 東洋思想</p> <p>3 Introduction to philosophy of self (III) Contemporary Philosophy 哲学的自己論入門 (III) 現代哲学</p> <p>4 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (I) 「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (I)</p> <p>5 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (II) 「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (II)</p> <p>6 From Fundamental Incapability of 'I' to Self-as-We (III) 「根源的できなさ」から「われわれとしての自己」へ (III)</p> <p>7 We-turn in Ethics and Moral Responsibility (I)</p>											
----- 哲学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

- 「WE-ターン」倫理と道徳的責任 (I)
8 We-turn in Ethics and Moral Responsibility (II)
「WE-ターン」倫理と道徳的責任 (II)
9 We-turn in Wellbeing (I)
「WE-ターン」ウェルビーイング (I)
10 We-turn in Wellbeing (II)
「WE-ターン」ウェルビーイング (II)
11 We-turn in Rights and Legal System
「WE-ターン」権利と法体系
12 Self-as-We vs. Other Views on Self (with a Guest Speaker(s))
「われわれとしての自己」を巡って (海外ゲストスピーカーとの共同討議)
13 Summary
まとめと振り返り

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Report 50% and Performances in classes 50%
期末レポート50% 授業での発表・議論参加 50%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

Students are expected to attend each session after having read all materials for discussions. Graduates students are also expected to lead discussions in the seminar.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系17

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 出口 康夫			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Philosophy of Self II									
【授業の概要・目的】											
<p>What is self? How is self experienced? What should self be? Those questions are among the most important ones for the Western and Eastern philosophies for millennia. They have been also much discussed in such fields as psychology, cognitive science, psychiatry and sociology. This seminar will explore those questions from the perspectives of contemporary philosophy and Eastern philosophical traditions, focusing on the teacher's own idea of self: Self-as-We, and exploring its applications to numerous topics.</p>											
【到達目標】											
<p>Students can obtain up-to-date knowledge of philosophical discussions in such areas as metaphysics, philosophy of mind and action, phenomenology, and analytic Asian philosophy, and also acquire skills of philosophical argumentation, critical reading of philosophical texts, articulation and presentation of their own ideas.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 Introduction to Philosophy of Self 2 A Brief Summary of Self-as-We (I) 3 A Brief Summary of Self-as-We (II) 4 Self-as-We and Other Theories on Self (I): Classical Alternatives 6 Self-as-We and Other Theories on Self (II): Contemporary Alternatives 7 Self-as-We and Other Theories on ' We ' (I): Classical Alternatives 7 Self-as-We and Other Theories on ' We ' (II): Contemporary Alternatives 8 On Criticisms against Self-as-We (I) 9 On Criticisms against Self-as-We (II) 10 Applications of Self-as-We (I): Self-as-We Measure 11 Applications of Self-as-We (II): Digital Twin 12 Applications of Self-as-We (III): Business Ethics 13 Summary</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Report 50% and Performances in classes 50%											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Students are expected to attend each class after having read all the materials for discussions. Graduate students are also expected to lead discussions in the seminar.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系18

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		カルフォルニア州立大学 八木沢 敬 ノースリッジ校 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Higher-Order Metaphysics									
【授業の概要・目的】											
<p>"What exists? Objects. What are objects? They are things we can refer to by names." This conception of what exists is deeply entrenched in our way of thinking about reality. It assumes a strong tie between existence and reference by name: "No existence without potential nominal reference." Higher-order metaphysics rejects this assumption. It allows for existence where no name or any other singular term is available. In particular, it allows for existence where only a predicate is available and where only a sentence is available. This has deep and exciting implications in many areas of philosophy. We will examine what higher-order metaphysics precisely is and what its implications are for philosophy.</p>											
【到達目標】											
<p>We aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics in semantics of natural language. We strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<p>We will read the following online articles carefully and examine the exiting new area of research, higher-order metaphysics.</p> <p>(1) W. V. Quine, "On What There Is", Review of Metahysics, 1948. Available at: https://www2.southeastern.edu/Academics/Faculty/jbell/onwhatthereis.pdf</p> <p>(2) Lukas Skiba, "Higher-order metaphysics", Philosophy Compass, 2021;16:e12756. Available at: https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/phc3.12756</p> <p>We are scheduled to meet 15 times throughout the semester. In the meetings 1 - 7, we will read (1). In the meetings 8 - 14, we will read (2). The final meeting will be used for the "feedback" purposes to wrap things up.</p>											
【履修要件】											
<p>Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.</p>											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

Participation in class discussion and a term paper.

[教科書]

(1) W. V. Quine, "On What There Is", Review of Metaphysics, 1948. Available at:

<https://www2.southeastern.edu/Academics/Faculty/jbell/onwhatthereis.pdf>

(2) Lukas Skiba, "Higher-order metaphysics", Philosophy Compass, 2021;16:e12756. Available at:

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/phc3.12756>

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici 's Sample Philosophy Paper:

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email (takashi.yagisawa@csun.edu). Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系19

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 大塚 淳			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		哲学のための数学									
【授業の概要・目的】											
<p>古くプラトンの時代から、数学は哲学者の基礎的教養とされてきた。また20世紀以降の哲学議論においては、論理学や集合論などといった数学的道具立てが陰に陽に用いられてきた。実際、数学的思考は、高度に抽象的で一見「捉えどころのない」問題をモデル化し、思考に秩序と型を与えるという点で、哲学的思索にとって有益である。そこで本授業では、哲学に益すると目される限りでの抽象数学の基礎的な部分を概観し、それを用いて具体的な哲学的問題をモデル化することを学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - 集合、論理、群、圏など、現代数学の基本的な概念に慣れ親しむ - 数学的概念で哲学的問題をモデル化する方法を学ぶ - 注：本授業は取り扱われる数学理論に習熟することを目的とするのではなく、あくまでそれらの哲学的問題との関連性/使い所を知ることが主眼である。それぞれの理論をしっかりと理解するためには、別途専門の授業を受けられたい。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 導入 3. 集合(1) 4. 集合(2) 5. 論理 6. ブール代数 7. トポロジー 8. 群 9. 準同型性 10. 圏(1) 11. 圏(2) 12. 演習(1) 13. 演習(2) 14. 演習(3) 15. フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 哲学(演習 I) (2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ) (2)

[成績評価の方法・観点]

- 单元ごとの課題 (20%)
- クラス発表 (30%)
- レポート(50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<http://www.philosophy.bun.kyoto-u.ac.jp/junotk/ja/teaching.html>

[授業外学修(予習・復習)等]

要予習・復習。授業前に指定されたテキストを読んでくること。また单元ごとに宿題を出す。

(その他(オフィスアワー等))

Tuesday 10:30-12:00 or by appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系20

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		カリフォルニア州立大学 八木沢 敬 ノースリッジ校 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	演習	使用 言語	英語
題目		Higher-Order Metaphysics									
【授業の概要・目的】											
<p>We continue our examination of higher-order metaphysics from the first semester.</p> <p>"What exists? Objects. What are objects? They are things we can refer to by names." This conception of what exists is deeply entrenched in our way of thinking about reality. It assumes a strong tie between existence and reference by name: "No existence without potential nominal reference." Higher-order metaphysics rejects this assumption. It allows for existence where no name or any other singular term is available. In particular, it allows for existence where only a predicate is available and where only a sentence is available. This has deep and exciting implications in many areas of philosophy. We will examine what higher-order metaphysics precisely is and what its implications are for philosophy.</p>											
【到達目標】											
<p>We aim to obtain deep and accurate mastery of the contemporary analytic philosophical method by studying various connected topics in semantics of natural language. We strive to cultivate philosophical and linguistic abilities to enable us to engage in intellectual discussion of the highest degree of sophistication in English.</p>											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<p>We will read the following article carefully and examine the implications of higher-order metaphysics for the debate on tropes vs. universals.</p> <p>Lukas Skiba, "Higher-order metaphysics and the tropes versus universals dispute", <i>Philosophical Studies</i> (2021) 178:2805#82112827.</p> <p>Available at:</p> <p>https://doi.org/10.1007/s11098-020-01585-x</p> <p>We are scheduled to meet 15 times throughout the semester. In the meetings 1 - 7, we will go over the metaphysics of universals and tropes. In the meetings 8 - 14, we will read Skiba. The final meeting will be used for the "feedback" purposes to wrap things up.</p>											
【履修要件】											
Ability to use English in listening, speaking, reading, and writing.											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[成績評価の方法・観点]

Participation in class discussion and a term paper.

[教科書]

Lukas Skiba, "Higher-order metaphysics and the tropes versus universals dispute", *Philosophical Studies* (2021) 178:2805#82112827.

Available at:

<https://doi.org/10.1007/s11098-020-01585-x>

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Read the text, and be prepared to ask questions and express opinions during class discussion.

Here are three useful links:

James Pryor 's Guidelines on Reading and Writing Philosophy:

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

<http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html>

Angela Mendelovici 's Sample Philosophy Paper:

https://prezi.com/z4h1_fwilbxj/a-sample-philosophy-paper/

(その他(オフィスアワー等))

You are encouraged to ask questions inside and outside the classroom, in person or via email. Office hours are held by appointment; email me to make an appointment. All discussion in class and other communication concerning this course should be conducted in English. Do not be afraid to make a mistake (linguistic or philosophical). Keep a positive attitude about participation and speak up! Silence is NOT golden.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系21

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		論理学入門：完全性定理最速到達									
【授業の概要・目的】											
現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。古典述語論理のモデル論と証明論を学び、それを踏まえて、論理学の基本的な定理である完全性定理の証明を学ぶ。											
【到達目標】											
論理体系の定義の仕方、対象レベルとメタレベルの区別、数学的証明の方法など、哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。											
【授業計画と内容】											
1. 導入 2. 古典述語論理の言語(1)量化子 3. 古典述語論理の言語(2)帰納法 4. 古典述語論理のモデル論(1) 構造 5. 古典述語論理のモデル論(2) 量化 6. 古典述語論理のモデル論(3) 妥当性 7. 中間まとめ、問題演習 8. 古典述語論理の証明論(1) 公理と推論規則 9. 古典述語論理の証明論(2) 演繹定理 10. モデルと証明(1) 健全性定理 11. モデルと証明(2) 完全性定理 12. モデルと証明(3) 極大無矛盾集合 13. モデルと証明(4) ヘンキン集合 14. モデルと証明(4) 完全性定理最速到達 15. 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
宿題と学期末のレポートにより評価する											
【教科書】											
使用しない。レジユメを配布する。											
【参考書等】											
(参考書)											
大西琢朗 『論理学』 (昭和堂、2021年) ISBN:4812221048 (論理学のより哲学的な側面および発展											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

的な話題についてはこちらを参照のこと)

[授業外学修(予習・復習)等]

毎週、宿題を出題する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系22

科目ナンバリング		G-LET01 75143 SJ34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習 I) Philosophy				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 特定准教授 大西 琢朗			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		非古典論理入門									
【授業の概要・目的】											
現代哲学の論文を読み、書くために必要とされる論理学の基礎を習得する。代表的な非古典論理である様相論理と直観主義論理の完全性定理を学ぶ。											
【到達目標】											
可能世界意味論の取り扱い、異なる論理のあいだの比較の手法など、哲学の論文で用いられる論理を扱うための基礎的なスキルを習得する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 様相論理のモデル論(1) 様相とはなにか 3. 様相論理のモデル論(2) 可能世界意味論 4. 様相論理のモデル論(3) 対応理論 5. 様相論理の証明論(1) 公理と推論規則 6. 様相論理の証明論(2) 演繹定理 7. 様相論理の完全性定理(1) カノニカルモデル 8. 様相論理の完全性定理(2) 弱完全性と強完全性 9. 直観主義論理のモデル論(1) 数学的構成 10.直観主義論理のモデル論(2) 時間化・様相化された真理 11.直観主義論理の証明論 12.直観主義論理の完全性定理(1) Prime theory 13.直観主義論理の完全性定理(2) カノニカルモデル 14.おまけ：様相演算子としての否定 15.総括 											
【履修要件】											
同教員による前期の哲学演習Iを履修していることを前提とする。そうでない場合は、古典述語論理の完全性定理を学習済みであることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
宿題と学期末のレポートにより評価する。											
----- 哲学(演習 I)(2)へ続く -----											

哲学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない。レジユメを配布する。

[参考書等]

(参考書)

大西琢朗『論理学』（昭和堂、2021年）（論理学のより哲学的な側面および発展的な話題についてはこちらを参照のこと）

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、宿題を出題する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系23

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科	教授	出口	康夫
								文学研究科	准教授	大塚	淳
								文学研究科	特定准教授	大西	琢朗
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Graduate Students Seminar II									
【授業の概要・目的】											
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a Q & A session among students, then by tutorial comments from their supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of each student with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.											
【到達目標】											
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.											
【授業計画と内容】											
1 Guidance for philosophical presentations and discussions 2 to 13 Presentation by students											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Presentation 70%. Active participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----											

哲学(演習I) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar until a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations.

All students are required to prepare power-point materials written in English.

All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系24

科目ナンバリング		G-LET01 7M228 SB34									
授業科目名 <英訳>		哲学(演習I) Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科	教授	出口	康夫
								文学研究科	准教授	大塚	淳
								文学研究科	特定准教授	大西	琢朗
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語
題目		Graduate Students Seminar II									
【授業の概要・目的】											
At each session, two graduate students will give presentations on their research subjects basically in English. Each presentation will be followed by a session of Q & A among students, then by tutorial comments from his/her supervisors and finally by face-to-face tutorial meeting of him/her with his/her supervisors. The seminar is considered essential for master and doctor thesis writing of all graduate students.											
【到達目標】											
Students can acquire skills to make clear, well structured, and easy-to-follow presentations on philosophical topics, to raise incisive and productive questions even for the topics that are not familiar to them, and to give honest, definite and appropriate answers to those questions. They can also be given valuable advices from their fellow students and supervisors for their master and doctor theses.											
【授業計画と内容】											
1 to 13 Presentation by students											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
Presentation 70%. Active Participation to discussions 30%. Students are required to upload their papers and presentation materials to a shared on-file file box until a week before their presentations. Any delay in their uploading reduces their remarks.											
【教科書】											
使用しない											
----- 哲学(演習I) (2)へ続く -----											

哲学(演習I) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

Each presenter is required to upload their presentation material and/or paper and important references (chapters of books, journal papers and so on) to a drop box for the seminar a week before his/her presentation. The paper should accord with an official format of published paper including proper references to citations. All students are required to prepare power-point materials written in English. All doctor students are also required to prepare their presentations in English.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系25

科目ナンバリング		G-LET01 8M450 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
[授業の概要・目的]											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
[到達目標]											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 イントロダクション、ギリシア文字の読み方・書き方 第2回から第14回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第3課から第17課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また活用・変化を覚えてもらうために小テストを2・3回実施する。 期末試験 第15回 フィードバック（試験の解説、前期の復習）</p>											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
練習問題への取り組み（30%）、小テスト（20%）、試験（50%）で評価する。											
[教科書]											
水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
毎回課される練習問題に取り組む、活用・変化を覚えるために繰り返し自習することが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系26

科目ナンバリング		G-LET01 8M451 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Greek				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		古典ギリシア語を学ぶ									
【授業の概要・目的】											
<p>古典ギリシア語（アッティカ方言）の基礎を学ぶ。基本語彙や活用・語形変化を覚え、初級文法を習得することを目指す。辞書や文法書を片手に、古典ギリシア語で書かれた文献を自力で読むための基礎力を身に付けることが目的である。</p> <p>哲学、歴史、文学、数学、弁論、法律など、あらゆる学問の古典はギリシア語で書かれている。これらの古典を専門とする学生にとって古典ギリシア語の習得は必須である。西洋古代を専門としない学生にとっても、自らの専門の根源を知り、その研究を深めるために、古典ギリシア語は重要なツールとなるであろう。</p>											
【到達目標】											
<p>古典ギリシア語の基礎文法を理解する。 簡単な文章を読み、語形や構文の説明ができるようになる。 古典ギリシア語で書かれた文献の自主的な読解や、講読・演習などに取り組む語学力を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 第2回から第15回 古典ギリシア語初歩の解説 教科書の第18課から第36課までを解説する。毎回、文法事項の説明を45分、宿題の答え合わせ・解説を45分行う。また最後の3回は哲学・文学・歴史など履修者の関心に合わせて、短いテキストを講読する。</p>											
【履修要件】											
<p>前期の「ギリシア語（初級I）」を履修しているか、それに相当する文法知識を持っていること。 詳しくは初回のイントロダクションの際に相談すること。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>練習問題・講読への取り組みで評価する。また履修者数や学習状況によっては、授業内試験を実施する。</p>											
【教科書】											
<p>水谷智洋 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）</p>											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される練習問題に取り組み、語形変化・活用を覚えるための自習を行い、講読のために予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系27

科目ナンバリング		G-LET01 8M452 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の前半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第1節～第42節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
後期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系28

科目ナンバリング		G-LET01 8M453 LJ48									
授業科目名 <英訳>		哲学（語学） Latin				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 勝又 泰洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ラテン語文法									
【授業の概要・目的】											
ラテン語は、古代ローマ世界で使用されていた言語である。また、中世から近世にかけては、学術公用語としても用いられていた。イタリア語やフランス語など、いわゆる「ロマンス語」の源となっているのもこの言語である。本授業では、ヨーロッパ文化においてきわめて重要なこのラテン語の基礎文法を学ぶ。語形変化のシステムや基本語彙など記憶すべきことを逐一確実に記憶し、辞書などを参考にしながら実際の文章を読んでいくための準備を整えたい。											
【到達目標】											
ラテン語の文化的価値など、その概略を知ったうえで、語形変化のシステムと基本語彙を覚え、それらのある程度運用できるようになる。											
【授業計画と内容】											
下記教科書（全19課・82節（+付録分の2節））の後半部の内容を扱う。ラテン語の習得には多様な語形変化への習熟が不可欠である。あらゆる局面で徹底的な暗記と練習が求められることを覚悟して履修してもらいたい。											
第1回～第14回：教科書第43節～第82節 定期試験 第15回：試験フィードバック											
毎回の授業では、文法事項の解説を聞くことが中心となり、演習として、わずかながらではあるが、教科書にある練習問題を解いてもらう（この練習問題は、宿題とすることもある）。なお、授業で説明した事項の習熟度を確認するため、毎回小テストを実施する。											
【履修要件】											
前期開講の「哲学（語学）」（ラテン語文法）とセットで受講することが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（30%）・毎回の小テストの得点（30%）・定期試験の得点（40%）の合算による。											
【教科書】											
中山恒夫 『標準ラテン文法』（白水社、1987年）ISBN:9784560017616											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 哲学（語学）(2)へ続く -----											

哲学（語学）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は特に必要ないが、毎回の小テストと定期試験のために相応の復習が必要である。

（その他（オフィスアワー等））

第1回の冒頭で簡単なイントロダクション（上記内容の詳細と成績評価について）を行うので、履修者は必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系29

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プロティノスの観想論									
【授業の概要・目的】											
<p>プロティノス哲学の中核に「観想」(theoria, contemplation)がある。観想は、あらゆる活動・制作の源泉である。自然は観想することでこの世界を制作・管理し、魂の観想が行為・活動を生み出し、知性もまた一者を観想してイデア・真理を認識する。本講義ではプロティノス第30論考「自然・観想・一者について」(III, 8)を読み、東西を問わず影響を与えてきたプロティノスの観想論を取り上げて論ずる。</p>											
【到達目標】											
<p>プロティノスの観想論について理解を深める。 プロティノスの観想論が哲学的的にどのように展開したのか説明ができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の計画で講義を進めるが、進み具合に応じて、受講生の理解を得たうえでプランを変更することがある。</p> <p>第1回 イントロダクション：観想の問題 第2回 プロティノス哲学の概説 第3-10回 第30論考「自然・観想・一者について」を読む 第11-12回 古代末期から中世への影響 第13-14回 近世以降の影響 第15回 まとめ・フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>議論への取り組み(30%)、コメントシート(20%)、レポート(50%)により評価する。 レポートは、プロティノスの議論とその発展、関連する哲学的問題を正しく理解して考察ができているかを評価する。授業で扱った内容を把握したうえで、独自の議論ができているものについては高い点を与える。</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
コピーを配布する予定です。

[参考書等]

(参考書)
使用するテキストと合わせて授業のイントロダクション時に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回指示されたテキストを読んで、与えられる課題について考えてくること。

(その他(オフィスアワー等))

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		國學院大学 文学部 教授 木原 志乃			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期ギリシア哲学における魂と身体									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、初期ギリシア哲学における生命と身体についての根本的な洞察を明らかにすることを旨とする。とりわけヘラクレイトス哲学における魂、流転、対立抗争、遊戯、ロゴスなどのトピックを中心に取り上げ、そしてその思想内容がのちのギリシア哲学や医学に受容された展開をも辿りたい。ヘラクレイトスは物質的な位相に注目しながら、生と死の対立と一致について語り、一方ではその身体理解はヒッポクラテス派の医学思想に受容され、他方ではその魂理解はソクラテス、プラトン哲学へと通じている。このように、ギリシア哲学者たちの生命や身体の語りは、ヘラクレイトスを分節点として深化をみてとることができる。さらに、初期の哲学者の中でもヘラクレイトスは独自の存在論を展開しており、ニーチェ、ハイデッガーなどの現代哲学者たちが、自らの存在理解に引き付けてヘラクレイトスの魂概念やロゴス概念に言及していることも極めて興味深い。近年の研究動向を踏まえると、ヘラクレイトスをはじめ、いわゆる「ソクラテス以前」へのアプローチは見直しの時期に差し掛かっているとも言える。彼らの「断片」をめぐり、伝統的解釈の枠組みを捉え直すこの研究動向を踏まえ、ヘラクレイトスの思想内容を丁寧に読み解きたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシア哲学の諸問題について理解し、個々のトピックについて自ら考え、議論展開することができる。 ・初期ギリシア哲学の受容史を理解し、生命や身体についての問題関心を深めることができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>一日目：「ソクラテス以前」とは? Vorsokratiker, Presocratics という名称の見直し 第一回：ピロソピアの概念化と自然の探究 第二回：ヘラクレイトスのピュシス概念 第三回：議論のまとめと検討</p> <p>二日目：ヘラクレイトスにおける対立抗争の哲学 第四回：流転説との関連 第五回：ニーチェやハイデッガーによる存在理解として（遊戯、ロゴス） 第六回：議論のまとめと検討</p> <p>三日目：初期ギリシア哲学における魂概念 第七回：タレスからプラトンまでの魂概念の系譜 第八回：ヘラクレイトスの魂理解：生と死の対立と一致 第九回：議論のまとめと検討</p> <p>四日目：初期ギリシア哲学におけるロゴス概念 第十回：ヘラクレイトスの語りの独自性：言葉・尺度・規範としてのロゴス 第十一回：ロゴスと流転, コスモスの生命性</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

第十二回：議論のまとめと検討

五日目：古代医学思想へのヘラクレイトス受容

第十三回：身体内の不均衡としての病：全体論的な視点

第十四回：ヒッポクラテス、プラトン、アリストテレスの身体論への展開

第十五回：議論のまとめと試験

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

トピック毎（一日につきトピック）のリアクション・ペーパー（30%）と、最終回の筆記試験（70%）の合計により総合的に評価します。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

リアクション・ペーパーを何度か配布しますので、集中講義内で不明な点があった場合は記入してください。

（その他（オフィスアワー等））

授業は基本的に講義形式で行いますが、内容や資料に関して積極的な質問を歓迎します。不明な点があれば、いつでもメールで問い合わせ下さい（kihara@kokugakuin.ac.jp）。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		兵庫県立大学環境人間学部 西村 洋平 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古代哲学における家族論									
【授業の概要・目的】											
<p>今日、家族のあり方は多様化し、異性が愛し合って血のつながった子供を作り育てる、といった近代以降の伝統的家族観はもはや当たり前ではなくなっている。異性が家族を作る必要もなければ、血のつながりがなくても親子になれる。また、保育や教育を家族がすべて担わないことも多いだろう。そうしたなか、家族は必要なのかといったことも問題となる。</p> <p>本講義では、家族の意義やあり方を考える一つの視座として、古代哲学における家族論を取り上げる。これまで古代哲学の「家族」というテーマは看過されてきたと言える。あるいは、自由で対等な男性市民が徳を発揮する公的な活動を支えるための、ニーズを満たす私的領域でしかなく、そこに女性が閉じ込められてきたといった批判の対象となってきた。本講義では、そうした批判に向き合いつつ、古代哲学の家族論が持つ豊かさ・多様性を明らかにする。</p>											
【到達目標】											
<p>西洋古代哲学史研究の手法を習得する。 古代ギリシアからヘレニズム・古代末期の哲学史を、家族というテーマのもとで理解できる。 現代の家族観を相対化し、家族の本質やあり方について考察できる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>受講者の理解度や関心に応じて講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 現代の家族の問題と古代哲学 3. プラトンによる伝統的家族批判：『国家』 4. プラトン『法律』の家族制度 5. アリストテレスによる家族1：倫理学 6. アリストテレスによる家族2：政治学 7. アリストテレスによる家族3：家政学 8. ヘレニズム・ローマ哲学における家族：ストア派1 9. ヘレニズム・ローマ哲学における家族：ストア派2 10. ヘレニズム・ローマ哲学における家族：エピクロス派 11. ヘレニズム・ローマ哲学における家族：補足 12. 古代末期の家族論：アリストテレス主義 13. 古代末期の家族論：プラトン主義1 14. 古代末期の家族論：プラトン主義2 15. まとめ・フィードバック 											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への積極的な参加（20%）、課題（個別報告など）への取り組み（30%）、学期末レポート（50%）を総合的に評価する。

レポートおよび個別報告については到達目標の達成度に基づき評価する。

【教科書】

授業中に指示する

基本的に教員が資料をコピーして配布し、それを解説する仕方で授業を進める。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

示される課題や、指定されたテキストを読み、理解を深めて授業に出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

積極的な質問と活発な議論を期待します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系32

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		エステティック・アニマル									
【授業の概要・目的】											
<p>アリストテレスにとって人間のあり方を根本的に規定しているのは世界を受容する能力としての感覚知覚（aisthesis）である。こうした人間の理解は、ロゴスをもつ動物やポリスの動物という人間の規定の基盤となっており、知識や感情、想像といった心的能力や美と芸術の理論（aesthetics）にも深くかかわっている。2021年度の講義を部分的に継続しつつ、このような視点の意義を現代的な考察も参照しつつ考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>哲学の基礎概念の原型と歴史、そしてその現在を再検討することを通じて、歴史的視点と理論的視点から、哲学の基本問題を平明に考える力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行や聴講者の理解などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 案内 感覚知覚概念の形成 第2回 プラトンはなぜ感覚知覚能力を批判するのか 第3回 アリストテレス的知覚概念(1) 外在主義と選言主義 第4回 アリストテレス的知覚概念(2) 因果性と認知性 第5回 アリストテレス的知覚概念(3) 概念性と言語 第6回 知覚と感情 第7回 知覚と想像 第8回 感情と想像(1) 経験と性向 第9回 感情と想像(2) sympathy, empathy 第10回 感情と想像(3) narrative 第11回 ミーメーシス再考 第12回 フィクションの存在論 第13回 美と倫理 第14回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート（詳細については授業で説明する）。											
【教科書】											
使用しない											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

中畑正志 『魂の変容：心的基礎概念の歴史的構成』（岩波書店）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で事前に読むべき資料などを配付するので、予習しておくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET02 65231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		プラトン『クラテュロス』における総合と分割									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、プラトンの哲学的方法である総合と分割の方法を解説するとともに、対話篇『クラテュロス』における「名前の元素に関わる専門知識・技術」を説明する箇所(421c3-427d3)を取りあげて、そこでこの方法がどのように適用されるのかを詳しく考察します。</p> <p>プラトンは、或ることがらの知識(専門的知識)を獲得するためには、総合と分割の方法というものを利用することで、そのことがらを探究したり教えたりしなければならないと提案しています。この総合と分割の方法は、プラトンの著作中では『パイドロス』および後期著作(『ソピステス』『ポリティコス』『ピレボス』)で集中的に議論されますが、その最初の適用例は第Iグループ著作(初期著作)に含まれる『クラテュロス』にすでに見出されます。プラトンはこの方法を「問答法」(ディアレクティケー)とも呼び、自らの哲学探究の中核に位置づけました。さらにこの方法は、アリストテレスやアカデメイアの学徒を通じてローマ世界に継承されて学問を整理・体系化するための規範的な方法として確立されていきます。</p> <p>本講義の前半部でこの総合と分割の方法の内実を詳しく解説し、後半部でその最初の適用例が見出される『クラテュロス』421c3-427d3を詳しく分析していきます。学問を整理・体系化するための規範的な方法が、この箇所ですべてどのように利用されているのかを明晰に把握することが目的です。</p>											
【到達目標】											
西洋の学問の体系化に深刻な影響を与えたプラトンの方法論を基本から考え直すことを通じて、基礎的な哲学的方法論のあり方を理解し、自分でも検討できるようになること。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の計画に従って講義を進めます。ただし受講者の理解の程度を考慮して、必要に応じた変更を加えながら話を進めたいと思います。											
<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 問題の所在</p> <p>第3回 専門的知識と方法論</p> <p>第4回 総合と分割の方法(1): 概説</p> <p>第5回 総合と分割の方法(2): 定義の手続き</p> <p>第6回 総合と分割の方法(3): 科学的分析</p> <p>第7回 総合と分割の方法(4): プラトン以後の展開</p> <p>第8回 対話篇『クラテュロス』の梗概</p> <p>第9回 語源説明と名前の元素</p> <p>第10回 名前の元素に関わる専門知識(1): 概観</p> <p>第11回 名前の元素に関わる専門知識(2): テキスト上の問題</p> <p>第12回 名前の元素に関わる専門知識(3): 科学的分析</p> <p>第13回 名前の元素に関わる専門知識(4): まとめ</p> <p>第14回 『クラテュロス』における方法論適用の位置づけ</p> <p>第15回 まとめ</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価します。期末レポートでは、講義に関連するかぎりでの、自分に関心のある問題を取りあげて、5,000字程度で論じてもらいます。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

Francesco Ademollo 『The Cratylus of Plato: A Commentary』 (Cambridge University Press, 2011年)
ISBN:9781108458276

【授業外学修(予習・復習)等】

授業内で参考書目を指示し、必要な資料を配付しますので、必要に応じて予習をして講義に臨んでください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系34

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 文学学術院 准教授 小村 優太			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		イスラーム思想とアラビア哲学									
[授業の概要・目的]											
<p>この講義ではイスラームという宗教において展開された思想を様々な観点から概観する。具体的にはイスラームに固有の思想、ギリシアからの思想の移入というふたつのフェーズを取り扱い、その後には花開いたアラビア哲学と、その後の発展を検討する。</p> <p>伝統思想：イスラーム思想においてすべての基礎になるのは法学である。一部の哲学者などの例外を除き、基本的にイスラームの知識人は何らかの法学派を学び、それによって知識人と見なされる。その上に、神について議論する思弁神学（カラム）が存在し、これがイスラーム思想の中核を構成する。この幹に対して、ときに近づき、ときに反発しながら発展したのがスーフィズムであった。</p> <p>外来思想：一方でイスラーム地域における哲学は明確にギリシアの子孫である。アッバース朝期の翻訳運動によってギリシア（またはインド・ペルシア）の科学や思想が精力的にアラビア語に翻訳された。これらの思想はときに伝統的な知識人の反発を受けながら発展していった。科学や数学においては光学や代数学を発展させ、哲学においては後期古代アレクサンドリアから受け継いだ新プラトン主義的アリストテレス哲学が更なる展開を見せた。</p> <p>その後の発展：アラビア哲学のその後について語るとき、我々はつねに口ごもりがちになる。それはアヴェロエス以降滅んでしまったのか？むしろ東方の神秘思想として生き残ったのか？はたまた正統派神学と融合することによって発展的解消を遂げたのか？講義の最後には、「哲学のその後」をイスラーム地域の内部、そしてヨーロッパとの対話というふたつの観点から検討する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・イスラームという宗教における思想の個々の要素を理解する。 ・それぞれの思想同士の影響関係を学ぶことにより、イスラーム思想全体にたいする複合的な視点を手に入れる。 											
[授業計画と内容]											
<p>以下に授業計画を記す。但し、受講生の関心や進行度合いに応じて内容に変更が加えられる可能性はある。</p> <p>第1回：「イントロダクション」 第2回：「イスラームの形成期」 第3回：伝統思想（1）「法学の形成」 第4回：伝統思想（2）「神学の形成」 第5回：伝統思想（3）「スーフィズムの形成」 第6回：ギリシアからアラビアへ（1）「翻訳運動」 第7回：ギリシアからアラビアへ（2）「自然学と数学」 第8回：ギリシアからアラビアへ（3）「プラトンとアリストテレス」 第9回：アラビア哲学の形成（1）「宗教と哲学」</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

- 第10回：アラビア哲学の形成（2）「学としての体系化」
- 第11回：アラビア哲学の形成（3）「神秘主義と哲学」
- 第12回：その後の発展（1）「神学と哲学」
- 第13回：その後の発展（2）「哲学化する神学」
- 第14回：その後の発展（3）「ヨーロッパとの対話」
- 第15回：「総まとめ」

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・授業の参加度（リアクションペーパー）30%
- ・最終レポート70%

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

とくに事前の予習は必要ないが、それぞれの回で学んだことを振り返るのは知識の定着にかんして有益である。関連するテキストや資料は授業中に指示するので、余裕がある参加者は触れておくが良い。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系35

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの<modus>研究(3):意味論的側面									
[授業の概要・目的]											
トマス・アキナスが意味論に関係する場面で用いている<モドゥス>の用法を考察することで、トマスの体系で<モドゥス>が果たしている役割を明らかにする。 また、<モドゥス>概念の哲学・哲学史的重要性について考察を深める。											
[到達目標]											
トマス・アキナスの範疇(カテゴリー)論、超範疇論、アナロギア論について基本的な理解ができるようになる。また、カテゴリー論、超範疇論、アナロギア論の歴史的背景と変遷について、ある程度理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
第1-2回 イントロダクション											
第3-5回 アリストテレスのカテゴリー論と<モドゥス> トマスのカテゴリー論解釈 聖体の秘蹟の解釈と付帯性の位置づけ											
第6-7回 超範疇(transcendens)論におけるモドゥス 超範疇の歴史 トマスの超範疇論											
第8-11回 アナロギア論におけるモドゥス(modus significandi) 『命題集注解』 『真理論』 『神学大全』											
第12-13回 様態論(モディズム)における<モドゥス> 三つの<モドゥス>: modus significandi, intelligendi, essendi トマスと様態論											
第14回 考察のまとめ トマスの<モドゥス>概念の歴史的源泉 トマスの体系における<モドゥス>の役割											
第15回 フィードバック:授業内容に対する質問受付											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポートによって評価する。

【教科書】

使用しない
原典資料（翻訳）を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

（事前に配布する）講義で扱うトマスなどのテキスト（翻訳）について、事前に読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET03 65234 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの<モドゥス(modus)>研究(2):倫理的側面									
【授業の概要・目的】											
トマス・アキナスが倫理的な事柄を論じる際に用いている<モドゥス>というタームの用法を考察し、トマスの体系で<モドゥス>が果たしている役割を明らかにする。 また、<モドゥス>概念の哲学・哲学史的重要性について考察を深める。											
【到達目標】											
トマス・アキナスの思想で重要な役割を果たしている諸概念 存在(esse)、理性・理拠(ratio)、分有(participatio)、様態(modus)、形相(forma)、質料(materia) の多義性と概念間の関係について、基本的な理解ができるようになる。また<モドゥス>の概念にいくつかの歴史的源泉があることを理解する。											
【授業計画と内容】											
第1-2回：イントロダクション トマス・アキナスにおけるモドゥス(modus)の用例 古代～近世哲学における<モドゥス> トマスの<モドゥス>の存在論的側面(前年度講義内容の復習)											
第3回 キケロ・セネカの倫理学著作における<モドゥス>											
第4-6回 トマスの徳の<モドゥス>の用例 『命題集注解』 『神学大全』 『ニコマコス倫理学註解』など											
第7-9回 勇気の五つの<モドゥス> アリストテレスの『ニコマコス倫理学』における勇気の五類型 アルベルトゥス・マグヌスの五類型解釈 トマス・アキナスの五類型解釈											
第10-12回 状況(circumstantia)としての<モドゥス> キケロの用例 アルベルトゥスの状況理論 トマス・アキナスの状況理論											
第13回 理性の<モドゥス>											
----- 西洋哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

第14回 まとめ：トマス・アキナスの<モドゥス>の倫理的側面

歴史的源泉

存在論的側面との連関

第15回 フィードバック：授業内容に対する質問受付

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートによって評価する。

[教科書]

授業中に原典資料（翻訳）を配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に配布した原典資料を読んでおくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系37

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における個人と社会									
【授業の概要・目的】											
この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Aである。精神章Aではまず、ソフォクレスの『アンティゴネー』を下敷きにしながら、ヘーゲルの理解する人倫の概念が古代ギリシアの社会として描かれる。そこでは、家族と国家、人法と神法、男と女、地上の国と地下の国との人倫内部での対立が描かれると同時に、その外に広がる自然との関係において人倫が特徴付けられる。そこからいかにして「法状態としてのアトム的個人への解体が生じ、近代社会が成立するとヘーゲルが見ているのかを明らかにする。											
【到達目標】											
古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 精神とは何か 第3回 人倫とは何か 第4回 神の法と人の法 第5回 埋葬という行為 第6回 家族とジェンダー 第7回 人倫と自然 第8回 人倫的行為 第9回 アンティゴネーとオイディプス 第10回 個の成立とアンティゴネー 第11回 法状態について 第12回 ローマ法と近代社会 第13回 帝国とポリス 第14回 予備日 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業内で配布する。

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東北大学 大学院文学研究科 教授 直江 清隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目											
【授業の概要・目的】											
<p>廣松渉は戦後を代表する哲学者の1人である。その独自の哲学は、関係の第一次性、事的世界観、四肢構造、共同主観性などのキー概念で知られ、その扱う主題も認識論、科学論、身体論、価値論、社会哲学など広範囲にわたっている。</p> <p>本講義では廣松哲学における幾つかのトピックスを取り上げ、背景となるドイツ哲学と関連付けながら批判的に討究することにより、彼の哲学体系の一端を解きほぐしていくことを目指す。このことはまた、20世紀後半の日本哲学の動向を理解することに繋がるはずである。</p>											
【到達目標】											
廣松哲学とその基礎概念の構成と背景、そしてその現在の意義を再検討することを通じて、哲学の問題にとり組む姿勢や自ら哲学的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに応じて順序や同一テーマの回数などを変えることがある。</p> <p>第1回 20世紀哲学と廣松哲学/『存在と意味』の体系構想 第2回 「もの」から「こと」へ 関数概念と関係主義 第3回 四肢構造論 マッハの現象主義との対峙 第4回 四肢構造論 第5回 視覚的世界と身心の問題 第6回 表情的世界と身心の問題 第7回 表情的世界と共同主観性 第8回 判断論の問題構成 新カント学派 第9回 判断論の問題構成 対象論、現象学など 第10回 判断をめぐる戦前日本哲学の遺構 第11回 学知的反省と当事者意識 第12回 役割行為論 第13回 物象化論の射程 第14回 物象化論の射程 第15回 近代の超克？</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する(80点)。また、授業中の討論への積極的な参加も評価に加える(20点)。レポートで独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

廣松渉 『世界の共同主観的存在構造』(岩波文庫 2017) ISBN:4003812417

廣松渉(熊野純彦編) 『廣松渉哲学論集』(平凡社ライブラリー 2009) ISBN:4582766781

廣松渉 『廣松渉著作集 第1巻-第15巻』(岩波書店 1996)

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立正大学 文学部 教授 板橋 勇仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		身体論としての西田哲学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>後期西田哲学に身体論が展開されていることはよく知られている。しかしこの身体論に焦点を当てた研究成果はまだ多くない。なぜであろうか。西田哲学の出発点は処女作『善の研究』であるが、この『善の研究』にある身体論には注目されてこなかった。そして『善の研究』の身体論から理解してゆかない限り、後期西田哲学の身体論の意義とその射程も明らかにならないであろう。しかも西田哲学の身体論は一貫して、現代日本の身体を取り巻く状況に対して鋭い問題提起を突きつけてくる。初期・後期の西田哲学の身体論を理解し、それを現代の身体状況と照らし合わせるために、以上の問題意識に基づいた拙著『こわばる身体がほどけるとき』を講読する。あわせて拙著が依拠する西田の著作をも具体的に検討し、そのうえで参加者で積極的に議論したい。拙著については、もう一度中心線を骨太に描き直すと共に、拙著には盛り込めなかった、多様な伏線をできる限り追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西田哲学の思想の骨格と身体論の内容について理解し議論できるようになる。 ・現代の身体状況を哲学的に理解し議論できるようになる。 ・現代に対する西田哲学の意義と射程を自分自身で理解し説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 現代の身体状況 第3回 『善の研究』における「経験の場」(1) 第4回 『善の研究』における「経験の場」(2) 第5回 『善の研究』における「身体」 第6回 『善の研究』における「唯一実在の分化発展」 第7回 『善の研究』における「主観的自己」と生 第8回 『善の研究』の身体論の持つ意義 第9回 前半のまとめと中期西田哲学 第10回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(1) 第11回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(2) 第12回 後期西田哲学における「身体」(1) 第13回 後期西田哲学における「身体」(2) 第14回 西田哲学の身体論の現代的意義(1) 第15回 西田哲学の身体論の現代的意義(2)</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

西洋哲学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

- ・ 平常点で評価する。
- ・ 議論への積極的な取り組み40%、授業内での発言内容30%、小レポート30%。

[教科書]

板橋勇仁 『こわばる身体がほどけるとき』(現代書館)

西田幾多郎 『善の研究』(岩波文庫)

[参考書等]

(参考書)

西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集』(岩波文庫)

西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集』(岩波文庫)

西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集』(岩波文庫)

その他の文献については授業中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

テキスト(教科書)の各回の講読範囲となる箇所を事前に読んでおくこと。集中講義なので、第1回授業開始前に、テキスト全体を最後まで通読しておくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET04 65236 LJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(特殊講義) History of Western Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		早稲田大学 社会科学総合学院 教授 千葉 清史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		どうやったら正しい解釈に到達できるのか? : 『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」を題材として									
[授業の概要・目的]											
<p>哲学的テキストを十分に理解するためには、ただ漫然と読んでいただけではダメである。要所要所で読解のための「補助線」を引き、また適切な解釈的問いを立てていくことが必要だ。(《仮説を立て、検証する》という手続きは文献解釈でも必要なのだ。)さて、適切な解釈的問いを立て、「正しい」解釈に到達するためにはどのようにしたらよいのか?</p> <p>本講義で私は、特にイマヌエル・カント(著)『純粋理性批判』 「純粋理性のアンチノミー」(以下「アンチノミー論」と略記)を題材とし、初学者が、どのような点に注目し、そしてどのような解釈的問いを立てていけば、テキストをより深く/明瞭に理解することができるようになるかを示したいと思う。</p> <p>本講義は、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の方式で行なわれる。すなわち、たんに講師が一方的に情報提供を行う、というやり方ではなく、履修者のみなさんに実際に当該テキストを読み、試行錯誤し、議論してもらおう(おそらく小グループをいくつか作り、議論することになるだろう)。その点で、本講義は、通常の「講義」というよりは「実習」に近い。私の助言を参考にしつつ、実際に解釈実践を積むことで、解釈スキルを養成することこそが、本講義のねらいである。</p> <p>なお、時間的制限により、本講義ではアンチノミー論の全てを扱うことはしない。検討対象となるのは次の箇所である: 第一節、第二節(特に第一アンチノミー)、第六節、第七節、第九節(特に数学的アンチノミーの解決(A532/B560まで))。また、最終日には、アンチノミー論と類似の論証構造を持つ『純粋理性批判』第一版「第四パラロギスムス」の解釈の実践を通じて、各自の解釈スキル向上の達成度を確認する予定である。(ただし、履修者のレベルに合わせて、進度は柔軟に変更していく。)</p> <p>本講義は、カント哲学についての基礎知識を持っていない が学習意欲はある 学部生がついていけるようなレベル設定にするが、大学院生であっても、さらには『純粋理性批判』を専門とする研究者であってすら、十分学ぶべきことがあるような内容となるはずである。(とりわけ4日目の講義では、かなり高度な内容を扱う。)大学院生の受講者は、毎回の課題をこなすことに加え、私が提示する解釈にも批判的な検討を加えることで、自らの議論構成力を向上させるよう努めていただきたい; そのためのアドバイスは積極的に行ないたいと思う。意欲あるみなさんの参加を期待する。</p>											
[到達目標]											
<p>本講義を最後まで聴講するならば、結果的に、アンチノミー論全体についてのかなり明瞭な理解が得られることだろう。しかし、本講義の眼目はむしろ、解釈スキルの養成にある。すなわち、テキスト読解に際して、履修者のみなさんが自分自身で適切な解釈的問いを立て、自ら解釈の精度を高めていけるように「なる」ことこそが、本講義の目標である。</p> <p>また、大学院生の参加者はさらに、本講義を通じて、自発的にさまざまな解釈的問いを立て、それらを自分の目的に合わせて使い分ける手法を学び取ってほしい。この技能は論文執筆 特に修士論文や博士論文 にあたって、その全体の論証構成を設定(して論文全体のねらいを明確化する)ために重要となることだろう。</p>											
----- 西洋哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

[授業計画と内容]

[1日目] 読解のための着手点を築き上げる

事前課題：アンチノミー論（のうち本講義で扱う箇所；上述）を各自で読み、そこで展開されている議論を自分が現時点で可能な限りで明瞭にまとめてくる；レジュメを持参することが望ましい。また、第2回・第3回講義で検討するので、特にアンチノミー論第一節と第六節を詳しく読んでくること。

*この段階で十全な解釈を提示できる必要はない。この課題の眼目は、現時点での、みなさんの理解を確認することにある。（これについては以下の課題でも同様。）

第1回：履修者間での相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する / 読解上の基礎知識の解説(1)〔『純粹理性批判』概説 / 「アンチノミー」とは何か〕

第2回：読解上の基礎知識の解説(2)〔アンチノミー論の『純粹理性批判』全体における体系的位相 / 認識能力（感性、悟性、理性、（継起的）綜合、等々）についてのカントの理説 / 中心概念「条件の系列Reihe der Bedingungen」（第一節）；他にも基礎知識についての質問があれば受け付ける〕

第3回：解釈上の補助線の提示(1) / アンチノミー論理解のカギとなる「超越論的實在論 / 超越論的觀念論」について（第六節）

[2日目] アンチノミー論第七節（アンチノミーの一般的解決）の読解

事前課題：前回講義で提起された解釈上の補助線に留意しつつ、第七節を各自で読み、そこで展開されている議論についての自分の理解をまとめてくる；レジュメ持参が望ましい。

第4回：相互発表を行い、各自が現時点でどこまでの理解を持っているかを確認する

第5回：第七節の解釈上の問題提起 / 統一的解釈の提示

第6回：解釈上の補助線の提示(2)：アンチノミー解決の観点からアンチノミー導出（第二節）の議論を振り返るとどうなるか？

[3日目] アンチノミー論第二節（諸アンチノミーの導出）の読解

事前課題：前回講義で配布する論文（15頁程度；日本語）を参考にしつつ、第二節の特に第一アンチノミーの導出の箇所を読み、定立・反定立の証明についての自分の理解をまとめてくる；レジュメ持参が望ましい。

第7回：課題の相互発表 / アンチノミー導出の統一的構造の把握

第8回：アンチノミー導出&解決の統一的構造　すなわちアンチノミー論の全体像　の把握

第9回：(1)問いの変更：アンチノミー論そのものの理解ではなく、超越論的觀念論の主張内容の解明を主眼とするように解釈的問題設定を変更したらどうなるか？（自分の意図や目的に合わせて解釈的問いを変更する仕方を学ぶ） / (2)次回のための問題提起：カントの超越論的觀念論によるアンチノミー解決によれば、条件の系列は有限でもなければ実無限でもない；それは可能無限である。さて、条件の系列が「可能無限である」とはどのようなことなのか？ここには、たんに「可能無限」という語の意味を調べればよい、というだけではすまない重大な問題が存する。この問題について予告的に紹介し、次回への準備とする。

[4日目] カントのアンチノミー解決を深掘りする

ねらい：現代の分析哲学や数学の哲学の道具立てを援用することによって、ただテキストを読んでいただいただけでは出てこないような新たな解釈的問いが立てられるようになり、このことを通じてテキスト解釈をさらに深めていくことができることを体験する。

事前課題：前回講義の問題設定を参考にして、アンチノミー論第九節の、とりわけ第一アンチノミーの解決の箇所（A517-523/B545-551）を読み、その内容についての自分なりのイメージを作っておく；レジュメ持参が望ましい。また、「実無限 / 可能無限」の区別についてインターネット等を用いて簡単に調べてくること。

西洋哲学史(特殊講義) (3)

第10回：課題の相互発表 / カント解釈上の問題 / 「可能無限」概念そのものをめぐる問題

第11回：直観主義数学を導きの糸として、可能無限の最初のモデルを得る

第12回：次回のための問題提起：(1)直観主義数学から得た成果を（カントの超越論的観念論が扱う）経験的領域に適用しようとする際に生じる問題の紹介（monotonicity, publicness, defeasibility）。(2)『純粹理性批判』第一版「第四パラロギスムス」は、アンチノミー論と非常によく似た論証構造を持っている。この箇所解釈の実践を通じて、今までの学習成果を確認する。

[5日目] これまでに学んできたスキルを活用してみる

事前課題：今までの講義内容（とりわけ、解釈上の問いの立て方）を参考にして、第一版「第四パラロギスムス」を各自で読み、そこで展開されている議論を可能な限り明瞭な仕方でもとめた発表レジュメを作成して持参する（自分用と提出用の2部；成績評価に使用する）。

第13回：直観主義数学から得た成果を経験的領域に適用する際の諸問題の解決のアウトラインを紹介

第14回：課題の相互発表 / 各自の解釈スキルがどの程度向上したのかを確認

第15回：第一版「第四パラロギスムス」の統一的解釈 / 超越論的観念論をめぐる解釈上の問題の提示 / 全体の総括

[履修要件]

特に設けない。すなわち、『純粹理性批判』の基礎知識を持っている、といったことを履修要件とはしない。ただし、毎回の課題をこなす そのためには少なくとも、自分自身でカントのテキストを読む必要がある 用意と覚悟のある人のみ本講義を受講していただきたい。

[成績評価の方法・観点]

(1) 第1～4日の事前課題：それぞれ10%（計40%）

(2) 第5日の事前課題：20%

(3) 講義中の議論（グループ / 全体ディスカッション）への貢献：40%

[教科書]

イマヌエル・カント、『純粹理性批判』 どの訳でもかまわないので、入手すること。（岩波文庫（篠田訳）、光文社古典新訳文庫（中山訳）はお勧めしない。安価で入手可能なものとしては、『世界の思想』シリーズ（高峯訳）がお勧め。）

講義では基本的に日本語訳を用いるが、ドイツ語原文や英訳を参考にできる人はそうすることを強くお勧めする。

[参考書等]

（参考書）

入門書

・御子柴善之、『自分で考える勇気：カント哲学入門』，岩波ジュニア新書，2015年。（カント哲学について全く / ほとんど知らない人が全体像を理解するためにはこの本がよいだろう。）

・御子柴善之、『シリーズ 世界の思想：カント 純粹理性批判』，角川選書，2020年。（『純粹理性批判』全体の流れを理解するのに便利。とりわけ初心者が苦勞する、個々のテキスト箇所の理解のために必要となる前提知識をわかりやすく説明してくれる。）

・中島義道、『『純粹理性批判』を噛み砕く』，講談社，2010年。（アンチノミー論の、特に冒頭部、第一節、第二節を詳細に解説したもの。カントによるアンチノミー導出の議論（第二節）をよ

西洋哲学史(特殊講義) (4)へ続く

西洋哲学史(特殊講義) (4)

りよく理解したい人は、本書にあたるとよい。)

・有福孝岳(他)編, 『カント事典 縮刷版』, 弘文堂, 2014年。(わからない言葉が出てきたらこれで調べよう。)

研究書

・Henry Allison, Kant's Transcendental Idealism: An Interpretation and Defense, Revised and Enlarged Edition, Yale University Press, 2004.(今日の『純粋理性批判』研究のための必読書。)

・ヘンリー・アリソン, 『カントの自由論』, 法政大学出版局, 2017年(原著1990年)。(本講義では取り扱われない、第三アンチノミーの解決に関心がある人は、本書の第1部にあたるとよい。)

・Jonathan Bennett, Kant's Dialectic, Cambridge University Press, 1974.(本講義では取り扱われない、カントによる個々のアンチノミー導出の議論が詳細に検討されている。)

・Kiyoshi Chiba, Kants Ontologie der raumzeitlichen Wirklichkeit, Walter de Gruyter, 2012.(本講義の先にさらに何があるのかに興味がある人は、この本の第4章と第7章を見るとよい。)

・P.F. ストロウソン, 『意味の限界: 『純粋理性批判』論考』, 勁草書房, 1987年(原著1966年)。「分析カント」の創始。今日でもなお啓発的な多くの洞察を含んでいる。)

*ほかの参考文献については講義中に紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

上述の、毎回の事前課題を着実にやってくることで、そして何よりも、『純粋理性批判』の当該箇所を自分自身で読み込んでおくことが必要となる。とりわけ、最初の二日分の事前課題のために読むべき分量は多いので、これらに関しては講義開始前に準備しておくことをお勧めする。(実際のところ、第1日目・2日目の課題のための準備を事前に十分に済ませておけば、第3日目以降の課題のために必要となる時間はそれほど多くはならないはずだ。)

また、『純粋理性批判』についての基礎知識は履修のための必要条件ではないが、あれば本講義をより有意義にできることは間違いない。上述「参考書」の「入門書」に挙げてある文献のほか、各自でいろいろと模索してみるとよいだろう。

(その他(オフィスアワー等))

連絡先メールアドレス:

kchiba.f@outlook.com

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系41

科目ナンバリング		G-LET02 75240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		人間、共同体、幸福 アリストテレス「政治学」を読む									
【授業の概要・目的】											
アリストテレスのいわゆる「倫理学」は彼自身によれば「政治学」だった。そして『政治学』という書では、共同体との関係のなかで、人間存在や幸福が論じられている。その意味でアリストテレスの「社会哲学」だけでなく「倫理学」を理解するためにも不可欠であるにもかかわらず必ずしも重視されてこなかった『政治学』から、いくつかの重要な議論をピックアップして読む。											
【到達目標】											
古代のテキストを読むための語学力、文献学的な手続き、注解をはじめとした従来の解釈の整理と分析の能力、そして哲学の問題を平明かつ論理的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下のプランに従って進める。ただし参加者の関心、進行状況、などに対応して取りあげるテキストや箇所を変えることがある。											
第1回 案内											
授業の狙いおよび取りあげるテキスト、基本的な校訂や註解などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。											
第2回～第12回 アリストテレス『政治学』（とりわけI,III巻）の精読											
第13回～第14回 上記テキストに関する古代の議論および現代の研究についてのサーベイとそれにもとづく議論											
第15回 中間的まとめと反省											
第16回～第27回 アリストテレス『政治学』（とりわけVII, VII巻）の精読											
第28回～第29回 上記テキストに関する古代の議論および現代の研究についてのサーベイとそれにもとづく議論											
第30回 総括											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告の担当と議論への参加にもとづいて評価する）											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回の授業で読む予定の範囲のテキストおよび指定された注解や関連文献を読み、あわせて各回の担当者から事前に配布される訳についても検討しておくこと。

担当者は報告する週の初めまでに授業参加者に担当箇所の訳文を配布すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系42

科目ナンバリング		G-LET02 75240 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 中畑 正志 文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		古代哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討し、理解を深める。											
[到達目標]											
従来の解釈を踏まえた上で哲学的に重要な問題を明晰に考察する能力と、明晰に討論する力を養う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 授業の進め方について説明をおこない、各回の発表者を決定する。 第2回～第29回 西洋古代哲学にかかわる諸問題について、毎回一人あるいは二人がそれぞれの研究成果を発表し、参加者全員によって検討する。話題の選択は自由であるが、発表者には授業参加者が共有できるような明晰な議論が求められる。なお修士論文提出予定者は、この授業で必ず論文の構想を発表すること。 第30回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（発表と議論への積極的な貢献の両方にもとづいて評価する）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 特になし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表者は、発表する週の月曜日までに参加者に発表要旨を配布すること。参加者はその発表要旨を事前に読んでおくこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に取り上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興で作り、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てることがあります。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『饗宴』 172a1-173d3の講読・検討</p> <p>第3回 『饗宴』 173d4-174e11の講読・検討</p> <p>第4回 『饗宴』 174e12-176b4の講読・検討</p> <p>第5回 『饗宴』 176b5-177d5の講読・検討</p> <p>第6回 『饗宴』 177d6-179b3の講読・検討</p> <p>第7回 『饗宴』 179b4-180d4の講読・検討</p> <p>第8回 『饗宴』 180d4-182b7の講読・検討</p> <p>第9回 『饗宴』 182b7-183e6の講読・検討</p> <p>第10回 『饗宴』 183e6-185c3の講読・検討</p> <p>第11回 『饗宴』 185c4-187a1の講読・検討</p> <p>第12回 『饗宴』 187a1-188d3の講読・検討</p> <p>第13回 『饗宴』 188d4-190a4の講読・検討</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

第14回 『饗宴』 190a4-191c8の講読・検討

第15回 まとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics). 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/. 』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET02 75241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 早瀬 篤			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		プラトン『饗宴』を読む(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>古代ギリシアの代表的哲学者プラトン(424/3-348/7 BC)がおそらく比較的若い頃に書き上げた対話篇『饗宴』の原典を精読します。悲劇詩人アガトンがコンテストで優勝した記念のパーティで、ソクラテスや喜劇詩人アリストパネスを含む登場人物たちが、「恋」(エロース)を主題とするスピーチを即興でつくり、この神をたたえます。文学作品として非常に完成度が高いだけでなく、「本性において驚くべき美しさ」を例として、プラトンの形而上学において「真実在」と呼ばれるもののあり方が最も詳しく描写されるという点で、哲学的にも非常に重要な対話篇です。本授業では前期(プラトン『饗宴』を読む(1))の続きから読み始めて、比較的平明なギリシア語で書かれたこの対話篇を語学・哲学の両面からできるだけ正確に理解することを目指します。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典ギリシア語で書かれた文献を正しく日本語訳できるようになること。 ・ 議論の構造を明晰に把握することによって、哲学的テキストの内容を深く理解できるようになること。 ・ 古典ギリシア語文献を読むときに、注釈書・研究書を適切に利用できるようになること。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初の回で『饗宴』の内容の概観と現在の研究状況について説明を行います。次に演習参加にあたって参照すべき注釈書や研究書を紹介し、授業形式について詳しい説明を行います。2回目からは1回につきOCT〔教科書〕で2ページほど講読を進めます。各参加者は、指名された箇所(通常15行ほど)をその場で日本語に訳します。指名はランダムに行いますが、初めて参加する方には各回の最初のほうを担当してもらいます。また重要な箇所は全員で議論の構造を確認して内容的な理解を深めます。最終回は、これまでに読んだテキストの内容および授業期間中に提起された問題を振り返りながら、参加者全員で議論を行います。きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回も精読に当てる場合があります。</p> <p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 『饗宴』 191c8-193a1の講読・検討</p> <p>第3回 『饗宴』 193a1-194b8の講読・検討</p> <p>第4回 『饗宴』 194c1-195e4の講読・検討</p> <p>第5回 『饗宴』 195e4-197b9の講読・検討</p> <p>第6回 『饗宴』 197c1-198e4の講読・検討</p> <p>第7回 『饗宴』 198e4-200b8の講読・検討</p> <p>第8回 『饗宴』 200b9-201c9の講読・検討</p> <p>第9回 『饗宴』 201d1-202e1の講読・検討</p> <p>第10回 『饗宴』 202e2-204a7の講読・検討</p> <p>第11回 『饗宴』 204a8-205c3の講読・検討</p> <p>第12回 『饗宴』 205c4-206d2の講読・検討</p> <p>第13回 『饗宴』 206d2-208a3の講読・検討</p>											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

第14回 『饗宴』 208a3-209e4の講読・検討

第15回 まとめ

【履修要件】

古典ギリシア語の初級文法を一通り学習したか、あるいは少なくとも学習中であることを履修要件とします。

【成績評価の方法・観点】

成績は平常点によって算出します。その内訳は、授業への積極的な参加が60点、テキストの理解度が40点とします。

【教科書】

John Burnet. 『/Platonis Opera/ Tomus II (Oxford Classical Text). 』 (Oxford: Oxford University Press, 1901.)

使用するテキストのコピーは授業で配布します。

【参考書等】

(参考書)

Kenneth Dover. 『/Plato: Symposium/ (Cambridge Greek and Latin Classics). 』 (Cambridge: Cambridge University Press, 1980.)

C. J. Rowe. 『/Plato: Symposium/. 』 (Warminster: Aris & Phillips Ltd, 1998.)

必要な資料のコピーは授業で配布します。

【授業外学修(予習・復習)等】

OCT2ページ程度のギリシア語をその場で訳す準備をするために、予習にかなりの時間がかかります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系45

科目ナンバリング		G-LET03 75242 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	木4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		中世哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
中世哲学史を専攻している学生を中心とした参加者が自分の関心あるテーマについて発表を行う。発表及び発表内容についての議論を通じて、中世哲学史のさまざまな時代・領域の論点についての知識を深め、哲学・哲学史的分析力を高めることを目的とする。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋中世哲学の諸問題について広く学び、歴史的連関と哲学的重要性について説明できるようになる。 ・自身の哲学的関心を原典テキストに基づいて明快に記述することができるようになる。 ・他者の批判的吟味を理解し、それを自分の議論展開や論文作成に活かすことができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
隔週の開講とし、1回あたり参加者1名が発表を行い、その後担当教員や他の参加者との討論を行うこととする。発表の内容は参加者が自分で自由に選ぶことができるが、発表内容の梗概を事前に他の参加者に配布することが求められる。											
第1回 打ち合わせ、発表順の決定 第2-14回 各自の発表、質疑応答 第15回 まとめ、質問受付											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。発表の内容、討論への参加などにより評価するが、最低1回の発表を行うことが前提となる。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業の特性上、発表担当者は授業外にその準備をすることが必要である。また、その他の出席者も担当者の予告した発表内容について、あらかじめ予習することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
西洋中世哲学史を専攻している学生は必修とする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系46

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アクィナス『対異教徒大全』精読I									
[授業の概要・目的]											
トマス・アクィナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アクィナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
本年度は昨年度に引き続き、第2巻第89章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「分離実体」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻89章から92章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系47

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 井澤 清			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 II									
[授業の概要・目的]											
前期の「トマス・アキナス『対異教徒大全』精読 I」の続き。トマス・アキナス中期の著作である『対異教徒大全』をラテン語原文で精密に理解し、その体系的哲学の全体像についての理解を深めることを目的とする。また、主著『神学大全』の併読も課することによって、2つの体系的著作の異同の意味を考えることも目指す。											
[到達目標]											
スコラ哲学のラテン語を読解し、その哲学的意味を理解できるようになる。 トマス・アキナスの哲学思想を原典に即して理解し、批判的吟味ができるようになる。											
[授業計画と内容]											
前期に引き続き、第2巻第93章以下の箇所を丁寧に読解する。トピックの中心は「分離実体」に関する諸問題となる。 (1回) イントロダクション (2~14回) 『対異教徒大全』第2巻93章から101章の精読 (15回) まとめと整理											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を習得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
マリエッティ版を用いる。必要な場合、コピーを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回の演習で読む量は多くはないので、授業前に原文の精密な読解や諸近代語訳の検討などが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アウグスティヌスの『八十三問題集』を読む									
【授業の概要・目的】											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus (『八十三問題集』) の読解を通して、魂や聖書解釈についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。											
【到達目標】											
魂や聖書解釈についてのアウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。 ラテン語で書かれたテキストを読むことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
アウグスティヌスの De diversis quaestionibus octoginta tribus (『八十三問題集』) のラテン語テキストを丁寧に読む。アウグスティヌスが、哲学・神学上の基本的な問題について論じたテキストを読むことで、各問題について、アウグスティヌスの基本的な考え方を理解する。本年は四十七問から五十七問までを読む予定である。1回に1頁程度進む予定である。											
第1回:イントロダクション:文献案内とテキストのコピー配布 第2-14回:テキストの読解:De diversis quaestionibus octoginta tribus 第15回:フィードバック:まとめ、質問受付											
【履修要件】											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点による。											
【教科書】											
Augustinus 『De diversis quaestionibus octoginta tribus』 (CCSL44A テキストのコピーを配布する予定。)											
----- 西洋哲学史(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

Augustine 『Responses to miscellaneous questions』 (New City Press) (英訳)

Augustine 『Eighty-Three Different Questions』 (CUA Press) ISBN:978-0-8132-1323-1

ドイツ語訳やフランス語訳は最初の授業で紹介する。

(関連URL)

<http://www.augustinus.it/>(アウグスティヌスのテキスト、イタリア語訳)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で読む箇所の訳読ができるように予習する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系49

科目ナンバリング		G-LET03 75243 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 周藤 多紀			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		トマス・アキナスの『真理論』を読む									
[授業の概要・目的]											
トマス・アキナス『真理論』の第一問「真理とはなにか」を読み、トマス・アキナスの真理概念を考察する。本年度は第五項から第十一項（第一問の終わりまで）を読む予定である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ラテン語で書かれたスコラ哲学のテキストを読むことができるようになる。 ・スコラ哲学特有の表現や術語に慣れる。 ・議論の構造を理解しながら、読むことができるようになる。 											
[授業計画と内容]											
トマス・アキナスの『真理論』第一問を丁寧に読む。本年度は第五項から読む予定。 (第1回)イントロダクション：文献案内、テキストのコピーの配布 (第2-14回)テキストの精読 (第15回)フィードバック：まとめ、質問受付											
[履修要件]											
ラテン語の初級文法を修得していること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。											
[教科書]											
Thomas Aquinas 『De Veritate』 (Opera Omnia Iussu Leonis) (初回にテキストのコピーを配布する予定。)											
[参考書等]											
(参考書)											
トマス・アキナス『真理論(上)』(平凡社、2018年)(日本語訳)											
St. Thomas Aquinas 『The disputed questions on truth, vol.1.』(Regnery, 1952)(英訳、文学部図書館蔵)											
Thomas von Aquin 『Von der Wahrheit, De Veritate, Quaestio I』(Felix Meiner)(独訳(ラテン語テキスト付))											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で読む箇所について訳読ができるように予習をすること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系50

科目ナンバリング		G-LET04 75244 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		近世・近代西洋哲学史の諸問題									
[授業の概要・目的]											
本授業では履修者が研究報告を行い、相互に検討し合う。											
[到達目標]											
論文や研究報告原稿を執筆する能力を身に付ける。 討論や質問の技法やマナーを身に付ける。 議論を通じて主体的に自分の研究を深めることができる。											
[授業計画と内容]											
第1回 ガイダンス 第2回 研究課題の設定 第3回~第14回 研究報告と検討 第15回 総括											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点にて評価を行う。具体的には報告内容、他の報告者の報告の際のコメント内容などに基づいて評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
報告者は事前に原稿を提出することを求められる。 他の報告者はその原稿を事前に精読して臨むこと。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系51

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
【授業の概要・目的】											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> 、精神章C. 「自分自身を確信した精神」、a. 「道徳的世界観」を精読する。この箇所ではヘーゲルは、近代的意識としてカントの道徳性を描き、その良心への帰趨を明らかにする。この箇所の読解を通じて、ヘーゲルのカント批判と同時代観について検討する。											
【到達目標】											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
【授業計画と内容】											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。この回を補充に充てることもある。											
【履修要件】											
ドイツ語文法をひとつとおり学習し終えていること。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点にて評価を行う。											
【教科書】											
G. W. F. Hegel 『Phänomenologie des Geistes』 (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 (Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuausgabe. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen)											
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系52

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕(演習) History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学経営学部 准教授 竹内 綱史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ニーチェ『Die fröhliche Wissenschaft』第五書を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ニーチェの著作『Die fröhliche Wissenschaft』（邦訳名『悦ばしき知識』『華やぐ知慧』『喜ばしき知恵』『楽しい学問』等）の第五書（1887年）を精読する。同書は第一書から第四書までの第一版が1882年に出版されたのち、新たに第五書が付け加わった第二版が1887年に出版された。すでに第一版で「神の死」や「永遠回帰」が語られていたが、『ツァラトゥストラ』（1883-1885年）や『善悪の彼岸』（1886年）を出版したのちに、ニーチェがあらためて自らの哲学のエッセンスを語り直したのが第五書である。そこでは円熟期ニーチェ哲学の中心テーマが集中的に論じられており、彼の哲学の最重要テキストの一つである。本演習ではそのテキストを精読することで、「神の死」「ニヒリズム」「キリスト教道徳批判」「権力への意志」といった彼の哲学の中心問題についての理解を深めたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・哲学の基礎文献を読み解く力をつける。 ・哲学的な問題についてテキストに基づいて議論する力をつける。 ・ニーチェ哲学の中心問題を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 『Die fröhliche Wissenschaft』という著作の概要や背景について解説する。基本的な訳書や概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方について周知する。</p> <p>第2回～第15回 『Die fröhliche Wissenschaft』第五書精読 『Die fröhliche Wissenschaft』第五書を冒頭の節（第343節）から精読する。テキストの一語一句について全員で議論する。受講人数によっては毎回プロトコル担当者を決め、授業の最初に前回のプロトコルを発表してもらいそれについて検討してから、続くテキストの精読を行う予定。</p> <p>フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
原典で読むので、ドイツ語の最低限の読解力は不可欠である。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（訳読担当・プロトコル担当・議論への参加度）で評価する。											
【教科書】											
Friedrich Nietzsche 『Morgenröte / Idyllen aus Messina / Die fröhliche Wissenschaft』（Deutscher Taschenbuch Verlag）ISBN:3423301538（通称「KSA」と呼ばれるグロイター版ニーチェ全集ポケット版の第3巻）											
----- 西洋哲学史〔近世〕(演習)(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

授業中に上記著作の講読箇所のコピーを配布する。

【参考書等】

（参考書）

Werner Stegmaier 『Nietzsches Befreiung der Philosophie: Kontextuelle Interpretation des V. Buchs der "Fröhlichen Wissenschaft"』 (De Gruyter) ISBN:9783110269673 (『Die fröhliche Wissenschaft』 第五書に関する研究書)

Michael Ure 『Nietzsche's The Gay Science: An Introduction』 (Cambridge University Press) ISBN: 9780521144834 (『Die fröhliche Wissenschaft』 の比較的新しい入門書)

Monika M. Langer 『Nietzsche's Gay Science: Dancing Coherence』 (Palgrave Macmillan) ISBN: 9780230580695 (『Die fröhliche Wissenschaft』 に関する注釈書)

（関連URL）

<http://www.nietzschesource.org/#eKGWB/FW-343>(グロイター版ニーチェ全集の無料電子版)

【授業外学修（予習・復習）等】

訳読と議論が中心なので、授業前には必ず講読箇所を予習しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系53

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		西洋哲学史古典精読									
[授業の概要・目的]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> 、精神章B.「疎外された精神」、III.「啓蒙の真理」を精読する。この箇所は、ヘーゲルが「啓蒙の弁証法」としてのフランス革命を描く箇所である。この章の講読を通じて、ヘーゲルのフランス革命批判と啓蒙観を検討する。											
[到達目標]											
哲学史研究に必要なテキスト精読の手法を身に付ける。 ヘーゲルを中心とした哲学史について理解する。 古典的テキストの現代的意義について考察することにより、哲学的思考の訓練を行う。											
[授業計画と内容]											
第1回 イントロダクション 『精神現象学』の成立と研究史について担当者より概説する。授業の進め方と準備・発表の方法を確認し、出席者の担当部分を決定する。 第2回~第14回 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> の講読 G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> を精読し、内容について討論する。学生の習熟度や毎回の予定を示すことはできないが、おおむね下記のPHB版で1回2頁程度を目処として進行する。 第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。											
[履修要件]											
ドイツ語文法を一通り学習し終えていること。											
[成績評価の方法・観点]											
平常点にて評価する。											
[教科書]											
G. W. F. Hegel, <i>Phaenomenologie des Geistes</i> (Felix Meiner) ISBN:978-3-7873-0769-2 Herausgegeben von Heinrich Clairmont und Hans Friedrich Wessels, Philosophische Bibliothek 414. 1987. Neuauflage. Mit einer Einleitung von Wolfgang Bonsiepen											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
講読予定の箇所(2頁程度)について必ず予習してのぞむこと。(授業ではドイツ語の文法上の説明及び内容理解について問うのでそのつもりで準備すること) 関連箇所について既存のコメンタールなどを参照しておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系54

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部哲学科 教授 中川 明才			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィヒテ『自然法の基礎』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>ドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深め、ドイツ語で書かれた原典の読解能力を高める目的で、前期に引き続き、ヨハン・ゴットリーブ・フィヒテの『自然法の基礎』（1796/97年）の精読を行なう。『自然法の基礎』はイエーナ大学教授時代（いわゆるイエーナ期）フィヒテの哲学体系のうち、第一哲学を補完する応用哲学の主要部門に該当する書物である。特に、他者（「私以外の他の有限な理性的存在者」）や自然、相互承認に関する議論を展開したものとしては、カントを継承するとともに、シェリングに屹立し、ヘーゲルの先駆をなすものと解される、カント以後のドイツ古典哲学の問題状況を知るための基本文献である。この授業では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者は必ず予習をして臨み、訳読を行なうとともに、それに加えて、予め担当者を決め、授業冒頭で前回のプロトコルを発表することとする。今学期は、自由な理性的存在者同士の共同性（「法関係」）の存立基盤を論じる「第2部 法概念の適用可能性の演繹」を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>イエーナ期フィヒテの法哲学をはじめとするドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深める。ドイツ語テキストの読解力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション イエーナ期フィヒテの哲学体系構想および『自然法の基礎』「第1部」の概要を説明する。使用するべきテキスト・辞書および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 『自然法の基礎』「第2部」の精読 「授業の概要・目的」で示した方式によって、『自然法の基礎』「第2部」を精読し、内容について討論する。読解個所の難易度と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね「哲学文庫」版テキスト（PhB 256、ドイツ語）の2ページ程度を読み進めることになる。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
<p>精読対象のテキストはドイツ語で書かれているため、ドイツ語の基礎文法を修得していることが望ましい。</p>											
<p>----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----</p>											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

読解および討論への積極的な参加（50点）、プロトコルの発表（50点）により評価する。

【教科書】

Johann Gottlieb Fichte 『Grundlage des Naturrechts nach den Prinzipien der Wissenschaftslehre. PhB 256』
（Felix Meiner Verlag,1979）ISBN:9783787304738（使用テキストは授業初回時に配布します。）

【参考書等】

（参考書）

Johann Gottlieb Fichte 『Foundations of Natural Right』（Cambridge University Press, 2000）ISBN:
0521575915

Jean-Christophe Merle (Hrsg.) 『Johann Gottlieb Fichte, Grundlage des Naturrechts』（Akademie Verlag,
2001）ISBN:3050030232

Günter Zöller 『Fichte lesen』（frommann holzboog Verlag, 2013）ISBN:9783772822414

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、読解箇所を十分に訳読するための予習、および各自の理解・問題意識の精度を上げるための復習を行なうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学文学部哲学科 教授 中川 明才			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フィヒテ『自然法の基礎』精読									
【授業の概要・目的】											
<p>ドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深め、ドイツ語で書かれた原典の読解能力を高める目的で、ヨハン・ゴットリーブ・フィヒテの『自然法の基礎』（1796/97年）の精読を行なう。『自然法の基礎』はイエーナ大学教授時代（いわゆるイエーナ期）フィヒテの哲学体系のうち、第一哲学を補完する応用哲学の主要部門に該当する書物である。特に、他者（「私以外の他の有限な理性的存在者」）や自然、相互承認に関する議論を展開したものとしては、カントを継承するとともに、シェリングに屹立し、ヘーゲルの先駆をなすものと解される、カント以後のドイツ古典哲学の問題状況を知るための基本文献である。この授業では毎週、輪読形式でその精読を行なう。出席者は必ず予習をして臨み、訳読を行なうとともに、それに加えて、予め担当者を決め、授業冒頭で前回のプロトコルを発表することとする。今学期は、自由な理性的存在者同士の共同性（「法関係」）の概念の生成を論じる「第1部 法概念の演繹」の主要箇所にあたる後半部分を読んでいく。</p>											
【到達目標】											
<p>イエーナ期フィヒテの法哲学をはじめとするドイツ古典哲学の主要思想に関する知見を深める。ドイツ語テキストの読解力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション イエーナ期フィヒテの哲学体系構想および『自然法の基礎』「第1部」の概要を説明する。使用するべきテキスト・辞書および基本的な概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。</p> <p>第2回～第14回 『自然法の基礎』「第1部」の精読 「授業の概要・目的」で示した方式によって、『自然法の基礎』「第1部」を精読し、内容について討論する。読解個所の難易度と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね「哲学文庫」版テキスト（PhB 256、ドイツ語）の2ページ程度を読み進めることになる。</p> <p>第15回 まとめ 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読できなかった場合、この回を補充に充てることもある。</p>											
【履修要件】											
<p>精読対象のテキストはドイツ語で書かれているため、ドイツ語の基礎文法を修得していることが望ましい。</p>											
<p>----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----</p>											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

読解および討論への積極的な参加（50点）、プロトコルの発表（50点）により評価する。

【教科書】

Johann Gottlieb Fichte 『Grundlage des Naturrechts nach den Prinzipien der Wissenschaftslehre. PhB 256』
（Felix Meiner Verlag, 1979）ISBN:9783787304738（使用テキストは授業初回時に配布します。）

【参考書等】

（参考書）

Johann Gottlieb Fichte 『Foundations of Natural Right』（Cambridge University Press, 2000）ISBN:
0521575915

Michael Kahlo u.a. (Hrsg.) 『Fichtes Lehre vom Rechtsverhältnis』（Vittorio Klostermann Verlag, 1992）
ISBN:3465025342

Günter Zöller 『Fichte lesen』（frommann holzboog Verlag, 2013）ISBN:9783772822414

【授業外学修（予習・復習）等】

毎回、読解箇所を十分に訳読するための予習、および各自の理解・問題意識の精度を上げるための復習を行なうこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET04 75245 SJ34									
授業科目名 <英訳>		西洋哲学史〔近世〕（演習） History of Western Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 文学部 准教授 景山 洋平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現象学における人間論とその歴史的境界－ハイデガーと京都学派の諸著作から									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、Martin Heideggerの四つのテキスト（Sein und Zeit, Kant und das Problem der Metaphysik, Beitrage zur Philosophie, Unterwegs zur Sprache）の必要箇所を精読し、現象学的存在論における人間の位置を考察する。これと並行して、京都学派の著作（西田幾多郎『善の研究』/『場所的論理と宗教的世界観』、田辺元「人間学の立場」/「生の存在学か死の弁証法か」、九鬼周造「日本詩の押韻」）の必要箇所を参照し、現象学との関係を考察する。現象学的存在論における人間概念は「有限性の超越論」（フーコー）や「人間中心主義」（デリダ）と理解されがちであり、こうした理解はミシェル・アンリなどフランス現象学の歴史的展開と大なり小なり連動している。しかし、ハイデガーの思索の変容はこうした解釈に収まらない人間論の可能性を示唆する。本演習では、京都学派との関係に力点を置くことで、現象学的存在論のこうした潜在力を、なにがしか異質な歴史的地平との関係から検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．演習での訳読作業により、現象学の古典的著作を原書で読解するための語学力を身につける。 2．現象学のテキストの精密な読解と、これを各自の研究に活用するための方法を身につける。 3．ハイデガー哲学の根本問題とその哲学的意義を把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回一名の訳読と報告を行い、それにつづき教員が訳読とテキストの哲学的意義へのコメントを行い、その後は全員で討議する。以下に各回の講読予定を示すが、授業の進捗はそのつど前後しうる。毎回2～3頁ほどハイデガーを講読する他、必要に応じて京都学派のテキストを参照する。</p> <p>第一回 イン트로ダクション 第二回～四回 Sein und Zeit, Einleitungを中心に 第五回～七回 Kant und das Problem der Metaphysik. 図式機能論と自己触発論を中心に 第八回～十回 Beitrage zur Philosophie. 第五部 “Gruendung” と第八部 “Seyn” を中心に 第十一回～十三回 Unterwegs zur Sprache. 論稿 “Die Sprache” と “Das Wort” を中心に 第十四回 講読箇所に関する全体的考察 第十五回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>第二外国語としてドイツ語を履修したことは絶対条件でない。だが、毎回ドイツ語のテキストを講読するので、ドイツ語初心者はできるかぎり早めに最低限の語学力を身につけるよう努めてほしい。</p>											
----- 西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)へ続く -----											

西洋哲学史〔近世〕（演習）(2)

【成績評価の方法・観点】

平常点（授業への参加の質など 70%）と学期末のレポート（30%）で評価する

【教科書】

授業で講読箇所をコピーして配布する。ただし、Martin Heidegger, Sein und Zeit, Max Niemeyerは比較的廉価なので、できれば各自購入してほしい。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

授業前には講読箇所を丁寧に読解し、語学上の事項と内容に関して検討することが必要。また各自の研究上の関心と関係づけて考えたい者は、授業中に提起する問いを準備してほしい。授業後には、講読した箇所の内容をあらためて咀嚼し、各自の研究に活かしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		叡智的世界の哲学－1 感覚と感情									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は2022年度の前期と後期の二部構成で行う。前期は、西田幾多郎をはじめとする京都学派の哲学者における感覚と感情の理解を探り、さらに彼らの哲学理論が感覚・感情と表現方法との連関をどのようにつけたのか、確認することを目的とする。西田哲学の構造の中に位置づけられる叡智的世界に注目し、感覚と感情を「論理」という観点から検討することも、この講義の重要な課題である。また、表現方法は実に多様なものが想定されるが、講義では芸術表現を取り上げることにする。そこで、抽象度の高い哲学理論と表現という実践をいかに接続するのかを検討する。西田や田辺元の思想の抽象性の高さを克服するような叡智的世界の哲学の道を探ることも本講義の一つの目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>京都学派の哲学者における感覚と感情の意味を明らかにし、その表現方法、特に芸術的表現の方法について理解を深める。また哲学における理論と実践の関係を再検討し、抽象度の高すぎる哲学者の思索を批判的に見ることで、より具体的な思考方法とその表現方法はどのようにすれば可能であるかを明らかにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2 西田幾多郎における感覚と感情の理解－ 3 西田幾多郎における感覚と感情の理解－ 4 「場所」の叡智的世界に感覚と感情を位置づける－ 5 「場所」の叡智的世界に感覚と感情を位置づける－ 6 九鬼周造における感覚と感情の理解 7 三木清における感覚と感情の理解 8 中井正一における感覚と感情の理解 9 木村素衛における感覚と感情の理解 10 深田康算における感覚と感情の理解 11 感覚と感情の表現方法－1 12 感覚と感情の表現方法－2 13 理論と実践の問題－抽象の克服－1 14 理論と実践の問題－抽象の克服－2 15 フィードバック 											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点50%と期末のレポート試験50%による。

[教科書]

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		叡智的世界の哲学－2 音楽									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義は「叡智的世界の哲学」の第2部であり、前期の講義の副題にあった「1 感覚と感情」という課題に続き、「音楽」に焦点を当てて考察する。西田幾多郎や田辺元の哲学の抽象性を克服するための思考について検討することを、一つの根本的検討事項とし、その一つの例として音楽におけるいくつかの問題を哲学理論、身体論、前期に考察した感情・感覚論の面から検討することを目的とする。感覚・感情の身体を通じた表現のプロセスを、科学的方法、偶然的方法、即興的方法という観点から分析してみたい。</p>											
【到達目標】											
<p>西田哲学と田辺哲学の特徴を理解し、その抽象性からくる問題を明らかにする。感覚・感情が、西田幾多郎、九鬼周造、三木清などの京都学派の多くの哲学者にとっていかに重要であったかを学ぶ。音楽という芸術の一つの表現方法が、京都学派の感情・感覚論に従い、どのような具体的意義をもってくるかについて理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のような課題を通して考察を深めてゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 趣旨説明と授業計画 2 音楽性の問題－概要 3 音楽性の問題－西田幾多郎 3 音楽性の問題－中井正一 4 音楽性の問題－九鬼周造 5 音楽性の問題－田辺元 6 ヴァレリーによる音楽の理論と実践－1 7 ヴァレリーによる音楽の理論と実践－2 8 哲学と音楽－1 9 哲学と音楽－2 10 哲学と音楽－3 11 音楽の科学的方法・偶然的方法・即興的方法－1 12 音楽の科学的方法・偶然的方法・即興的方法－2 13 音楽の科学的方法・偶然的方法・即興的方法－3 14 音楽の科学的方法・偶然的方法・即興的方法－4 15 フィードバック 											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点50%と後期末のレポート試験50%による。

【教科書】

使用しない
毎回の授業で、講義の資料(要旨・参考文献)を配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

講義を参考とし、自らの研究課題について思索を深める。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、昨年度後期から開始されたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。1924年の西谷の卒論を扱った昨年度に続いて、今年度は1930年代までの諸論考を主に扱っていきたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。</p> <p>2．一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。</p> <p>3．宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2～4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p> <p>1．導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために</p> <p>2．卒論の到達点と西谷宗教哲学の端緒 昨年度の授業の要約</p> <p>3．「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸として</p> <p>4．哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点</p> <p>5．真に「現(Da)」なる処 - 『アリストテレス論攷』とハイデガーのアリストテレス論の並行的読解</p> <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東北大学 大学院文学研究科 教授 直江 清隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		廣松哲学とドイツ哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>廣松渉は戦後を代表する哲学者の1人である。その独自の哲学は、関係の第一次性、事的世界観、四肢構造、共同主観性などのキー概念で知られ、その扱う主題も認識論、科学論、身体論、価値論、社会哲学など広範囲にわたっている。</p> <p>本講義では廣松哲学における幾つかのトピックスを取り上げ、背景となるドイツ哲学と関連付けながら批判的に討究することにより、彼の哲学体系の一端を解きほぐしていくことを目指す。このことはまた、20世紀後半の日本哲学の動向を理解することに繋がるはずである。</p>											
【到達目標】											
廣松哲学とその基礎概念の構成と背景、そしてその現在の意義を再検討することを通じて、哲学の問題にとり組む姿勢や自ら哲学的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい、受講者の関心などに応じて順序や同一テーマの回数などを変えることがある。</p> <p>第1回 20世紀哲学と廣松哲学/『存在と意味』の体系構想 第2回 「もの」から「こと」へ 関数概念と関係主義 第3回 四肢構造論 マッハの現象主義との対峙 第4回 四肢構造論 第5回 視覚的世界と身心の問題 第6回 表情的世界と身心の問題 第7回 表情的世界と共同主観性 第8回 判断論の問題構成 新カント学派 第9回 判断論の問題構成 対象論、現象学など 第10回 判断をめぐる戦前日本哲学の遺構 第11回 学知的反省と当事者意識 第12回 役割行為論 第13回 物象化論の射程 第14回 物象化論の射程 第15回 近代の超克？</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する(80点)。また、授業中の討論への積極的な参加も評価に加える(20点)。レポートで独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

廣松渉 『世界の共同主観的存在構造』(岩波文庫 2017) ISBN:4003812417

廣松渉(熊野純彦編) 『廣松渉哲学論集』(平凡社ライブラリー 2009) ISBN:4582766781

廣松渉 『廣松渉著作集 第1巻-第15巻』(岩波書店 1996)

[授業外学修(予習・復習)等]

各時間の前および後に適宜資料を読み、問題を見いだす。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系61

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立正大学 文学部 教授 板橋 勇仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		身体論としての西田哲学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>後期西田哲学に身体論が展開されていることはよく知られている。しかしこの身体論に焦点を当てた研究成果はまだ多くない。なぜであろうか。西田哲学の出発点は処女作『善の研究』であるが、この『善の研究』にある身体論には注目されてこなかった。そして『善の研究』の身体論から理解してゆかない限り、後期西田哲学の身体論の意義とその射程も明らかにならないであろう。しかも西田哲学の身体論は一貫して、現代日本の身体を取り巻く状況に対して鋭い問題提起を突きつけてくる。初期・後期の西田哲学の身体論を理解し、それを現代の身体状況と照らし合わせるために、以上の問題意識に基づいた拙著『こわばる身体がほどけるとき』を講読する。あわせて拙著が依拠する西田の著作をも具体的に検討し、そのうえで参加者で積極的に議論したい。拙著については、もう一度中心線を骨太に描き直すと共に、拙著には盛り込めなかった、多様な伏線をできる限り追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西田哲学の思想の骨格と身体論の内容について理解し議論できるようになる。 ・現代の身体状況を哲学的に理解し議論できるようになる。 ・現代に対する西田哲学の意義と射程を自分自身で理解し説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 現代の身体状況 第3回 『善の研究』における「経験の場」(1) 第4回 『善の研究』における「経験の場」(2) 第5回 『善の研究』における「身体」 第6回 『善の研究』における「唯一実在の分化発展」 第7回 『善の研究』における「主観的自己」と生 第8回 『善の研究』の身体論の持つ意義 第9回 前半のまとめと中期西田哲学 第10回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(1) 第11回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(2) 第12回 後期西田哲学における「身体」(1) 第13回 後期西田哲学における「身体」(2) 第14回 西田哲学の身体論の現代的意義(1) 第15回 西田哲学の身体論の現代的意義(2)</p>											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

- ・ 平常点で評価する。
- ・ 議論への積極的な取り組み40%、授業内での発言内容30%、小レポート30%。

【教科書】

板橋勇仁 『こわばる身体がほどけるとき』（現代書館）
西田幾多郎 『善の研究』（岩波文庫）

【参考書等】

（参考書）

西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
その他の文献については授業中に紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

テキスト（教科書）の各回の講読範囲となる箇所を事前に読んでおくこと。集中講義なので、第1回授業開始前に、テキスト全体を最後まで通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系62

科目ナンバリング		G-LET05 65331 LJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(特殊講義) Japanese Philosophy(Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 大河内 泰樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ヘーゲルの『精神現象学』における個人と社会									
【授業の概要・目的】											
この授業では、講義担当者の翻訳にもとづいて、ヘーゲルの『精神の現象学』（1807）について講義する。扱うのは「精神章」Aである。精神章Aではまず、ソフォクレスの『アンティゴネー』を下敷きにしながら、ヘーゲルの理解する人倫の概念が古代ギリシアの社会として描かれる。そこでは、家族と国家、人法と神法、男と女、地上の国と地下の国との人倫内部での対立が描かれると同時に、その外に広がる自然との関係において人倫が特徴付けられる。そこからいかにして「法状態としてのアトム的個人への解体が生じ、近代社会が成立するとヘーゲルが見ているのかを明らかにする。											
【到達目標】											
古典的テキストに取りくむことを通じて、テキスト研究としての哲学史研究の基本的な姿勢を身に付ける。 ヘーゲルの哲学的主張を理解した上で、それを関連する哲学史的・現代的問題の文脈において捉え返し、論じることができる。											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス 第2回 精神とは何か 第3回 人倫とは何か 第4回 神の法と人の法 第5回 埋葬という行為 第6回 家族とジェンダー 第7回 人倫と自然 第8回 人倫的行為 第9回 アンティゴネーとオイディプス 第10回 個の成立とアンティゴネー 第11回 法状態について 第12回 ローマ法と近代社会 第13回 帝国とポリス 第14回 予備日 第15回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
----- 日本哲学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

日本哲学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点とレポートにより評価する。フィードバックはレポートの返却により行う。

[教科書]

授業内で配布する。

[参考書等]

(参考書)

『精神現象学』の翻訳については大河内の訳を配布するが、以下の翻訳も手元に置いておくとよいだろう。

檜山欽四郎訳『精神現象学上/下』平凡社ライブラリー、1997年

熊野純彦訳『精神現象学上/下』ちくま学芸文庫、2018年

以下の翻訳は詳細な解説も含んでおり参考になる。

金子武蔵訳『ヘーゲル全集5 精神の現象学 上/下』岩波書店、1979年

また、『精神現象学』の概要について知りたい人には以下をお勧めする。

加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』講談社学術文庫、2012年

[授業外学修(予習・復習)等]

事前に、次回授業で検討するテキストを配布するので、自分で事前に検討しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 75341 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 文学部 准教授 景山 洋平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現象学における人間論とその歴史的境界 - ハイデガーと京都学派の諸著作から									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、Martin Heideggerの四つのテキスト（Sein und Zeit, Kant und das Problem der Metaphysik, Beitrage zur Philosophie, Unterwegs zur Sprache）の必要箇所を精読し、現象学的存在論における人間の位置を考察する。これと並行して、京都学派の著作（西田幾多郎『善の研究』/『場所的論理と宗教的世界観』、田辺元「人間学の立場」/「生の存在学か死の弁証法か」、九鬼周造「日本詩の押韻」）の必要箇所を参照し、現象学との関係を考察する。現象学的存在論における人間概念は「有限性の超越論」（フーコー）や「人間中心主義」（デリダ）と理解されがちであり、こうした理解はミシェル・アンリなどフランス現象学の歴史的展開と大なり小なり連動している。しかし、ハイデガーの思索の変容はこうした解釈に収まらない人間論の可能性を示唆する。本演習では、京都学派との関係に力点を置くことで、現象学的存在論のこうした潜在力を、なにがしか異質な歴史的地平との関係から検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．演習での訳読作業により、現象学の古典的著作を原書で読解するための語学力を身につける。 2．現象学のテキストの精密な読解と、これを各自の研究に活用するための方法を身につける。 3．ハイデガー哲学の根本問題とその哲学的意義を把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回一名の訳読と報告を行い、それにつづき教員が訳読とテキストの哲学的意義へのコメントを行い、その後は全員で討議する。以下に各回の講読予定を示すが、授業の進捗はそのつど前後しうる。毎回2～3頁ほどハイデガーを講読する他、必要に応じて京都学派のテキストを参照する。</p> <p>第一回 インTRODクション 第二回～四回 Sein und Zeit, Einleitungを中心に 第五回～七回 Kant und das Problem der Metaphysik. 図式機能論と自己触発論を中心に 第八回～十回 Beitrage zur Philosophie. 第五部 “Gruendung” と第八部 “Seyn” を中心に 第十一回～十三回 Unterwegs zur Sprache. 論稿 “Die Sprache” と “Das Wort” を中心に 第十四回 講読箇所に関する全体的考察 第十五回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>第二外国語としてドイツ語を履修したことは絶対条件でない。だが、毎回ドイツ語のテキストを講読するので、ドイツ語初心者はできるかぎり早めに最低限の語学力を身につけるよう努めてほしい。</p>											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加の質など 70%）と学期末のレポート（30%）で評価する

[教科書]

授業で講読箇所をコピーして配布する。ただし、Martin Heidegger, Sein und Zeit, Max Niemeyerは比較的廉価なので、できれば各自購入してほしい。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には講読箇所を丁寧に読解し、語学上の事項と内容に関して検討することが必要。また各自の研究上の関心と関係づけて考えたい者は、授業中に提起する問いを準備してほしい。授業後には、講読した箇所の内容をあらためて咀嚼し、各自の研究に活かしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		日本哲学史（演習） Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
[授業の概要・目的]											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」（ハイデガー）と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
[到達目標]											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を（また適宜、斜線を付して行番号をも）示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと講読文献の説明 2. 「前書」と題目(3-7) 3. 「感じ取られる自由の確実性と自由の体系的概念の問題」及び「汎神論概念の諸解釈・その1」（9-12/35） 4. 「汎神論概念の諸解釈・その2」（12/36-16/18） 5. 「汎神論概念の諸解釈・その3」（16/18-21/20） 6. 「汎神論概念の諸解釈・その4」及び「<観念論的・普遍的自由概念>対<人間の生ける自由概念>」（21/21-25/14） 7. 「悪への能力としての人間の自由の問題系（現実性の神的起源に鑑みつつ）」（25/15-29/19） 8. 「自然哲学的演繹（啓示の原理の内的二重性）」（29/20-34/27） 9. 「悪の可能性の演繹・その1」（34/28-39/3） 10. 「悪の可能性の演繹・その2」（39/4-42/16） 11. 「悪の可能性の演繹・その3」（42/17-45/7） 12. 「悪の現実性の演繹・その1」（45/8-48/3） 13. 「悪の現実性の演繹・その2」（48/4-52/29） 											
----- 日本哲学史（演習）(2)へ続く -----											

日本哲学史（演習）(2)

14. 西谷啓治「悪の問題」
15. フィードバック

【履修要件】

ドイツ語を既修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X
Philosophische Bibliothek 503
西谷啓治 『西谷啓治著作集第6巻・宗教哲学』 (創文社)

【参考書等】

(参考書)
シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 岩波文庫・青631-2
F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
[授業の概要・目的]											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲートの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
[到達目標]											
<p>語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4) 6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29) 7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10) 8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17) 9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8) 10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31) 11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87) 12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」 13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ベーメの意志-形而上学について」 14. 総括と総合討論 15. フィードバック 											
----- 日本哲学史(演習)(2)へ続く -----											

日本哲学史（演習）(2)

【履修要件】

ドイツ語を既修していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価する。

【教科書】

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X
Philosophische Bibliothek 503

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

【参考書等】

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 岩波文庫・青631-2

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

【授業外学修（予習・復習）等】

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他（オフィスアワー等）)

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET05 7M244 SJ34									
授業科目名 <英訳>		日本哲学史(演習II) Japanese Philosophy (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 上原 麻有子			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本哲学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>この授業では、日本哲学の主要概念やテーマの理解を深め、また諸問題を自ら新しく掘り起こすことを目的とする。そのために、テキストの読解、研究の口頭発表という二つの方法によって訓練を行う。前期の読解の部では、英語で執筆された文献も取り入れ、同一概念の二言語による説明を理解することで、その本質的な意味や問題点を探究することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>授業の到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代日本の哲学と京都学派およびその周辺の哲学者のテキストを正しく理解し、概念、論旨などを詳細に解説、批評できる。 ・読解訓練を自らの研究論文の執筆に反映させ、適切な学术论文の書き方を身につける。 ・口頭による研究発表の仕方を身につける。 ・英語で執筆された日本哲学の文献を読み、英語による議論の仕方を身につける。 											
【授業計画と内容】											
<p>この授業は、以下の二部で構成される。</p> <p>前期...I 日本哲学の文献の読解</p> <p>1 ガイダンス: 読解は担当制とする。読解用の文献を選ぶ。研究発表の担当を決める。</p> <p>2-3 西田幾多郎の「場所」 とその英訳の読解ー</p> <p>4-5 西田幾多郎の「場所」 とその英訳の読解ー</p> <p>6-7 西田幾多郎の「場所」 とその英訳の読解ー</p> <p>8-9 西田幾多郎の「場所」 とその英訳の読解ー</p> <p>10-11 西田幾多郎の「行為的直観」 とその英訳の読解ー</p> <p>12-13 西田幾多郎の「行為的直観」 とその英訳の読解ー</p> <p>14-15 西田幾多郎の「行為的直観」 とその英訳の読解ー</p> <p>後期...II 参加者の研究発表</p> <p>毎回：一名が口頭発表を行い、それに続いて発表者と参加者が議論する。</p> <p>1 ガイダンス：発表の担当者と日程を決める。論文の書き方などの指導を行う。</p> <p>2-3 発表 ー</p> <p>4-5 発表 ー</p> <p>6-7 発表 ー</p> <p>8-9 発表 ー</p> <p>10-11 発表 ー</p> <p>12-13 発表 ー</p>											
----- 日本哲学史(演習II)(2)へ続く -----											

日本哲学史(演習II)(2)

14-15 発表 -

【履修要件】

日本哲学史専修の大学院生については、必修とする。

【成績評価の方法・観点】

平常点による。平常点は、テキスト読解の仕方、英語理解の能力、研究発表の内容、プレゼンテーションの仕方、議論参加への態度を基準とし、これらに基づき評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

【授業外学修(予習・復習)等】

前期
担当者以外の参加者も、読解するテキストを予習したうえで授業に臨む。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系67

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		福岡大学 人文学部 准教授 林 哲雄			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		デイヴィッド・ヒュームの倫理学									
【授業の概要・目的】											
<p>哲学者デイヴィッド・ヒュームは、海外では、イマヌエル・カントと双璧をなす存在として評価が高いものの、国内ではカントによって乗り越えられたとされ、これまで光を当てられることは少なかった。だが、異彩を放つその思想は、後代の各分野、例えば科学哲学、道徳心理学、メタ倫理学などに多大な影響を与え続けている。</p> <p>本講義では、ヒュームの哲学思想および倫理思想を全般的に理解することを主たる目標に掲げ、それに関連する哲学史上の諸問題にも触れながら、最終的に、ヒュームの思想の現代における重要性について考察する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ヒュームを中心とした近世哲学・倫理学の重要な論点について、状況的背景も含めて理解し、説明することができる ・その上で、関連する議論について批判的な検討を行うことができる ・上記の知識と批判的思考に基づいて、自分の見解を展開し、哲学・倫理的な議論を行うことができる 											
【授業計画と内容】											
<p>01 イントロダクション：講師の自己紹介，ヒュームの生涯とその思想の概要</p> <p>02 ヒュームの哲学思想-1：ヒュームの因果律批判</p> <p>03 ヒュームの哲学思想-2：ヒュームの影響---カントの哲学</p> <p>04 ヒュームの倫理思想-1：理性主義に対する批判その1</p> <p>05 ヒュームの倫理思想-2：理性主義に対する批判その2</p> <p>06 ヒュームの倫理思想-3：存在と当為</p> <p>07 ヒュームの倫理思想-4：ムーアの自然主義的誤謬とフランケナの定義主義的誤謬</p> <p>08 ヒュームの倫理思想-5：道徳感情論その1：共感</p> <p>09 ヒュームの倫理思想-6：道徳感情論その2：一般的観点と一般的規則</p> <p>10 ヒュームの倫理思想-7：ヒュームの正義論</p> <p>11 ヒュームの倫理思想-8：社会契約論批判</p> <p>12 ヒュームの倫理思想-9：後継者アダム・スミス？</p> <p>13 ヒュームの倫理思想-10：ヒュームの徳の規準</p> <p>14 ヒュームの倫理思想-11：ヒュームと徳倫理学</p> <p>15 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート（60%）、および授業における意見・質問・議論への参加度などの平常点（40%）で評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

デイヴィッド ヒューム (著), 神野 慧一郎 (翻訳), 林 誓雄 (翻訳) 『道徳について: 人間本性論 3』 (京都大学学術出版会, 2019年) ISBN:978-4814002443

林 誓雄 『檻褻を纏った徳』 (京都大学学術出版会, 2015年) ISBN:978-4876985494

追加の資料などがある場合には、集中講義期間前に倫理学研究室を通じて受講者に通知するか、授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習として、受講前に、参考書に挙げたヒュームの研究書や翻訳に目を通しておくことが望ましい。また復習として、毎日授業後には、その日に講義で教授された概念や考え方について、自分なりにまとめ直しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

必要であれば集中講義期間に提示します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系68

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀のオックスフォードの倫理学									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、20世紀のオックスフォードの倫理学を、哲学者の人物像や人間関係に焦点を当てながら読み解くことである。本講義を通じて、現代のとくに英語圏の倫理学に対する一つの眺望が得られるだろう。											
[到達目標]											
20世紀のオックスフォードの倫理学の内的発展を理解し、エアやヘアの情動説や指令説といった立場だけでなく、それに対するフットを始めとする批判的な立場についても説明できるようになること。											
[授業計画と内容]											
第1回 インTRODクシヨN 第2回 オックスフォードの女性哲学者 第3回-第6回 G.E.M.アンスコム 第7回-第9回 アイリス・マードック 第10回-第13回 フィリッパ・フット 第14回 マリー・ミジリー、マリー・ウォーノック 第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
各回に提示する課題(7割)と期末レポート(3割)。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://webmedia.akashi.co.jp/posts/2363 (参考として連載の関連するものに目を通しておくこと。)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系69

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		20世紀のオックスフォードの倫理学									
[授業の概要・目的]											
本講義の目的は、20世紀のオックスフォードの倫理学を、哲学者の人物像や人間関係に焦点を当てながら読み解くことである。本講義を通じて、現代のとくに英語圏の倫理学に対する一つの眺望が得られるだろう。											
[到達目標]											
20世紀のオックスフォードの倫理学の内的発展を理解し、エアやヘアの情動説や指令説といった立場だけでなく、それに対するフットを始めとする批判的な立場についても説明できるようになること。											
[授業計画と内容]											
第1回 イン트로ダクション 第2回-第5回 R.M.ヘア 第6回-第8回 P. ストロークソン 第9回-第11回 B. ウィリアムズ 第12回-第14回 パーフィット 第15回 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
授業中の報告または課題回答(7割)と期末レポート(3割)。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
(関連URL)											
https://webmedia.akashi.co.jp/posts/2363 (参考として連載の関連するものに目を通しておくこと。)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
前の週に指定した文献を読んでくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系70

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		An Introduction to Bioethics									
【授業の概要・目的】											
<p>Is it okay to take pills to help you ace exams? Should you be able to choose the sex of your child? Is abortion murder?</p> <p>These controversial questions will be explored in this bioethics course. Bioethics is an interdisciplinary field of study that looks into ethical, legal, and social implications of life sciences and health care. This course will help you understand key ethical issues surrounding crucial problems that profoundly impact your life from birth to death.</p> <p>Topics include:</p> <p>Reproductive technology such as surrogacy and sex-selection of the baby Abortion Informed consent Euthanasia The use of medical technology for the purpose of enhancement</p> <p>You will also learn about ethical arguments and regulations in Japan and other countries concerning life sciences and healthcare. The hope is, through this course, you will better understand and formulate your own opinions on these important issues.</p> <p>This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students.</p> <p>Study Focus: Knowledge, Belief and Religion; Society, Economy and Governance. Modules: Focus I -- Foundations I.</p>											
【到達目標】											
<p>You will learn:</p> <p>Basic terms for bioethics Basics of ethical arguments How decisions are made on critical bioethics issues Regulations and public policies related to bioethical issues in Japan and other countries</p>											
【授業計画と内容】											
<p>Discussion topics include:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. What is Bioethics? 2. The Ethics of Assisted Reproductive Technology 3. The Ethics of Truth-Telling 4. Is Abortion “ Murder ” ? 5. What ’ s Wrong with Enhancement? 6. Is Euthanasia Wrong? 7. Living-Donor Organ Transplantation 8. Cloning Technology 9. ES Cells and iPS Cells 10. Lifespan and Eternal Life 											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

11. Brain Death and Organ Transplants
12. Genome Editing and Ethics
13. The Problem with "Suicide Tourism"
14. Forgoing Life-Sustaining Treatment
15. The Ethics of Ageing

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (70%), small quiz tests that come with the video lectures (30%).

【教科書】

Kodama, Satoshi & Natsutaka 『EXPLORING BIOETHICS THROUGH MANGA: Questions on the Meaning of "Life" 』 (Kyoto: Kagakudojin) ISBN:978-4759827774

【参考書等】

(参考書)

Tony Hope and Michael Dunn 『Medical Ethics: A Very Short Introduction 2nd ed.』 (Oxford University Press) ISBN:978-0198815600

【授業外学修（予習・復習）等】

This course is based on the idea of flip teaching: you need to watch the lecture video before attending the class and have a discussion with other students. Each lecture video with a small quiz test lasts for less than one hour.

（その他（オフィスアワー等））

Students are encouraged to try to understand each other's perspective on issues related to life and death.

*Please visit KULASIS to find out about office hours.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系71

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 Campbell, Michael			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		The Paradox of Authority: Peter Winch ' s Political Philosophy									
[授業の概要・目的]											
<p>Peter Winch (1926 - 1997) was one of the most important British philosophers of the post-War period. He was known for his contributions to the philosophy of social science, Wittgenstein scholarship, ethics, political philosophy, and the philosophy of religion. His work includes <i>On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy</i> (Routledge, 1958), <i>Simone Weil: The Just Balance</i> (Cambridge University Press, 1989) and numerous articles, the most important of which were reprinted in his collections <i>Ethics and Action</i> (Routledge, 1972) and <i>Trying to Make Sense</i> (Basil Blackwell, 1987).</p> <p>In this course students will be introduced to Peter Winch's work through considering his approach to questions of political philosophy. When Winch died he was working on a book on the nature of political authority and the justification of the state. In the lecture course we will study Winch's unpublished manuscript, together with his published writings on political authority and relevant secondary literature. We will consider how Winch might have developed the manuscript further, and what makes his approach to questions of political authority and legitimacy unique.</p> <p>Topics that we will cover include: the nature and justification of political authority, the relation between power and justification, and the concept of 'the state' and its relation to the institutions and individuals which constitute it. As well as looking in detail at the work of Peter Winch, we will also consider how these issues are dealt with by thinkers including Hobbes, Hume, Rousseau, and Simone Weil.</p> <p>Through participating in this course, students will get an insight into the thought of one of the leading philosophers in the 20th Century, as well as an improved understanding of issues in classical and contemporary political philosophy. Students will also get a chance to work with philosophical texts in a range of forms, through comparing Winch ' s published papers to both his lecture notes and his unfinished manuscript.</p>											
[到達目標]											
<p>To introduce students to the work of one of the 20th Century ' s most important philosophers.</p> <p>To familiarise students with some of the aims, methods and problems of both classical and contemporary political philosophy.</p> <p>To develop a deepened understanding of certain perennial questions concerning the nature of the state, authority and justification.</p> <p>To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English.</p>											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

[授業計画と内容]

Weeks 1 - 3 Background: Peter Winch ' s philosophical approach
Weeks 4 - 7 From the ' Paradox of Authority ' to the ' Authority of Reason '
Weeks 8 - 11 Winch ' s Critique of the Social Contract Tradition
Week 12 - 14 From the ' Habit of Obedience ' to ' Fluency in the Language of Critique '
Week 15 Feedback class

Note that this schedule is provisional and may change as the course goes on.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Students will be evaluated by a midterm paper (40%) and a final paper (60%), which will be graded out of 100. Papers must be written in English and be approximately 1000 words long.

[教科書]

Students will be distributed copies of Winch's relevant papers, as well as relevant secondary literature. Important background reading is Peter Winch's *On the Idea of a Social Science and its Relation to Philosophy* (ISBN: 978-0415423588), and students may if they wish consider purchasing their own copy of this book. It is also available in Japanese translation.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes or writing exercises to test students comprehension of the material.

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系72

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 助教 Campbell, Michael			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		Morality, Culture and Relativism									
【授業の概要・目的】											
<p>In this course we will consider issues around the understanding and evaluation of other cultures. How far can moral judgements cross cultural contexts? What is necessary for cross-cultural judgements to be both true and appropriate? Under what conditions can we responsibly judge the behaviour of others? Is belief in a universal human nature either necessary or sufficient for justifying a stock of common moral commitments? We will consider these questions through examining how moral philosophers have dealt with issues around relativism and the representation of individual and cultural difference. Along the way we will consider the plausibility of cultural relativism, and will examine what function evaluative judgements might serve when they cross cultural or temporal contexts. As well as introducing students to a central issue in moral philosophy, participants in this course will have the opportunity to engage with important contemporary thinkers working at the forefront of issues around the nature and limits of moral judgement, including Cora Diamond and David Wong.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> - To introduce students to philosophical controversies surrounding relativism, objectivity and the understanding of other cultures. - To familiarise students with some of the aims, methods and problems of contemporary moral philosophy. - To develop students' ability to reason critically, to construct and critique arguments and to write philosophical essays in English. 											
【授業計画と内容】											
<p>This schedule is indicative only and is liable to change as the lectures progress.</p> <p>Weeks 1 - 3 Understanding a ' Primitive ' Society</p> <p>Weeks 4 - 7 Conceptualizing Individual and Social Change</p> <p>Weeks 8 - 11 The Relativism of Distance</p> <p>Week 12 - 14 Understanding Others: Understanding Ourselves</p> <p>Week 15 Feedback class</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 倫理学(特殊講義) (2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

Evaluation will be conducted via quiz (40%) and final essay (60%). Students will be awarded a raw score grade (0-100).

[教科書]

Students will be provided with copies of the relevant primary texts ahead of time.

[参考書等]

(参考書)

[授業外学修(予習・復習)等]

Students will be provided with texts in English to read in preparation for the class. Periodically there will be optional short quizzes to test students comprehension of the material. During the semester students will be expected to prepare for their final essay.

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系73

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊勢田 哲治 学際融合教育研究推進センター 特定助教 清水 雄也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宇宙倫理学入門									
【授業の概要・目的】											
近年，人類の宇宙進出が急速に進展しつつある．地球外への活動領域拡大は，私たちに様々な恩恵をもたらすと同時に，新たな倫理的課題を突きつけることになるだろう．本講義では，人類の宇宙進出に伴う倫理的諸課題と，それらをめぐる倫理的議論の概要を学ぶ．											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人類の宇宙進出に伴う様々な倫理的課題を理解する． ・ 宇宙倫理的課題に関する哲学者たちの見解や論証を理解する． 											
【授業計画と内容】											
<p>講義は基本的に清水が担当する．基本的に以下の計画にしたがって講義を進める．ただし，進捗に応じて多少変更する場合がある．</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宇宙倫理学の概要 An overview of space ethics 2. 宇宙倫理学と規範倫理学 Space ethics and normative ethics 3. 宇宙進出擁護論の神話 Myth-based space advocacy 4. 有人宇宙活動 Manned Space Program 5. 宇宙機の事故リスク Accident risks of spacecrafts 6. 地球環境と宇宙開発 The Earth's environment and space development 7. スペースデブリ Space debris 8. 中間セッション#8212#8212期末レポートについて An interim session: some advice for writing the term paper 9. テラフォーミング Terraforming 10. 宇宙ビジネス Space business 11. 安全保障と宇宙開発 National security and space development 12. 地球外資源開発 Extraterrestrial resource development 13. ロボットと宇宙開発 Robots and space development 											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

14. 人類存続義務

The duty to support the survival of humanity

15. 講義のまとめ

Wrap-up

【履修要件】

必須ではないが、思想文化学系共通科目の倫理学（講義）を履修済みであるか同時期に受講していることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

期末レポートにより評価する。到達目標の達成度（講義内容の理解度）に基づく評価を基本とするが、独自の学習や考察を適切に盛り込んだものには特に高い評価を与える。

【教科書】

伊勢田哲治ほか編 『宇宙倫理学』（昭和堂, 2018）ISBN:9784812217382（講義に持参することが望ましいが、しなくてもよい。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習：特に必要ないが、教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。
復習：講義で扱われた問題について自ら考察する。講義時に紹介された文献を読む。

（その他（オフィスアワー等））

・この授業は宇宙総合学研究ユニットの提供する宇宙倫理学教育プログラムの必修科目です。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET06 65431 LJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(特殊講義) Ethics (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京大学 総合文化研究科 准教授 鈴木 貴之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		人工知能の哲学									
【授業の概要・目的】											
<p>1970年代から80年代にかけての第2次人工知能ブーム期には、人工知能の可能性と限界に関して、哲学者を交えた活発な議論が行われていた。そこでは、人間のような知能をもつ人工知能を実現することが不可能だと主張する哲学者も少なくなかった。その後、深層学習などの新たな手法の発展によって、人工知能研究は飛躍的な進展を遂げた。この進展によって、過去の哲学者による批判は克服されたのだろうか。汎用人工知能や人工超知能の実現は時間の問題なのだろうか。</p> <p>この講義では、第2次人工知能ブーム期までの古典的な人工知能研究とそれに対する哲学的な批判を振り返るとともに、その後の人工知能研究の発展をたどり、現在の人工知能にはどのような原理的な課題や限界があるのかを検討したい。同時に、汎用人工知能の実現という文脈を超えて考えたときに、知的道具としての人工知能にはどのような可能性があるかということについても検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能研究の基本的な発想を理解する。 ・古典的な人工知能研究に対する哲学者の批判を理解する。 ・近年の人工知能研究の主要な手法の概略を理解する。 ・現在の人工知能の課題と限界について理論的な考察ができるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>講義では、以下のテーマについて論じる予定である。それぞれのテーマについて、60分ほど講義をした後、30分ほどその内容について参加者全員で議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工知能研究の基本的発想 2. 古典的人工知能研究：演繹的推論 3. 古典的人工知能研究：探索 4. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：意味理解 5. 古典的人工知能研究に対する哲学的批判：関連性 6. 現代の人工知能研究：機械学習 7. 現代の人工知能研究：深層学習 8. 現代の人工知能研究：強化学習 9. 人工知能と人間の心：視覚情報処理 10. 人工知能の人間の心：自然言語処理 11. 人工知能と人間の心：運動制御 12. 現代の人工知能研究の課題と限界：汎用知能は可能か 13. 現代の人工知能研究の課題と限界：身体的重要性 14. 現代の人工知能研究の課題と限界：道具としての人工知能 15. まとめ 											
----- 倫理学(特殊講義)(2)へ続く -----											

倫理学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

議論への参加（30％）とレポートの内容（70％）によって評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

メラニー・ミッチェル 『教養としてのAI講義』（日経BP）ISBN:978-4296000128

谷口忠大 『イラストで学ぶ人工知能概論』（講談社）ISBN:978-4065218846

その他の参考書は授業中に随時紹介します。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前の予習はとくに必要ありませんが、上記の参考書に目を通しておくと見通しがよくなると思います。

（その他（オフィスアワー等））

講義の前に最新の授業計画をKULASISの授業ページにアップする予定です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系75

科目ナンバリング		G-LET06 75440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		倫理学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
倫理学に関する論文執筆とプレゼンテーションの能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
出席者が自分の研究内容について報告し、討論を行う。報告者は、発表の一週間前にレジュメを提出し、当日は発表スライドを用いて報告すること。他専修の参加も歓迎するが、倫理学専修の大学院生は必修。なお、報告者は必ず報告の一週間前に完全原稿を配布すること。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告と討論への参加によって評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
事前配布レジュメを熟読のこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

思想文化学系76

科目ナンバリング		G-LET06 75440 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 児玉 聡			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		応用倫理学演習									
[授業の概要・目的]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のためのトレーニングを行う。											
[到達目標]											
応用倫理学に関するプレゼンテーション、および論文執筆のための能力を養う。											
[授業計画と内容]											
生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理・工学倫理などの応用倫理学に関する諸問題を検討する。若干の予備的講義の後、毎週出席者による発表と討論を行う。他学部、倫理学専修以外の出席者も歓迎する。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
報告の評価と出席などの平常点による。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学 文学部 准教授 鈴木 崇志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		フッサール『デカルト的省察』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、エトムント・フッサール(1859-1938)の『デカルト的省察』(1931)を読み、そこで提示されている現象学の構想、およびそれにもとづく他者論の内容について解説と討論を行う。その名のとおりデカルトの『省察』を範として書かれた本書は、全部で五つの「省察」からなる。特に最後の第五省察において展開された感情移入論は、同書の仏訳者の一人でもあったエマニュエル・レヴィナス(1906-1995)らによって批判的に受容されたことでも知られている。したがって同書の意義や限界を明らかにすることは、現象学的他者論のその後の展開を理解する上でも重要である。そこで本演習では、同書第五省察を精読し、現象学における「他者経験」、およびその一種としての「感情移入」とは何であったかについて受講者とともに考えてみたい。それを通じて、哲学・倫理学において他者について論じるための視座を与えることが、本演習の最終目的である。</p> <p>なお、本演習は基本的に『デカルト的省察』のドイツ語版原典を訳読するかたちで進めていくが、ドイツ語未修者はフランス語訳や英語訳を使用してもよい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) フッサールの現象学の用語や方法についての基礎的な知識を得ること</p> <p>(2) 『デカルト的省察』のドイツ語版原典をフランス語訳や英語訳と照合しつつ訳読することを通じて、テキストを正確に読む力を身につけること</p> <p>(3) 『デカルト的省察』第五省察で提示されている感情移入論について批判的に吟味することを通じて、哲学・倫理学における「他者」の問題について自分なりの考察ができるようになること</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 授業の進め方の説明、および『デカルト的省察』第1～第4省察の解説</p> <p>第2回 『デカルト的省察』第42～43節の解説</p> <p>第3回～7回 『デカルト的省察』第44節の訳読</p> <p>第8回～9回 『デカルト的省察』第45～48節の解説</p> <p>第10回～15回 『デカルト的省察』第49節以降の訳読</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 倫理学(演習) (2)へ続く -----											

倫理学(演習) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 (100%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

鈴木崇志 『フッサールの他者論から倫理学へ』 (勁草書房、2021年) ISBN:9784326102938

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回、該当範囲についてのノートや訳文の作成が求められます。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系78

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 三上 航志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		デカルト『情念論』の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業では、R. デカルトの『情念論』（1649）を取り上げ精読することで、そこで扱われている哲学的問題を分析しつつ、哲学・哲学史研究に必要なスキルを獲得することを目的としている。『情念論』は、一般に、近代的な哲学的感情論を切り開いた著作として評価されるが、その思想史的位置づけや現代的評価にも目を配ることで、過度にテクニカルな議論に陥ることなく、大局的なテキスト理解を目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・デカルトの体系における『情念論』の位置づけや、そこで展開されている議論と他の著作における議論との関連を理解することができる。 ・文献研究に必要な、基本的な語学的スキルや解釈の作法を、身につけることができる。 ・哲学的感情論に関する、大まかな見取り図を作成することができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第一回目：イントロダクション、履修上の注意、担当範囲の決定、準備・発表方法の周知 第二回目～第五回目：『情念論』第一部の精読、議論 第六回目～第十回目：『情念論』第二部の精読、議論 第十一回目～第十四回目：『情念論』第三部の精読、議論 第十五回目：まとめ、フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点での評価。 ・担当箇所の発表の完成度と、各回の授業内における議論への参加度を総合して評価する。 											
【教科書】											
<p>授業中に指示する 『情念論』のテキストは、アダン＝タヌリ版デカルト全集及び、ロディス＝レヴィス校訂版の両方を用いる。また、フランス語未履修者は、Stoothoffらによる英訳を使用して授業に参加することも可とする。いずれのテキストも、第一回目の授業で配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する 日本語訳に関しては、『方法序説・情念論』（野田又男（訳）、中央公論新社、1974年）を主に参</p>											
倫理学(演習) (2)へ続く											

倫理学(演習) (2)

照するが、必要に応じて、『情念論』（谷川多佳子（訳）、岩波文庫、2008年）も参考にする。

【授業外学修（予習・復習）等】

〔予習〕 訳読担当箇所でない場合でも、次回の授業内で扱うテキストには目を通し、内容を把握しておくこと。

〔復習〕 各回で議論された点について、関係する文献を各自リサーチする。

（その他（オフィスアワー等））

・履修者には、第一回目の授業で、メールアドレスを公開する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系79

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34											
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 美術学部 講師				永守 伸年	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		カント『判断力批判』の研究											
[授業の概要・目的]													
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilskraft")のドイツ語テキストを精読する。本年度は「第二序論」から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。													
[到達目標]													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・ 『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 													
[授業計画と内容]													
<p>第1回～第2回 イン트로ダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『判断力批判』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『判断力批判』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>													
[履修要件]													
特になし													
[成績評価の方法・観点]													
平常点(100%)													
[教科書]													
授業中に指示する													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学修(予習・復習)等]													
精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

思想文化学系80

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34											
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学 美術学部 講師				永守 伸年	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語		
題目		カント『判断力批判』の研究											
[授業の概要・目的]													
カントの『判断力批判』("Kritik der Urteilskraft")のドイツ語テキストを精読する。本年度は「第二序論」から読み進めていく。カントの批判哲学全体の構想を射程におさめつつ、『判断力批判』を美学と倫理学の両面から考察することが本授業の目的である。													
[到達目標]													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 18世紀ヨーロッパ哲学の状況を踏まえつつ、『判断力批判』の方法と構造を理解する。 ・ 『判断力批判』の記述における論証を抽出し、その内容を批判的に考察する。 													
[授業計画と内容]													
<p>第1回～第2回 イン트로ダクション カントの批判哲学の基本的な成り立ちを説明した上で、『判断力批判』の位置を解説する。また、使用するテキストや参照する先行研究を含め、精読の手続きと方法を参加者に周知する。</p> <p>第3回～第14回 『判断力批判』精読 毎回ドイツ語テキストの訳読担当者を決め、担当者はグーグルドキュメントの共有ファイルに翻訳と分析を記す(ドイツ語未習者は英語訳のテキストを用いても構わない)。授業中はその内容を参加者全員で詳細に吟味し、議論する。</p> <p>第15回 フィードバック 精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。</p>													
[履修要件]													
特になし													
[成績評価の方法・観点]													
平常点(100%)													
[教科書]													
授業中に指示する													
[参考書等]													
(参考書) 授業中に紹介する													
[授業外学修(予習・復習)等]													
精読はグーグルドキュメントの共有ファイルを用いて進められる。参加者はドキュメントに積極的にコメントし、授業時間の内外を問わずテキストを検討してほしい。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

思想文化学系81

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メルロ = ポンティを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランスの現象学者メルロ=ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。</p> <p>前期授業ではメルロ = ポンティの『意味と無意味』収録の「映画と新しい心理学」という論文から知覚論に関連する箇所を抜粋して仏語原語で読むことにする。</p>											
[到達目標]											
<p>メルロ = ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解するとともに、今までの知覚観を覆す彼の知覚論を通じて、知覚と世界、私のあり方についての考えを深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業はメルロ = ポンティの「映画と新しい心理学」(『意味と無意味』収録)の中から知覚論に関連する箇所を抜粋、熟読することで、彼の魅力的な思想の大枠の理解を試みたい。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～第14回：上記著作の該当箇所の精読 第15回：フィードバック(フィードバックの詳細は別途連絡する。)</p>											
[履修要件]											
<p>仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点</p>											
[教科書]											
<p>M. Merleau-Ponty 『Sens et non-sens』(Nagel) テキストは上記著作の講読箇所をプリントにして配付する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

思想文化学系82

科目ナンバリング		G-LET06 75443 SJ34									
授業科目名 <英訳>		倫理学(演習) Ethics (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 義之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メルロ = ポンティを読む									
[授業の概要・目的]											
<p>フランスの現象学者メルロ=ポンティは、もっぱら知覚論や身体論において、主体の事実的なあり方、主体によって生きられた世界の姿について、斬新な見解を示した。</p> <p>後期はメルロ = ポンティの名著『知覚の現象学』をフランス語で読む。身体論に関する箇所をとりあげる。</p>											
[到達目標]											
<p>メルロ = ポンティの著作を精読することで、彼の思想を理解するとともに、彼の独自の身体論を通じて、身体および身体がかかわるこの世界についての考えを深める。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>授業で扱うテキストはメルロ = ポンティの名著『知覚の現象学』である。この著作の中から身体論に関する箇所を抜粋、熟読することで、彼の独自の身体論の大枠とメルロ = ポンティの思想の核心の理解を試みたい。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～第14回：上記著作の該当箇所の精読 第15回：フィードバック（フィードバックの詳細は別途連絡する。）</p>											
[履修要件]											
<p>仏語原典で読むので、フランス語の最低限の読解力は不可欠である。</p>											
[成績評価の方法・観点]											
<p>平常点</p>											
[教科書]											
<p>M. Merleau-Ponty 『Phénoménologie de la perception』 (Gallimard) テキストは上記著作の該当箇所をプリントにして配付する。</p>											
[参考書等]											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
[授業外学修(予習・復習)等]											
<p>当日授業で扱う箇所の予習は不可欠である。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「自覚」論的観点からの西洋哲学・宗教思想史の試み									
[授業の概要・目的]											
<p>「自覚」とは西田哲学の中心概念であり、かつ西田に始まる「京都学派」の哲学者たちが緩やかに共有する思考態度の表現である。だが、この語は元々「自己意識」に当たる西洋語の翻訳語として導入され、西田以前に一定程度使用されていたものであった。そのため、「アウグスティヌスの自覚」や「デカルトの自覚」といった表現が、違和感なく成り立ちえたのである。</p> <p>だとすれば、京都学派の哲学を通して豊かに展開されたこの自覚概念を手引きとして、西洋哲学や宗教思想においてそれに対応する事象を見出し、それを自覚概念の光の下で新たに解釈し直すことも可能ではないか。本講義では、このような仕掛けを組みこんだ形で、宗教哲学を学ぶ上で重要な哲学・宗教思想の数々を年代順に通覧していくことによって、「自覚」論的観点から読み直された西洋哲学・宗教思想史の一端を提示してみたい。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 「京都学派」の哲学者たちが緩やかに共有する「自覚」という思考態度について、その形成と背景、および哲学的可能性を理解する。</p> <p>2. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような西洋哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>3. 個々の思想家や思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も部分的には変更の可能性がある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自覚」概念の形成と背景、およびその哲学的可能性 2. デカルトの自覚 - コギトと神証明の自覚論的再考 3. メーヌ＝ド＝ピランの自覚 - 「内奥感の原初的事実」と自覚する身体 4. カントの自覚 - 「超越論的統覚」から「根源悪」論まで 5. ベルクソンの自覚 - 「純粹記憶の平面」の自覚論的再考 6. ハイデガーの自覚 - 自覚の場としての「現(Da)」 7. ユダヤ/キリスト教の自覚 - 「啓示」の自覚論的解釈 											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、昨年度後期から開始されたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。1924年の西谷の卒論を扱った昨年度に続いて、今年度は1930年代までの諸論考を主に扱っていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。 2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。 3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2～4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために 2. 卒論の到達点と西谷宗教哲学の端緒 昨年度の授業の要約 3. 「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸として 4. 哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点 5. 真に「現(Da)」なる処 - 『アリストテレス論攷』とハイデガーのアリストテレス論の並行的読解 <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ユダヤ的神話の解釈学（掟の侵犯を中心に）									
【授業の概要・目的】											
<p>古来、ミュートスはたえずロゴスを活気づけてきた。古典的な思想はいうに及ばず、現代の諸思想もまた、なお現存する神話的虚構を人間認識のための重要な素材として扱っている。たとえば、古代ギリシアの神話的（ノ叙事詩的）語りへの反応は、プラトン哲学ばかりでなく、ホルクハイマー／アドルノやヴェイユの哲学にも見られる。また、「オイディプス」や「アンティゴネ」といった神話的（ノ悲劇的）形象は、哲学・精神分析・フェミニズムなどを介して、今日に至るまでたえず別様に語り直されてきた。</p> <p>本講義では、いくつかのユダヤ的な神話素に焦点を絞り、それを現代の哲学者たちがどのように解釈しているのかを確認しつつ、思索の糧としたい。中でも重視しているのは、「神的な命令（掟）とそこからの逸脱（侵犯）」という古代イスラエルの宗教に顕著な問題設定である。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．現代宗教哲学による物語解釈の基本的事項を理解する。 2．哲学と神話との関係性を洞察した上で、前者を後者に適用しつつ思索することができる。 3．複数の立場に関する学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から本格的な議論に入ってゆくが、講義の性質上、各サブトピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．導入的概説【1週】 2．原罪神話【4週】 3．族長神話【3週】 4．脱出神話【2週】 5．法の神話【4週】 6．フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各テーマで扱う神話については、そのつど授業時に該当範囲を示しておくので、予習として少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その回の講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ミシェル・アンリの哲学思想 導入と展開									
【授業の概要・目的】											
<p>前世紀に独創的な「生の現象学」を打ち立てた哲学者ミシェル・アンリ（1922-2002）は今年、生誕100年、死後20年を同時に迎える。これを記念して、本授業では、アンリ哲学の総体的評価を遂行するとともに、そこから引き出しうる発展的議論のいくつかを提起するつもりである。</p> <p>かつて「フランス現象学の神学的転回」の一翼を担う人物と目されていたアンリであるが、その思想に見られる「神学的」要素も、「現象学」的要素も、一義的に画定することはできない。授業ではこのような複雑さを考慮しつつ、初学者向けにアンリ思想の基礎理論を一通り説明したあと、場合によってはアンリ自身が目指していた議論の意図からも外れる形で、その応用可能性を探ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．ミシェル・アンリの哲学思想を正確に理解し、その特性を把握する。 2．現代フランス現象学と宗教哲学との関係性を洞察した上で、前者を後者に適用しつつ思索することができる。 3．複数の相互に関連する哲学的諸概念の学習や研究を通して、各人が自らの考えを展開できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>初回は導入に当てる。第2回から徐々に本格的議論に入ってゆくが、講義の性質上、各サブトピックに対して【 】で指示した週数を充てる。各々を論じるのに時間が足りない場合は、問題を深く掘り下げてゆく目的で、週数を調整・変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．イントロダクション【1週】 2．アンリ哲学の基本線：内在と情感性【3週】 3．アンリ哲学の転回点：他者と宗教性【3週】 4．社会理論としての内在論【1週】 5．自己触発の意味と拡張【3週】 6．問われる身体【3週】 7．フィードバック【1週】 <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『ミシェル・アンリ読本』(法政大学出版局、2022年)(副読本として利用する予定。詳細は授業時に説明する。)

ポール・オーディ(川瀬雅也訳)『ミシェル・アンリ:生の現象学入門』(勁草書房,2012年)
ISBN:4-326-15423-4

[授業外学修(予習・復習)等]

初回授業時に必要な基本文献を紹介するので、その中から各人の関心に基づいてテキストを選び、少しでも目を通しておくと授業の理解が深まるだろう。授業後は、その講義内容を復習することで、自らの学習や研究に生かせるよう心がけてもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 文学部 准教授 鬼頭 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世俗とは何か：政治と宗教とのかかわり									
【授業の概要・目的】											
<p>近代以降、宗教と政治とのかかわりについて考えるとき、「政教分離」という思想のもと、両者は対立的に考えられてきました。ここに至るまでには、近代化、世俗化という過程を経ています。しかし、現代においては宗教と政治は容易に分けられるものではなく、また宗教概念も個人の内面的なものの表現に留まるものではないことが、多くの思想家たちによって指摘されています。本授業では、世俗とは何か、公共圏とは何かを探求し、世俗主義に関連する政治的価値（自由、正義、寛容、人権など）と宗教思想とのかかわり、また世俗の時代における人間理解について考えます。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代に至る宗教思想と政治哲学のかかわりについて、世俗化、世俗主義を鍵概念として基礎的な流れを説明できる。 ・現代における宗教の役割について、自身の見解を持つことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを中心にして進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序や内容などを変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世俗、世俗化、世俗主義 2 聖なるもの、世俗的なもの 3 啓蒙主義による社会の世俗化と宗教の近代化 4 公共圏の誕生 5 私的宗教と公的宗教、国家と宗教 6 宗教的教義の相対化と道徳の内面化 7 信仰と理性 8 世俗の時代における政治の役割 9 宗教倫理と世俗主義の人道主義 10 宗教的自由をめぐる問題 11 宗教的寛容 12 世俗の時代における宗教原理主義 13 世俗と暴力の宗教的側面 14 人権概念を通じた「人間」の再構築 15 フェミニズムと世俗主義 											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）と学期末のレポート（80点）により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価をおこなう。

【教科書】

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式でおこなう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・議論する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 65531 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(特殊講義) Philosophy of Religion (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		立正大学 文学部 教授 板橋 勇仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		身体論としての西田哲学の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>後期西田哲学に身体論が展開されていることはよく知られている。しかしこの身体論に焦点を当てた研究成果はまだ多くない。なぜであろうか。西田哲学の出発点は処女作『善の研究』であるが、この『善の研究』にある身体論には注目されてこなかった。そして『善の研究』の身体論から理解してゆかない限り、後期西田哲学の身体論の意義とその射程も明らかにならないであろう。しかも西田哲学の身体論は一貫して、現代日本の身体を取り巻く状況に対して鋭い問題提起を突きつけてくる。初期・後期の西田哲学の身体論を理解し、それを現代の身体状況と照らし合わせるために、以上の問題意識に基づいた拙著『こわばる身体がほどけるとき』を講読する。あわせて拙著が依拠する西田の著作をも具体的に検討し、そのうえで参加者で積極的に議論したい。拙著については、もう一度中心線を骨太に描き直すと共に、拙著には盛り込めなかった、多様な伏線をできる限り追ってみたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西田哲学の思想の骨格と身体論の内容について理解し議論できるようになる。 ・現代の身体状況を哲学的に理解し議論できるようになる。 ・現代に対する西田哲学の意義と射程を自分自身で理解し説明できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2回 現代の身体状況 第3回 『善の研究』における「経験の場」(1) 第4回 『善の研究』における「経験の場」(2) 第5回 『善の研究』における「身体」 第6回 『善の研究』における「唯一実在の分化発展」 第7回 『善の研究』における「主観的自己」と生 第8回 『善の研究』の身体論の持つ意義 第9回 前半のまとめと中期西田哲学 第10回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(1) 第11回 後期西田哲学における「経験の場」と「制作」(2) 第12回 後期西田哲学における「身体」(1) 第13回 後期西田哲学における「身体」(2) 第14回 西田哲学の身体論の現代的意義(1) 第15回 西田哲学の身体論の現代的意義(2)</p>											
----- 宗教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

宗教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

- ・ 平常点で評価する。
- ・ 議論への積極的な取り組み40%、授業内での発言内容30%、小レポート30%。

[教科書]

板橋勇仁 『こわばる身体がほどけるとき』（現代書館）
西田幾多郎 『善の研究』（岩波文庫）

[参考書等]

（参考書）

西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
西田幾多郎 『西田幾多郎哲学論集 』（岩波文庫）
その他の文献については授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

テキスト（教科書）の各回の講読範囲となる箇所を事前に読んでおくこと。集中講義なので、第1回授業開始前に、テキスト全体を最後まで通読しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		田辺元「社会存在の論理」とベルクソン『道徳と宗教の二源泉』の交差的読解									
[授業の概要・目的]											
<p>田辺元の1934年の論文「社会存在の論理」は、田辺哲学の代名詞の一つである中期の「種の論理」の出発点となった論考として知られている。この長大な論文には、田辺独自の絶対無の行為弁証法を「種」という独自の概念を軸に具体化していくべく、多種多様な思想的伝統と現代的問題が縦横に参照されているが、その中でも、1932年に出版ばかりのベルクソンの『道徳と宗教の二源泉』との関係は特筆に値する。田辺はこの著作の「閉じた社会」と「開いた社会」という二極構造を自らの構想する「社会存在論」の構成の中に組み込みつつ、肝心な所で根本的な批判を加える。そしてこの批判的受容を通して、田辺自身の立場の独自性が際立つという構造になっている。</p> <p>以上のことを踏まえて、本演習では、ベルクソンを直接扱った箇所である田辺の「社会存在の論理」の第3章と、そこで参照されているベルクソン自身の行論を交差的に読み進める。それによって、田辺とベルクソンの双方において複眼的な思想理解を可能にすると共に、哲学・宗教哲学の文献に対する参加者の研究的な読解の訓練の場としたい。</p>											
[到達目標]											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習での作業を通して、哲学・宗教哲学のテキストを読みこなすための基本的な読解力を身につける。 2. 演習での発表準備、および教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテキストの精密な読解方法、およびそれを自らの思索に活用するための基本的な方法態度を身につける。 3. 田辺とベルクソンのテキストを交差させつつ読み進めることによって、哲学・宗教哲学の著作に対する複眼的な読解の手法を身につける。 											
[授業計画と内容]											
<p>第1回 導入 テキストを読み進める上で必要な導入的説明を教員が行う。2回目以降の担当者を決める。</p> <p>第2回 14回 田辺のテキストの論展開を追いつつ、そこで参照されるベルクソンの行論を抜粋して読み、両者を突き合わせていくという仕方で演習を進めていく。各回の担当者は内容要約、受容箇所の抜粋と訳出、疑問点の提示や問題提起などを含めた報告を行い、それを受けて教員がコメントと解説を行う。</p> <p>第15回 著作全体を振り返り、教員との質疑応答や出席者間での討議を行う。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
[履修要件]											
<p>受講の絶対要件として特定の科目の履修や予備知識を求めることはないが、演習なので、授業への主体的で積極的な関わりを求めたい。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

フランス語ができる人にはベルクソンのテキストの訳出を担当してもらうが、フランス語が読めない人も、田辺の側を担当してもらえるので、問題なく履修できる。

[成績評価の方法・観点]

平常点(担当箇所の発表、および質疑や議論への参加)による。

[教科書]

田辺元 『種の論理 田辺元哲学選』(岩波書店、2010年) ISBN:(ISBN-10) 4003369416 (テキストは適宜コピーを用意するが、文庫版なので購入を推奨する。)

Henri Bergson 『Les deux sources de la morale et de la religion』(PUF, 2013) ISBN:ISBN-10 :#8206 2130594638 (テキストは適宜コピーを用意するが、註釈の豊富なPUFの新版の購入を推奨する。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて精読し、内容的・語学的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意しておくこと。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Paul Ricœur, La symbolique du mal, Première partie: Les symboles primaires を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>ポール・リクール『悪のシンボリズム』は、1960年に『有限性と罪責性』の第2分冊として刊行され、リクールを解釈学的哲学への転じさせた記念碑的著作である。同時にこの著作は、その大部分が聖書や諸文明の神話から渉猟した悪の象徴的・神話的表現の意味解釈に充てられており、リクールが自らの哲学的立場を更新するにあたって、従来の哲学の境界を踏み越え、宗教的表現の生成現場へと深く沈潜したことが見て取れる。</p> <p>本演習では、昨年度後期に続いて、この著作の第一部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」の重要箇所を抜粋して精読し、リクール解釈学の原点における哲学と宗教の交差の有りようを検討することによって、宗教哲学の可能性を探究するための材料としたい。</p>											
【到達目標】											
<p>1．演習での訳読作業を通して、フランス語の哲学・宗教哲学のテクストを読みこなすための基本的な語学力を身につける。</p> <p>2．演習での教員による指導を通して、哲学・宗教哲学のテクストの精密な読解方法、およびそれを自分の思索に活用するための基本的な方法を身につける。</p> <p>3．リクールの重要著作の一つを教師の指導と解説の下で精読することによって、リクール思想の根本問題とその哲学的・宗教哲学的意義を把握できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 テクストを読み進める上で必要な予備知識の解説を行う。2回目以降の担当者を決める。</p> <p>第2回 14回 リクール『悪のシンボリズム』第1部「一次的象徴：穢れ・罪・負い目」の重要箇所を抜粋し、1回当たり2頁程度のペースで精読していく。担当者は前日までに訳稿を提出することとし、教員がそれに修正コメントを加えた文書を出席者全員で共有して、それを材料として演習を進めていく。</p> <p>第15回 読み終えた箇所全体を振り返り、疑問点等について出席者全員で討議を行う。</p> <p>* フィードバックの方法は授業中に指示する。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[履修要件]

第二外国語としてフランス語を履修していることを絶対条件とするわけではないが、フランス語初心者は、できるだけ早いうちに訳読作業を行う上で最低限必要な語学力を身につけるように努めてほしい。

[成績評価の方法・観点]

平常点(担当箇所の訳読・議論への参加)(60%)と学期末の小レポート(40%)による。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

Paul Ricœur, 『Philosophie de la volonté, t. 2. Finitude et Culpabilité』(Points, 2009) ISBN:(ISBN-10) 2757813293 (使用範囲をコピーして配布するが、可能ならば事前に購入しておくこと。)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前にはテキストを時間をかけて読みこみ、語学的・内容的な検討を済ませておくことが求められる。また、自らの問題関心との関連で、深く掘り下げてみたい事柄については、問いを用意してこること。

授業後には、自らの理解の不正確であった箇所を修正するとともに、既読部の内容を自分の言葉でまとめ直したり、関連文献を読み進めたりすることを通して、自らの学習に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系91

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Georges Bataille, Théorie de la religionを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ジョルジュ・バタイユの宗教論『宗教の理論』（1974）を扱う。本書は、バタイユが1948年に（ヴァール主宰の）哲学コレージュで行った講演「宗教史概略」をもとに執筆した作品である。ほぼ完成していたにもかかわらず、生前に出版されることはなかった。「宗教」の理論と銘打ってはいるが、代表作『呪われた部分』とほぼ同時期に書かれていることもあり、バタイユの濃密な哲学的思索が展開されている。本書を宗教哲学的な視野のもとで読み進めつつ、参加者による思索と議論をより重視した演習としたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．フランス語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2．哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3．宗教的な諸事象を哲学的な思考にもとづいて把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を説明する。</p> <p>第2～14回 『宗教の理論』を最初から読み進めてゆく。進度は出席者の語学力に合わせて調整する。</p> <p>第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>訳読・議論への参加度（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。</p>											
【教科書】											
<p>Georges Bataille 『Œuvres complètes Tome VII』（Gallimard, 1976）ISBN:2-07-027882-4</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)

ジョルジュ・バタイユ(湯浅博雄訳)『宗教の理論』(ちくま学芸文庫, 2002年) ISBN:4-480-08697-8

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

初回授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系92

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		Max Scheler, Tod und Fortlebenを読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では引き続き、マックス・シェーラーの遺稿「Tod und Fortleben」を読み進めてゆく。主著『倫理学における形式主義と実質的価値倫理学』とほぼ同時期に執筆されたと考えられている本論考は、ハイデガーやレヴィナスのそれとは根本的に異なった「死」の現象学的分析として、また、不死や死後生に対する宗教哲学的アプローチの模範的な実例として、今でもなお精読に値するといえよう。訳読と解釈を通じ、参加者一人一人が自身の思索を深めていくことが期待される。</p>											
【到達目標】											
<p>1．ドイツ語で書かれた哲学書を読み通すために必要な語学力を習得する。 2．哲学書の内容を理解し、その注釈を通じて自らの思索に生かしていく手法を身に付ける。 3．シェーラーの現象学理論を踏まえつつ、生死に関わる宗教哲学的課題に取り組むことで、その意義を把握できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 本演習で扱う著作およびその著者について知っておくべき最低限の事柄を示した上で、昨年度までに読み終えた箇所の概要を解説する。 第2～14回 「Tod und Fortleben」を全集版で1回に1.5～2頁のペースで読み進めてゆく。 第15回 フィードバック</p> <p>フィードバックの方法は授業中に説明します。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
訳読・議論への参加度（40％）と学期末のレポート（60％）により評価する。											
【教科書】											
Max Scheler 『Schriften aus dem Nachlass, Band 1: Zur Ethik und Erkenntnislehre』（Bouvier, 1954） ISBN:3-416-01992-X（Gesammelte Werke, Bd. 10.）											
【参考書等】											
（参考書） マックス・シェーラー（小倉貞秀訳）『シェーラー著作集 6』（白水社, 1977年）ISBN:4-560-											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

02538-X

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には、予定された箇所を必ず読み通し、未知の単語や文章の意味をきちんと調べて訳出できるようにしておくこと。授業後には読み終えた箇所の内容を自分なりに咀嚼し、それを自分自身の思索に連結するよう努めてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

初回の授業時に、受講する上での注意事項を伝えますので、必ず出席してください。テキストの途中から読解を再開するため、それまでの内容を初回に解説します。昨年度の授業に出席していない学生の参加も歓迎します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学経営学部 准教授 竹内 綱史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ニーチェ 『Die fröhliche Wissenschaft』 第五書を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、ニーチェの著作『Die fröhliche Wissenschaft』（邦訳名『悦ばしき知識』『華やぐ知慧』『喜ばしき知恵』『楽しい学問』等）の第五書（1887年）を精読する。同書は第一書から第四書までの第一版が1882年に出版されたのち、新たに第五書が付け加わった第二版が1887年に出版された。すでに第一版で「神の死」や「永遠回帰」が語られていたが、『ツァラトゥストラ』（1883-1885年）や『善悪の彼岸』（1886年）を出版したのちに、ニーチェがあらためて自らの哲学のエッセンスを語り直したのが第五書である。そこでは円熟期ニーチェ哲学の中心テーマが集中的に論じられており、彼の哲学の最重要テキストの一つである。本演習ではそのテキストを精読することで、「神の死」「ニヒリズム」「キリスト教道徳批判」「権力への意志」といった彼の哲学の中心問題についての理解を深めたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・哲学の基礎文献を読み解く力をつける。 ・哲学的な問題についてテキストに基づいて議論する力をつける。 ・ニーチェ哲学の中心問題を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション 『Die fröhliche Wissenschaft』という著作の概要や背景について解説する。基本的な訳書や概説書・注釈書などを紹介し、授業の進め方について周知する。</p> <p>第2回～第15回 『Die fröhliche Wissenschaft』第五書精読 『Die fröhliche Wissenschaft』第五書を冒頭の節（第343節）から精読する。テキストの一語一句について全員で議論する。受講人数によっては毎回プロトコル担当者を決め、授業の最初に前回のプロトコルを発表してもらいそれについて検討してから、続くテキストの精読を行う予定。</p> <p>フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
原典で読むので、ドイツ語の最低限の読解力は不可欠である。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（訳読担当・プロトコル担当・議論への参加度）で評価する。											
【教科書】											
Friedrich Nietzsche 『Morgenröte / Idyllen aus Messina / Die fröhliche Wissenschaft』（Deutscher Taschenbuch Verlag）ISBN:3423301538（通称「KSA」と呼ばれるグロイター版ニーチェ全集ポケット版の第3巻）											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

授業中に上記著作の講読箇所のコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)

Werner Stegmaier 『Nietzsches Befreiung der Philosophie: Kontextuelle Interpretation des V. Buchs der "Fröhlichen Wissenschaft"』 (De Gruyter) ISBN:9783110269673 (『Die fröhliche Wissenschaft』 第五書に関する研究書)

Michael Ure 『Nietzsche's The Gay Science: An Introduction』 (Cambridge University Press) ISBN: 9780521144834 (『Die fröhliche Wissenschaft』 の比較的新しい入門書)

Monika M. Langer 『Nietzsche's Gay Science: Dancing Coherence』 (Palgrave Macmillan) ISBN: 9780230580695 (『Die fröhliche Wissenschaft』 に関する注釈書)

(関連URL)

<http://www.nietzschesource.org/#eKGWB/FW-343>(グロイター版ニーチェ全集の無料電子版)

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読と議論が中心なので、授業前には必ず講読箇所を予習しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系94

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むI/A									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
今年度の前期では、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「教父」概念 3. 教会教父 4. 教父学 5. キリスト教文献の成立 6. 口伝 7. 使徒文献 8. 聖書正典の形成 9. 新約 10. 旧約 11. 福音 12. 文学的類型 13. ヤコブ原福音書 14. トマス福音書 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系95

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むI/B									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使徒たちの手紙 3. ニコデモ福音書 4. 使徒行伝 5. 文学的類型 6. ペトロ行伝 7. パウロ行伝 8. 書簡 9. 文学的類型(書簡) 10. バルナバの手紙 11. 黙示録 12. 文学的類型(黙示録) 13. ヘルマスの牧者 14. シビュラの託宣 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと講読文献の説明 2. 「前書」と題目(3-7) 3. 「感じ取られる自由の確実性と自由の体系的概念の問題」及び「汎神論概念の諸解釈・その1」(9-12/35) 4. 「汎神論概念の諸解釈・その2」(12/36-16/18) 5. 「汎神論概念の諸解釈・その3」(16/18-21/20) 6. 「汎神論概念の諸解釈・その4」及び「<観念論的・普遍的自由概念>対<人間の生ける自由概念>」(21/21-25/14) 7. 「悪への能力としての人間の自由の問題系(現実性の神的起源に鑑みつつ)」(25/15-29/19) 8. 「自然哲学的演繹(啓示の原理の内的二重性)」(29/20-34/27) 9. 「悪の可能性の演繹・その1」(34/28-39/3) 10. 「悪の可能性の演繹・その2」(39/4-42/16) 11. 「悪の可能性の演繹・その3」(42/17-45/7) 12. 「悪の現実性の演繹・その1」(45/8-48/3) 13. 「悪の現実性の演繹・その2」(48/4-52/29) 											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

14. 西谷啓治「悪の問題」
15. フィードバック

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)
西谷啓治 『西谷啓治著作集第6巻・宗教哲学』 (創文社)

[参考書等]

(参考書)
シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)
F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 安部 浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		シェリングの自由論									
【授業の概要・目的】											
<p>カント、フィヒテ、ヘーゲル等の哲人。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の楽聖。これらの巨人に伍して空前絶後の精神の運動を牽引しつつ、百花繚乱の「ゲーテの時代」を駆け抜けた早熟の天才がいた。F.W.J. シェリングである。</p> <p>彼が遺した数多の著述・講義録の中でも、『人間の自由の本質』こそは蓋し最重要作の一つである。では本著作において、「哲学における最内奥の中心点」と自らが見做す「必然性と自由の対立なる問題にシェリングはいかなる仕方で挑むのか。「ドイツ観念論の形而上学の頂点」(ハイデガー)と評される当該著作を冒頭から繙読し、議論を戦わせていくことで、われわれは、自由、汎神論、悪、無底等をめぐる問題系の考察に努めることにしよう。そしてそれにより、語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくことが、本演習の目的である。</p>											
【到達目標】											
語学・哲学上の正確な知識、及び論理的思考力に基づく原典の厳密な読解力を各人が涵養すること、そしてこの読解の過程において浮上してくる重要な問題をめぐる参加者全員の討議を通して、各人が自らの思索を深化させていくこと。											
【授業計画と内容】											
<p>原則的には毎回、予め指名した二名の方にそれぞれ、報告と演習の記録を担当して頂くことにする。ここに各回に扱う予定である原典の範囲を記すが、授業の進捗については出席者各位の実力を勘案して修正することもある。</p> <p>以下、内容の梗概に続き、括弧内に教科書の頁番号を(また適宜、斜線を付して行番号をも)示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと前期の復習 2. 「悪の現実性の演繹・その3」(52/30-55/22) 3. 「悪の現実性の演繹・その4」(55/23-59) 4. 「悪の現実性の演繹・その5」(60-63/18) 5. 「悪の現実性の演繹・その6」(63/19-66/4) 6. 「神の自由・その1」(66/5-70/29) 7. 「神の自由・その2」(70/30-/75/10) 8. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その1」(75/11-79/17) 9. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その2」(79/18-82/8) 10. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(82/8-84/31) 11. 「神の自己啓示の目標ー愛の全一性・その3」(84/32-87) 12. 辻村公一「無底ーシェリング『自由論』に於ける」 13. 園田坦「無底・意志・自然ーJ.ペーメの意志-形而上学について」 14. 総括と総合討論 15. フィードバック 											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[履修要件]

ドイツ語を既修していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

F. W. J. Schelling 『Ueber das Wesen der menschlichen Freiheit』 (Meiner) ISBN:3-7873-1590-X (Philosophische Bibliothek 503)

辻村公一 『ドイツ観念論断想』 (創文社)

園田坦 『無底と意志-形而上学-ヤーコブ・ベーム研究』 (創文社) ISBN:978-4-423-17158-5

[参考書等]

(参考書)

シェリング 『人間的自由の本質』 (岩波書店) ISBN:4-00-336312-4 (岩波文庫・青631-2)

F. W. J. Schelling 『Philosophical Inquiries into the Nature of Human Freedom』 (Open Court) ISBN:087548025X

[授業外学修(予習・復習)等]

教科書の毎回の所定の範囲を予習し、各回の報告資料や演習記録等を基に復習すること。

(その他(オフィスアワー等))

受講者には、自分の担当箇所や各回に扱う部分に限らず、テキストを遍く熟読した上で出席することが求められる故、その点には十分留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75541 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		関西学院大学 文学部 准教授 景山 洋平			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現象学における人間論とその歴史的境界 - ハイデガーと京都学派の諸著作から									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習では、Martin Heideggerの四つのテキスト（Sein und Zeit, Kant und das Problem der Metaphysik, Beitrage zur Philosophie, Unterwegs zur Sprache）の必要箇所を精読し、現象学的存在論における人間の位置を考察する。これと並行して、京都学派の著作（西田幾多郎『善の研究』/『場所的論理と宗教的世界観』、田辺元「人間学の立場」/「生の存在学か死の弁証法か」、九鬼周造「日本詩の押韻」）の必要箇所を参照し、現象学との関係を考察する。現象学的存在論における人間概念は「有限性の超越論」（フーコー）や「人間中心主義」（デリダ）と理解されがちであり、こうした理解はミシェル・アンリなどフランス現象学の歴史的展開と大なり小なり連動している。しかし、ハイデガーの思索の変容はこうした解釈に収まらない人間論の可能性を示唆する。本演習では、京都学派との関係に力点を置くことで、現象学的存在論のこうした潜在力を、なにがしか異質な歴史的地平との関係から検討したい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．演習での訳読作業により、現象学の古典的著作を原書で読解するための語学力を身につける。 2．現象学のテキストの精密な読解と、これを各自の研究に活用するための方法を身につける。 3．ハイデガー哲学の根本問題とその哲学的意義を把握できるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>毎回一名の訳読と報告を行い、それにつづき教員が訳読とテキストの哲学的意義へのコメントを行い、その後は全員で討議する。以下に各回の講読予定を示すが、授業の進捗はそのつど前後しうる。毎回2～3頁ほどハイデガーを講読する他、必要に応じて京都学派のテキストを参照する。</p> <p>第一回 インTRODクシヨン 第二回～四回 Sein und Zeit, Einleitungを中心に 第五回～七回 Kant und das Problem der Metaphysik. 図式機能論と自己触発論を中心に 第八回～十回 Beitrage zur Philosophie. 第五部 “Gruendung” と第八部 “Seyn” を中心に 第十一回～十三回 Unterwegs zur Sprache. 論稿 “Die Sprache” と “Das Wort” を中心に 第十四回 講読箇所に関する全体的考察 第十五回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
<p>第二外国語としてドイツ語を履修したことは絶対条件でない。だが、毎回ドイツ語のテキストを講読するので、ドイツ語初心者はできるかぎり早めに最低限の語学力を身につけるよう努めてほしい。</p>											
----- 宗教学(演習)(2)へ続く -----											

宗教学(演習)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への参加の質など 70%）と学期末のレポート（30%）で評価する

[教科書]

授業で講読箇所をコピーして配布する。ただし、Martin Heidegger, Sein und Zeit, Max Niemeyerは比較的廉価なので、できれば各自購入してほしい。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前には講読箇所を丁寧に読解し、語学上の事項と内容に関して検討することが必要。また各自の研究上の関心と関係づけて考えたい者は、授業中に提起する問いを準備してほしい。授業後には、講読した箇所の内容をあらためて咀嚼し、各自の研究に活かしてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系99

科目ナンバリング		G-LET07 7M264 SJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(演習II) Philosophy of Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦 文学研究科 准教授 伊原木 大祐			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	金4,5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		宗教哲学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
演習参加者が、宗教哲学の諸問題のなかで各人の研究するテーマに即して発表を行い、その内容をめぐって、全員で討論する。討議の中で、各人の研究を進展させることが目的である。											
[到達目標]											
研究発表の仕方を学び、討論の態度を習得する。各人の研究テーマが、宗教哲学の研究状況の中でどのような意義をもつかを理解し、自らの研究の意味を説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
参加者が順番に研究発表を行い、それについて全員で討論する。各人の発表は2回にわたって行う。即ち、発表者は1時間以内の発表を行い、続いてそれについて討論する。発表者はその討論を受けて自分の発表を再考し、次回に再考の結果を発表して、それについてさらに踏み込んだ討論を行う。したがって、1回の授業は前半と後半に分かれ、前半は前回発表者の2回目の発表と討論、後半は新たな発表者の1回目の発表と討論となる。											
第1回 オリエンテーション、参加者の発表の順番とプロトコルの担当者を決定。 第2回－8回 博士課程の院生による発表と全員での討論。 第9回－14回 修士課程の院生による発表と全員での討論。 第15回 総括。											
[履修要件]											
宗教学専修の大学院生は必修。特段の事情がない限り、全回の出席を義務とする。											
[成績評価の方法・観点]											
発表等の内容、および議論への参加の状況によって、判断する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 特になし											
[授業外学修(予習・復習)等]											
1回目の発表予定日までに、自分の研究テーマに沿って発表の準備をする。発表の後、それに対してなされた質疑に基づいて、2回目の発表の準備をする。2回目の発表の後、その内容を論文の執筆へとつなげていく。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		James H. Cone, God of the oppressed (1975) を読む 1									
【授業の概要・目的】											
<p>政治、社会、経済、教育、文化等、あらゆる面で抑圧され排除され続けてきた黒人たちを対話相手とする黒人解放神学（Black liberation theology）を主導したJames H. Coneの主著God of the oppressed（1975）を読む。コーンは『聖書』の中心的使信は被抑圧者の解放だとし、それこそが抑圧の状況の中で黒人の解放ということを想像可能にさせたと考える。コーンのこの考えは、時代も場所も異なり、なにより「当事者」とは言えない私たちと、しかし無関係ではない。キリスト教の中心的使信は被抑圧者の解放だという理解は、キリスト教とのいかなるものであれ強い関係性のもので成立してきた「宗教哲学」をその土台から揺さぶっているはずだからである。これまで宗教哲学が語ってきた言説は「白人＝抑圧者」のものにすぎないのではないか。もっとも、黒人解放神学が政治的イデオロギーと化す可能性はコーン自身にも自覚されているように、コーンの聖書解釈もまた決定的・普遍的なものではありえない。重要なのは実践的な仕方です『聖書』の使信を証ししていくことだというわけである。非西洋圏の現代日本において宗教哲学に携わる私たちに対して本書は重層的で広い射程を持った問いを突きつけるだろう。私たちは何をどう考えていくべきなのか、本書を読みながらその手がかりをえたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2．宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3．自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%、学期末レポート50%

[教科書]

James H. Cone 『God of the oppressed, (rev. ed.)』 (Orbis Books, 1997) ISBN:978-1570751585
授業中にテキストのコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET07 75551 LJ34									
授業科目名 <英訳>		宗教学(講読) Religion (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 根無 一行			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目		James H. Cone, God of the oppressed (1975) を読む 2									
【授業の概要・目的】											
<p>政治、社会、経済、教育、文化等、あらゆる面で抑圧され排除され続けてきた黒人たちを対話相手とする黒人解放神学（Black liberation theology）を主導したJames H. Coneの主著God of the oppressed（1975）を前期に引き続き読む。コーンは『聖書』の中心的使信は被抑圧者の解放だとし、それこそが抑圧の状況の中で黒人の解放ということを想像可能にさせたと考える。コーンのこの考えは、時代も場所も異なり、なにより「当事者」とは言えない私たちと、しかし無関係ではない。キリスト教の中心的使信は被抑圧者の解放だという理解は、キリスト教とのいかなるものであれ強い関係性のもので成立してきた「宗教哲学」をその土台から揺さぶっているはずだからである。これまで宗教哲学が語ってきた言説は「白人＝抑圧者」のものにすぎないのではないか。もっとも、黒人解放神学が政治的イデオロギーと化す可能性はコーン自身にも自覚されているように、コーンの聖書解釈もまた決定的・普遍的なものではありえない。重要なのは実践的な仕方です『聖書』の使信を証ししていくことだというわけである。非西洋圏の現代日本において宗教哲学に携わる私たちに対して本書は重層的で広い射程を持った問いを突きつけるだろう。私たちは何をどう考えていくべきなのか、本書を読みながらその手がかりをえたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．英語で書かれた宗教哲学についての議論を正確に理解していくことができるようになる。 2．宗教哲学に隣接するテキストを宗教哲学の思索に活用していくことができるようになる。 3．自分の思索を相対化させる観点を持てるようになる。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 導入 本講読の進め方を確認し、著者とテキストに関する基本的な事柄の説明等を行う。</p> <p>第2～14回 テキストの読解と議論等。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>*フィードバックについては授業内で周知する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 宗教学(講読)(2)へ続く -----											

宗教学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点50%、学期末レポート50%

[教科書]

James H. Cone 『God of the oppressed, (rev. ed.)』 (Orbis Books, 1997) ISBN:978-1570751585
授業中にテキストのコピーを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

訳読中心の授業であり、担当者を特に決めずにランダムにあてていくため、全員予習をして来ること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 渡部 和隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本のキリスト教思想 無教会キリスト教を中心に									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、日本のキリスト教思想の代表のひとつである無教会キリスト教について提示することにある。無教会キリスト教は明治期に内村鑑三によって始められたキリスト教の信仰と運動であり、しばしば日本に独自のキリスト教とされるが、同時に極めて近代的な要素も併せ持っている複雑なキリスト教思想である。内村の死後、無教会キリスト教は矢内原忠雄や塚本虎二といった弟子たちによって継承され、さまざまな展開を見せながら今日に至っている。本講義では、内村鑑三と塚本虎二との対立や塚本虎二とカトリックの岩下壮一の論争とを通して、無教会キリスト教のダイナミズムを分析する。											
【到達目標】											
主として無教会キリスト教に関する基本的な知識を身につけ、当時の主要な文献を分析しながら、内村鑑三の無教会理解、塚本虎二の無教会主義理解、岩下壮一の無教会批判を思想的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
本年度前期のテーマは、「日本のキリスト教思想」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 無教会史の概観 3. 内村鑑三の無教会理解(1) 無教会とは 4. 内村鑑三の無教会理解(2) 日本観 5. 内村鑑三の無教会理解(3) 第二の宗教改革 6. 内村鑑三の無教会理解(4) 教会観 7. 塚本虎二の無教会主義理解(1) 塚本虎二の生涯 8. 塚本虎二の無教会主義理解(2) 無教会主義とは何か 9. 塚本虎二の無教会主義理解(3) ヘブル書解釈 10. 内村と塚本虎二との対立 11. 岩下壮一の生涯 12. 塚本・岩下論争(1) 塚本の「真の教会」 13. 塚本・岩下論争(2) 岩下の批判 14. 塚本・岩下論争(3) 両者の応酬 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

キリスト教および日本の近代史に関する基本的な知識があることが望ましい。

【成績評価の方法・観点】

平常点とレポートとによる。
平常点評価は授業への参加状況、小テスト、授業内での発言によって行う。
レポート内容についての相談は、個別的に行う。

【教科書】

授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

(その他(オフィスアワー等))

- ・講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加(参考文献による復習を含め)を期待したい。
- ・質問は、基本的にメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		初期キリスト教教理史II/C									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、カルケドン公会議（451年）までの初期キリスト教の中で形づくられた教理の発展の歴史を、個々の主題に沿って提示することにある。教理とは、教会の中で唱えられたキリスト教の教えであるが、最初期のキリスト教の時代から教説の正統性をめぐって様々な問題が生じ（例えば、キリスト論や救済論の問題など）、その都度それらに対処することによって教理が形成されてきた。本講義では、キリスト教と諸哲学およびローマ帝国との間にあった緊張関係に目を向けつつ、教父たちが形成した教理や諸概念を分析する。											
【到達目標】											
主として5世紀くらいまでの教理形成の中心的な問題点に関する基本的な知識を身に付け、当時の主要な文献を分析しながら、初期キリスト教における教父思想と教理を歴史的に位置づけ、吟味することができる。											
【授業計画と内容】											
本年度後期のテーマは、前年度の後期に引き続き、「初期キリスト教教理史」である。初回のオリエンテーションに続いて、次のような項目について、講義が進められる。一回の講義で一つの項目が取り上げられる。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．オリエンテーション 2．救済論の端緒 3．悪魔と救済論（東方世界） 4．悪魔と救済論（西方世界） 5．東方世界の教会論 6．ドナティスト論争 7．西方教理とローマの首位権 8．四世紀以降のサクラメント 9．洗礼・堅信・悔悛 10．聖餐における現臨 11．終末論と千年王国説 12．終末における復活 13．聖人崇敬と聖遺物 14．聖母マリア崇敬 15．まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
-----キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く-----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポートによる（3回程度の小レポートと学期末レポートを含み、講義内容の理解と、それとの関連における問題の展開を問う）。
レポート内容についての相談は、個別に行う。

【教科書】

授業中に指示する
授業中にプリントを配付する。

【参考書等】

（参考書）
J.N.D. ケリー 『初期キリスト教教理史 下 ニカイア以後と東方世界』（一麦出版社）

【授業外学修（予習・復習）等】

授業中に取り上げる事典類や参考文献などを用いての復習を中心とするが、詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・ 講義はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・ 受講生には、常識や先入観を批判的に問い直す態度と積極的な授業参加（参考文献による復習を含め）を期待したい。
- ・ 質問は、基本的にメール（アドレスは、授業にて指示）で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「自覚」論的観点からの西洋哲学・宗教思想史の試み									
[授業の概要・目的]											
<p>「自覚」とは西田哲学の中心概念であり、かつ西田に始まる「京都学派」の哲学者たちが緩やかに共有する思考態度の表現である。だが、この語は元々「自己意識」に当たる西洋語の翻訳語として導入され、西田以前に一定程度使用されていたものであった。そのため、「アウグスティヌスの自覚」や「デカルトの自覚」といった表現が、違和感なく成り立ちえたのである。</p> <p>だとすれば、京都学派の哲学を通して豊かに展開されたこの自覚概念を手引きとして、西洋哲学や宗教思想においてそれに対応する事象を見出し、それを自覚概念の光の下で新たに解釈し直すことも可能ではないか。本講義では、このような仕掛けを組みこんだ形で、宗教哲学を学ぶ上で重要な哲学・宗教思想の数々を年代順に通覧していくことによって、「自覚」論的観点から読み直された西洋哲学・宗教思想史の一端を提示してみたい。</p>											
[到達目標]											
<p>1. 「京都学派」の哲学者たちが緩やかに共有する「自覚」という思考態度について、その形成と背景、および哲学的可能性を理解する。</p> <p>2. 「宗教哲学」と呼ばれる学的形態を学ぶ上で土台となるような西洋哲学・宗教思想についての歴史的知識を身につける。</p> <p>3. 個々の思想家や思想的立場についての歴史的研究を、哲学的・宗教哲学的な思索へと関連づける仕方を学び、それを自らの学習や研究に役立てられるようにする。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2回程度の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展を直接反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマ自体も部分的には変更の可能性はある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「自覚」概念の形成と背景、およびその哲学的可能性 2. デカルトの自覚 - コギトと神証明の自覚論的再考 3. メーヌ＝ド＝ピランの自覚 - 「内奥感の原初的事実」と自覚する身体 4. カントの自覚 - 「超越論的統覚」から「根源悪」論まで 5. ベルクソンの自覚 - 「純粹記憶の平面」の自覚論的再考 6. ハイデガーの自覚 - 自覚の場としての「現(Da)」 7. ユダヤ/キリスト教の自覚 - 「啓示」の自覚論的解釈 											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

フィードバックの仕方については、授業中に告知する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

初回の授業の際に文献表を配布するので、自らの興味に応じていくつかのテキストを選んで精読し、自らの問いを携えて授業に参加できるように準備してほしい。また、各回の授業の後は、その回に扱った文献に目を通し、自分の思考を触発した部分を中心に、理解した事柄を自分の言葉でまとめ直すようにしてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は、同じ教員が担当する後期の特殊講義に比べると、とくに学部生や修士課程学生の便宜を考えて、基本的な事柄の解説や情報提供に重心をおいている。そうすることで、この授業の受講が後期の特殊講義受講に向けての準備にもなるように配慮している。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 杉村 靖彦			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		西谷宗教哲学の研究(2)									
【授業の概要・目的】											
<p>西谷啓治(1900-1990)は、西田、田辺の後の京都学派の第三世代を代表する哲学者であり、大乘仏教の伝統を換骨奪胎した「空の立場」から「ニヒリズム以後」の現代の思索の可能性を追究したその仕事は、没後30年を経て国内外で多方面からの関心を引きつつある。しかし、その全体を組織的に考察した本格的な研究は、まだほとんどないと言ってよい。</p> <p>本講義は、この西谷宗教哲学の全体を通時的かつ網羅的に研究し、今後の土台となりうるような組織的な理解を形成しようとするものである。それによって、今日の宗教哲学がそこから何を受けつぐことができるかを、批判的に考究していくための拠点を手に入れることを目指す。</p> <p>この研究は、昨年度後期から開始されたものであり、今期の授業はその続きであるが、来年度以降も後期の特殊講義をあて、数年かけて進めていく予定である。1924年の西谷の卒論を扱った昨年度に続いて、今年度は1930年代までの諸論考を主に扱っていきたい。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 西谷宗教哲学の生成と展開を詳細にたどることによって、難解な西谷のテキストを正確に理解し、その思想の特質を把握できるようになる。 2. 一人の哲学者の思索の展開を多面的な連関の中でとらえ、重層的に理解していくための方法論と視座を身につける。 3. 宗教哲学や日本哲学についての研究を、他のさまざまなアプローチと拙速に切り離さず、問題連関や時代連関を意識しつつ多様な絡み合いの中で遂行していくことの意義と必要性を理解する。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下の諸テーマについて、一つのテーマ当たり2～4回の授業をあてて講義する。 (「特殊講義」という、教員の研究の進展をダイレクトに反映させることを旨とする授業であるので、1回ごとの授業内容を細かく記すことはしない。また、以下の諸テーマにしても、細部については変更の可能性はある。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 西谷宗教哲学の受け取り直しのために 2. 卒論の到達点と西谷宗教哲学の端緒 昨年度の授業の要約 3. 「悪の問題」への着手 西谷宗教哲学の導きの糸として 4. 哲学的神秘主義と根源的主体性 前期西谷宗教哲学の二つの焦点 5. 真に「現(Da)」なる処 - 『アリストテレス論攷』とハイデガーのアリストテレス論の並行的読解 <p>なお、最後の授業は、本学期の講義内容全体をめぐる質疑応答と議論の場とし、講義内容の受講者へのフィードバックを図る。</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

学期末のレポートにより、到達目標の達成度に基づいて評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

初回の授業で、今学期に扱う西谷の主要テキストと参考・関連文献を指示するので、自分の関心を引くものに目を通し、自分なりの問いを携えて授業に臨んでほしい。各回の授業の後は、その際に扱った内容を自分の言葉でまとめ直し、必要に応じて参考文献も参照しつつ、自分の関心事との接点を組織的に探ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

本講義は西谷宗教哲学の研究という体裁をとるが、必ずしも西谷のみを扱うわけではない。むしろ、西谷が自らの思索を形成していく過程で取り組んだ哲学史・宗教思想史の研究、同時代の国内外の諸思想との対論などを意識的に拾い上げ、西谷の思索を通してそれらがどのように賦活されていったかも浮かび上がらせていく。その意味で、京都学派の哲学に関心をもつ人だけでなく、同時期の西洋哲学や哲学史・思想史に関心をもつ人にも受講してもらえればと考えている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学 文学部 准教授 鬼頭 葉子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		世俗とは何か：政治と宗教とのかかわり									
【授業の概要・目的】											
<p>近代以降、宗教と政治とのかかわりについて考えるとき、「政教分離」という思想のもと、両者は対立的に考えられてきました。ここに至るまでには、近代化、世俗化という過程を経ています。しかし、現代においては宗教と政治は容易に分けられるものではなく、また宗教概念も個人の内面的なものの表現に留まるものではないことが、多くの思想家たちによって指摘されています。本授業では、世俗とは何か、公共圏とは何かを探求し、世俗主義に関連する政治的価値（自由、正義、寛容、人権など）と宗教思想とのかかわり、また世俗の時代における人間理解について考えます。</p>											
【到達目標】											
<p>受講者はこの授業を履修することによって以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代から現代に至る宗教思想と政治哲学のかかわりについて、世俗化、世俗主義を鍵概念として基礎的な流れを説明できる。 ・現代における宗教の役割について、自身の見解を持つことができる。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテーマを中心にして進めていく予定であるが、受講者の関心によっては適宜、順序や内容などを変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世俗、世俗化、世俗主義 2 聖なるもの、世俗的なもの 3 啓蒙主義による社会の世俗化と宗教の近代化 4 公共圏の誕生 5 私的宗教と公的宗教、国家と宗教 6 宗教的教義の相対化と道徳の内面化 7 信仰と理性 8 世俗の時代における政治の役割 9 宗教倫理と世俗主義の人道主義 10 宗教的自由をめぐる問題 11 宗教的寛容 12 世俗の時代における宗教原理主義 13 世俗と暴力の宗教的側面 14 人権概念を通じた「人間」の再構築 15 フェミニズムと世俗主義 											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（20点）と学期末のレポート（80点）により評価する。
なお、レポートについては到達目標の達成度に基づき評価をおこなう。

【教科書】

教科書は使用しない。別途、資料を配布する。

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・予習：特になし。
- ・復習：授業内で紹介する参考文献等を用いて授業内容の理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

基本的に講義形式でおこなう。授業終了時には毎回コメントシートを提出してもらい、翌週以降の授業内で紹介・議論する。質問については授業内もしくはメールなどで受け付け、翌週以降の授業内で回答する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 65631 LJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(特殊講義) Christian Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		山梨英和大学 人間文化学部 准教授 洪 伊杓			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「日本型オリエンタリズム」とキリスト教									
【授業の概要・目的】											
<p>エドワード・サイードが『オリエンタリズム』(1978)を発表し、近世・近代における欧米の東洋世界への認識が批判された。アジア・アフリカなど欧米帝国主義によって植民地になった地域とその人々は非文明や未開として扱われ、このようなオリエンタリズム的な欧米の視点は帝国主義に便乗した欧米のキリスト教も共有した。また、欧米の「オリエンタリズム」は、明治維新以降、近代化および帝国建設を達成した日本にも導入され、いわゆる「日本型オリエンタリズム」として新たに内面化されて行った。「脱亜入欧」や「和魂洋才」などのスローガンの下で、帝国日本はアジア諸国と諸民族を欧米の立場と観点に基づいて認識し始めた。このような「日本型オリエンタリズム」の形成において、欧米のキリスト教、そして日本およびアジア各国のキリスト教はどのような影響を互いに与え、相互関係を結んでいたのか。そのことを究明するため「内地・内地人」と「植民地・土人」という新たな近代用語に注目し、考察する。</p>											
【到達目標】											
<p>主に19・20世紀の欧米キリスト教のアジア宣教の歴史と思想的な刺激と影響についての基礎的な知識を身につけ、欧米のキリスト教が持っていた優越感による「オリエンタリズム」がアジア、特に帝国を建設した近代日本においてはどのように内面化し、アジア諸国に適用されたのかを分析し、今日のアジアキリスト教が直面している多様な思想的課題を再発見し、分析できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>・本講義は基本的に以下の講義計画に基づく。尚、集中講義は8月最終週の5日間を予定しているが、正式な日程が決まり次第、KULASISを通じて連絡をする。</p> <p>【第1回】「オリエンテーション：欧米キリスト教とオリエンタリズム」 【第2回】「欧米キリスト教による日本およびアジア宣教の歴史」 【第3回】「日本型オリエンタリズムの形成」 【第4回】「近代日本のアジア主義とキリスト教」 【第5回】「内地(人)概念の考案：最初の他者、琉球と蝦夷」 【第6回】「内地(人)概念の考案：明治維新と帝国建設」 【第7回】「内地(人)概念の考案：植民地における受容」 【第8回】「内地概念とキリスト教」 【第9回】「Marginality・政事などの概念による分析」 【第10回】「土人概念の考案：日本のキリスト者の植民地民理解」 【第11回】「土人概念の考案：韓国のキリスト者の被支配理解」 【第12回】「土人概念の考案：今日のキリスト教の課題」 【第13回】「差別と排除、西洋と東洋の隔てを乗り越える道」 【第14回】「アジア共同体の可能性とキリスト教の役割」 【第15回】「まとめと総括およびレポート等に関する解説」</p>											
----- キリスト教学(特殊講義)(2)へ続く -----											

キリスト教学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

- ・平常点（授業への取り組み・発言など）・・・10点
- ・レポート・・・90点
- ・3回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

子安 宣邦 『「アジア」はどう語られてきたか 近代日本のオリエンタリズム』（藤原書店）
ISBN:978-4894343351（2003年）
芦名 定道 『東アジア・キリスト教の現在』（三恵社）ISBN:978-4864877862（2018年）
芦名 定道 『東アジア・キリスト教研究とその射程 無教会キリスト教を中心に』（三恵社）
ISBN:978-4864879620（2019年）

[授業外学修（予習・復習）等]

- ・授業中に取り上げる書物や論文などの詳細については授業内にて説明する。

（その他（オフィスアワー等））

- ・初回の講義では細かい注意事項や運営方針などを伝えるので、必ず出席すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 谷塚 巖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キルケゴール『あとがき』の講読									
【授業の概要・目的】											
<p>キルケゴール(1813-1855)は、19世紀デンマークの首都コペンハーゲンで、旺盛な著述活動を展開した著述家である。この授業では、キルケゴールがその著述活動の「転回点」と呼ぶ『哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき』(ヨハネス・クリマクス著、1846年)を読んでいく。この著作は、『あとがき』とも名づけられているように、1844年に公刊された『哲学的断片』の続編として位置づけられるが、その内容量は前編の約3倍にも膨れ上がった大部の著作である。この授業では、その中から、コミュニケーションについて論じられた箇所を焦点をあてて精読する。テキストは、ドイツ語ヒルシュ訳を用い、輪読形式で毎回の授業を進めていく。またその都度、キルケゴールのデンマーク語や主要な概念についても解説を加えていく。</p>											
【到達目標】											
19世紀の文献を精読する能力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 オリエンテーション キルケゴールの著述活動の全体像とその特徴、およびその課題について説明する。また、『あとがき』の構成や『哲学的断片』との関係、著作の基本的特徴、精読する箇所の大まかな内容を確認する。テキストは、印刷したものを初回の授業で配布する。</p> <p>第2回～第14回 テキストの精読 『あとがき』の第2部第1編第2章を、輪読形式で精読する。またその都度、ドイツ語の文法事項を確認し、キルケゴールの論述の意図やその思想的文脈について考察を加えていく。毎回、1～2頁ずつの進度で読み進める。</p> <p>第15回 まとめ 各回で読み進めてきた箇所のまとめを行い、理解した内容や疑問点について議論する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点、小レポートで評価を行なう。											
-----キリスト教学(演習)(2)へ続く-----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回の授業で読み進める範囲の予習と復習

(その他(オフィスアワー等))

授業中に疑問が生じた場合は、積極的な質問を期待する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系109

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平出 貴大			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ルター以前からルター以後へ									
[授業の概要・目的]											
ルターを深く理解するために、この授業では次の二つの課題に取り組む。第一に、ルターの思想的背景を明らかにするため、中世の神秘主義的伝統がルターにどのような影響を与えたのかについて解明する。第二に、ルターをその後の影響力という観点から考察する。この演習では、ルターに関する英語文献を精読する。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ルターをその思想的文脈から説明することができる。 プロテスタント主義の影響とその意義を理解することができる。 演習における訳読作業を通して、英語の専門的なテキストを読みこなすことができる。 											
[授業計画と内容]											
第1回 オリエンテーション(宗教改革の概観、授業の進め方について)											
第2回～第15回 演習では、ルター以後の哲学や神学におけるその影響に焦点をあてる。ルターによる「精神的革命」はその後のドイツの文化・思想へ多大な影響を与えており、その影響関係を学ぶことによってルターを再確認したい。											
Alberto Melloni(ed.) et al., Martin Luther: a Christian between reforms and modernity(1517-2017), Berlin: De Gruyter, 2017.											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点による。毎回の訳読のほか、議論の参加度などから総合的に評価する。											
[教科書]											
使用するテキストについては、コピーを配付する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
受講者は、各人が毎回テキストを精読し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
演習に関わる質問は、各週の演習後か、メール(アドレスは授業にて指示)で行うこととする。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 河崎 靖			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		ボンヘッファー関連のテキストを読む。									
【授業の概要・目的】											
<p>ボンヘッファー関連のドイツ語テキストを読みこなす。 1906年生まれのドイツ人牧師・キリスト者ボンヘッファーは、当時のドイツの教会の多くがナチスに協力したのに対して、ヒトラーに激しく抵抗運動を展開しました。彼は「汝殺すなかれ」を戒めとするキリスト者であり、かつ非暴力主義者ガンジーの影響も受けていました。時代の流れに逆らい、反ナチス運動で逮捕されてからも獄中から多くの書簡を書き、その言葉の数々は現代の私たちにも、良心に生きるとはいかなることかを問い続けています。彼の書いたテキストを原典で読んでいきます。</p>											
【到達目標】											
<p>ボンヘッファーは、1945年4月9日独裁者ヒトラーの暗殺計画に加担した容疑でナチスにより処刑されました。彼はヒトラーの危険を当初から見抜き、そのユダヤ人政策を批判し、最後には文字通り命を賭してナチスの暴走を止めようとしたのであります。ナチス以降もしくはホロコースト以降のドイツで、ボンヘッファーにキリスト者として生きる1つのモデルが求められているのも事実です。どのような論理・倫理でもって、キリスト者・牧師でありながら、暴力や殺人をも許容するヒトラー暗殺・クーデター計画に乗り出したのか、この問題を究めるため、その決定的瞬間にまで至るプロセスをボンヘッファー本人のテキストに則して検討します。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>ボンヘッファーは現代的意味でもその存在が注目されているドイツの宗教者・神学者であります。彼を理解するため、次のような進行を予定しています。</p> <p>第1回～第3回 ボンヘッファーのおいたち 第4回～第6回 カール・バルトとの関係 第7回～第9回 ニーメラーと告白教会 第10回～第12回 ボンヘッファーと「信仰告白」 第13回～第15回 ボンヘッファーの現代的意義</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
主に出席・発表点に基づく。必要に応じて、試験・レポートを課す。											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

河崎 靖 『ボンヘッファーを読む』 (現代書館)

[授業外学修(予習・復習)等]

こちらで用意するテキスト教材を、授業の前後(予習・復習)に確実に準備してもらおう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むI/A									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
今年度の前期では、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 「教父」概念 3. 教会教父 4. 教父学 5. キリスト教文献の成立 6. 口伝 7. 使徒文献 8. 聖書正典の形成 9. 新約 10. 旧約 11. 福音 12. 文学的類型 13. ヤコブ原福音書 14. トマス福音書 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 75641 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		教父学の基本的研究を読むI/B									
【授業の概要・目的】											
この演習の目的は、初期キリスト教における教義史に関する古典的研究を読み、膨大な古代史料の中から教理的主題や歴史的背景、教父の特徴などを網羅的に概観するとともに、教義がどのような歴史的展開を示しているかを学ぶことである。この演習では、ドイツ語で書かれた後、英語や仏語に訳され、幅広く受容された教父研究のテキストを精読することによって、初期キリスト教思想研究に必要な文献読解力の向上を目指す。											
【到達目標】											
教父たちの文献からの引用や、デジタルアーカイブなどへのアクセス情報などを含むドイツ語テキストを精読することによって、古代のキリスト教思想を研究する上で必要な基礎的な学力を養うことができる。											
【授業計画と内容】											
前期に引き続き、H.R.ドロブナーの主要著作の一つである『教父学教本』を取り上げ、演習を行う。											
Hubertus R. Drobner, Lehrbuch der Patrologie, 3te Auflage, Frankfurt am Main, 2011.											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使徒たちの手紙 3. ニコデモ福音書 4. 使徒行伝 5. 文学的類型 6. ペトロ行伝 7. パウロ行伝 8. 書簡 9. 文学的類型(書簡) 10. バルナバの手紙 11. 黙示録 12. 文学的類型(黙示録) 13. ヘルマスの牧者 14. シビュラの託宣 15. まとめと総括およびレポート等に関する解説 											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点による。受講者には、毎回の翻訳のほか、テキスト上の個別の主題に沿って数回の発表を課し、それらを総合的に判断する。

【教科書】

使用するテキストについては、コピーを配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

受講者は、各人が毎回テキストを精読して訳し、議論の問題点を明確にした上で演習に出席すること。その上で、発表を担当する者は、関連文献などに目を通して、主題に沿った課題の準備をして報告を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

- ・演習はオンラインもしくはハイブリッド形式になることがある。
- ・受講生には、毎時間のテキストの予習と演習に積極的に参加することが求められる。質問は、オフィスアワーを利用するか、メール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET08 7M272 SJ34									
授業科目名 <英訳>		キリスト教学(演習) Christian Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 津田 謙治			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2022・ 通年	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		キリスト教学の諸問題									
【授業の概要・目的】											
大学院生らが自らの研究に関して、毎回報告して行き、それに対する質疑応答、討論を通して、自他の理解の地平を広げて行くことを目的とする。キリスト教学専修の大学院生は必修、学部生その他の聴講も可。											
【到達目標】											
キリスト教学専修に所属の大学院生は、各自の研究テーマについて、前期と後期にそれぞれ1時間程度の研究発表を行い、その後30分程度（～1時間程度）の質疑応答（指導教員のコメントを含む）を通して、それぞれの研究段階に応じた研究課題（たとえば、修士課程の学生は修士論文の作成という課題、博士後期課程の学生は、学会の学術大会での研究発表や雑誌論文の作成という課題）を着実に進めることができるようになる。また、ほかの研究テーマに関する研究発表を聴き、討論に参加することによって、キリスト教研究全般についての視野を広げることができる。											
【授業計画と内容】											
キリスト教学専修所属の大学院生（修士課程、博士後期課程）は、この演習で、前期後期、各一回ずつの研究発表を行うことが求められる。研究発表は、1時間程度の発表と、その後30分～1時間程度の質疑応答によって進められるが、発表者は、レジュメなどを含む必要な準備を行うこと。発表内容は、学年に応じて、次のような内容が考えられる。M1：修士課程での研究テーマに関する研究。M2：修士論文の内容に関わる研究（修士論文の指導は、この演習で行われる）。D：学会での口頭発表や論文執筆に関わる内容（D3の学生には、合わせて、博士論文の構想についての発表が求められる）。											
【履修要件】											
キリスト教学専修所属の大学院生。											
【成績評価の方法・観点】											
前期と後期、一回ずつの研究発表とその後の質疑応答をもとにして、総合的に判断する。											
【教科書】											
使用しない											
----- キリスト教学(演習)(2)へ続く -----											

キリスト教学(演習)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

前期後期に一時間程度の研究発表(レジメあるいは発表原稿を用意する)を行うために、計画的な準備を行う必要がある。そのために、指導教員との研究相談を必要に応じて行うことが求められる。

(その他(オフィスアワー等))

演習に関わる質問は、オフィスアワーと指定の研究指導日を利用するか、あるいはメール(アドレスは、授業にて指示)で行うこと。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系114

科目ナンバリング		G-LET49 89639 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（初級）（語学） Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（初級）									
【授業の概要・目的】											
ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。											
【到達目標】											
ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。											
【授業計画と内容】											
1．ヘブライ語の歴史（概観）、2．文字と母音記号、3．音節と区切り、4．形容詞と名詞（単数と複数）、5．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、6．存在詞と非存在詞、7．現在分詞と名詞、8．語根とピニヤン（導入）、9．カルとニファル、10．ピエルとプアル、11．ヒフィルとフファル、12．ヒトパエルとニファル、13．人称代名詞と接尾辞、14．一般と唯一、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回を当てる場合もある。 * * 内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。 * * * 確認クイズは 2 ~ 3 回、学習の区切りで行う。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、小テスト（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業時に指示する暗記課題や練習問題をする。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET49 89640 LJ48									
授業科目名 <英訳>		ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 手島 勲矢			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	語学	使用 言語	日本語
題目		ヘブライ語文法（中級）									
【授業の概要・目的】											
動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意すべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16 - 17世紀の文法学者の意見も紹介する。											
【到達目標】											
動詞 / 完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。											
【授業計画と内容】											
1．名詞文と動詞の確認、2．名詞と動詞パラダイムの諸問題、3．完了形（基本）、4．未完了形（基本）、5．不定詞と命令形、6．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、7．レヴィータ文法（時制と時間）、8．語根 / ギズラー、9．W倒置と北西セム語、10．読解聖書、11．読解ラビ文献、12．読解中世文献、13．読解近代文献、14．読解現代文、15．まとめ											
* 1 課題あたり 1 ~ 2 回の授業を要する場合もある。 * * 進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。 * * * 学習の区切りで、2~3回の確認クイズをする。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点評価・・・宿題（20%）、クイズ（30%）、注解レポート（50%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
-----ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く-----											

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		花の静物画の受容の諸相 17世紀の事例を中心にして									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度前期は、近世ヨーロッパ絵画における花の静物画の受容に注目して、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・花の静物画の受容の諸相について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>ヨーロッパにおける花の静物画の絵画ジャンルとしての成立は17世紀初頭にさかのぼる。本年度前期は、花の静物画成立当初の受容の在り方について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 花の静物画の成立 第2回～6回 花の静物画の受容の諸様態 神聖ローマ皇帝ルドルフ二世と博物趣味 第7～8回 花の静物画の受容の諸様態 フェデリーコ・ボッローメオの芸術観 第9～14回 花の静物画の受容の諸様態 ダニエル・セーヘルスとイエズス会 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
【教科書】											
教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。											
【参考書等】											
<p>（参考書） 授業中に紹介する</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

期末レポート作成や試験準備に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

（その他（オフィスアワー等））

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心をもち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		宗教改革と美術									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、西洋美術史の特定の事象を取り上げて、多角的な視点から深く考察することで、美術史学の思考法や研究法を習得することにある。本年度後期は、宗教改革と美術、関連する諸作例の具体的な分析を行いつつ、考察する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・様式分析、図像分析、同時代の美術理論や古文書読解などの美術史学の方法論について、理解する。 ・宗教改革と美術の関係について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>16世紀のドイツに端を発した宗教改革を機に、キリスト教における画像の使用について深淵な議論が交わされるようになった。そもそも、キリスト教は偶像崇拜を禁止しており、宗教実践における絵画や彫刻といったイメージの利用は、潜在的な問題をはらんでいたのである。本講義では、宗教実践における画像の使用に対するプロテスタントの批判とカトリック側の応答について、多角的に考察する。授業は、講義形式と受講生による討論を織り交ぜながら行う。基本的にプランに従って講義を進めるが、講義の進み具合、受講生の理解度等に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1～2回 イントロダクション キリスト教における画像の役割 第3～8回 プロテスタントによる批判とイコノクラスム 第9～14回 カトリックの内部刷新 トリエント公会議を中心に 第15回 まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>平常点（出席状況および議論への参加など、30点）と期末レポートまたは試験（70点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。 ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。 											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

教科書は使用しない。必要に応じて、関連資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

期末レポート作成や試験準備に際しては、各自、関連する文献を読み、それに基づいて調査研究することが必要となる。そのための授業外学習には十分な時間を確保してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって、熱心に授業に参加してほしい。
- ・美術史研究の初心者でも意欲のある者には議論への参加やレポート作成が行えるよう、基本文献の紹介や資料の作成指導も、必要に応じて行う。
- ・日ごろから美術一般について幅広い関心を持ち、展覧会や美術館等を訪れて実作品を鑑賞するように心がけること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系118

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		美学史研究 「多感様式」研究									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、18世紀後半のドイツ語圏で発達した「多感様式(empfindsamer Stil)」と呼ばれる音楽様式について、それを具現化する作曲家たちの奏法書を分析しつつ、「感覚(Empfindung)」とは何かという美学の主要課題の一つにアプローチする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学/感性論(史)研究の方法に習熟する。 ・近世美学の諸相について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下を仮の計画として示しておくが、「特殊講義」という性格上、担当教員の研究の進展度によって変更されうる。また、受講者の関心の所在や理解度によっても変更されうる。その場合は、授業内およびKULASISにて指示する。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回予備考察 文学上の多感主義(sentimentalism) 第3回予備考察 作例の分析 第4回C・P・E・バッハ『正しいクラヴィーア奏法試論』前半の分析 第5回同後半の分析 第6回クヴァンツ『フルート奏法試論』前半の分析 第7回同後半の分析 第8回L・モーツァルト『ヴァイオリン奏法試論』前半の分析 第9回同後半の分析 第10回アグリコラ『歌唱芸術の手引き』前半の分析 第11回同後半の分析 第12回同時代の美学理論における評価 ヘルダー 第13回同時代の美学理論における評価 ズルツァー 第14回まとめと補足 第15回フィードバック</p>											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート80点+授業中の発言・議論への貢献度20点(加点方式、発言しない場合は0点)により評価し、これに出席率を乗じて最終成績とする。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

渡辺裕 『西洋音楽演奏史論序説：ベートーヴェンピアノ・ソナタの演奏史研究』(春秋社、2001年)
ISBN:4393931521

松原薫 『バッハと対位法の美学』(春秋社、2020年) ISBN:9784393932179

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		美学史研究 人間学の精神からの美学の誕生									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義の目的は、美学史の再構築を通じて美学研究の(一つの)ありようを示すことにある。今学期は、美学の成立背景としての「人間学(Anthropologie)」に焦点を当てる。近代美学の実質的起点であるカントの『判断力批判』(1790年)は、彼のケーニヒスベルク大学における人間学講義に多くを負っているが、具体的にいかなるトピックをどのようにして取り入れ、いかなるトピックを・なぜ取り入れなかったのかを、文献学的に検討する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・一次文献に基づく広義の美学/感性論(史)研究の方法に習熟する。 ・近世美学の諸相について、見識を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>以下を仮の計画として示しておくが、「特殊講義」という性格上、担当教員の研究の進展度によって変更されうる。また、受講者の関心の所在や理解度によっても変更されうる。その場合は、授業内およびKULASISにて指示する。</p> <p>第1回イントロダクション 第2回前史 学科としての「人間学」の誕生 第3回前史 人間学としてのバウムガルテン『美学』 第4回前史 ヘルダーのバウムガルテン批判 第5回前史 前批判期カントの形而上学講義 第6回 1772/73年の人間学講義 第7回 1775/76年の人間学講義 第8回 1777/78年の人間学講義 第9回 1781/82年(?)の人間学講義 第10回 1784/85年の人間学講義 第11回 1788/89年(?)の人間学講義 第12回 『実用的見地における人間学』(1798年) 第13回後世における受容 第14回まとめと補足 第15回フィードバック</p>											
【履修要件】											
美学講義を履修済みであることが望ましい。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート80点+授業中の発言・議論への貢献度20点(加点方式、発言しない場合は0点)により評価し、これに出席率を乗じて最終成績とする。レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。詳細な評価基準はレポート課題提示時に併せて提示する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

浜野喬士『カント『判断力批判』研究 - 超感性的なもの、認識一般、根拠 - 』(作品社) ISBN: 9784861824708

その他、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修(予習・復習)等]

特殊講義は、教員による研究の「実演」である。講義内容を基に、自分ならどう考えるか、を常に意識して授業に臨むこと。そのためにも、授業で紹介する文献を閲読すること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系120

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を確認することで江戸絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
前期は、いわゆる琳派の代表的画家尾形光琳とその弟尾形乾山を取り上げ、伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したのではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論 琳派概念とその研究史											
2 光琳以前の琳派											
3 尾形光琳・乾山の研究史											
4 尾形光琳の伝記その1											
5 尾形光琳の伝記その2											
6 尾形光琳の伝記その3											
7 尾形光琳の作品その1											
8 尾形光琳の作品その2											
9 尾形光琳の作品その3											
10 尾形光琳の作品その4											
11 尾形乾山の伝記											
12 尾形乾山の作品その1											
13 尾形乾山の作品その2											
14 光琳以後											
15 まとめ											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近世日本絵画史研究									
【授業の概要・目的】											
江戸時代の個性的な絵師たちを取り上げ、その実像について検討を加える。各作家の生い立ちと作品を検証し、これまでの研究動向と実態について理解を深め、画家像を再構築することを目指す。											
【到達目標】											
先行研究を踏まえて江戸時代絵画史に対する理解を深め、今後の考察の足掛かりとする。											
【授業計画と内容】											
前期は、いわゆる江戸琳派の画家酒井抱一と鈴木其一を取り上げ、伝記及び作品について考察する。内容は下記のとおりである。なお、講義の順序や進捗は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じ、講義担当者が定める。											
1 序論 江戸琳派概念とその研究史											
2 抱一以前の琳派											
3 酒井抱一・鈴木其一の研究史											
4 酒井抱一の伝記その1											
5 酒井抱一の伝記その2											
6 酒井抱一の伝記その3											
7 酒井抱一の作品その1											
8 酒井抱一の作品その2											
9 酒井抱一の作品その3											
10 酒井抱一の作品その4											
11 鈴木其一の伝記											
12 鈴木其一の作品その1											
13 鈴木其一の作品その2											
14 抱一・其一以後											
15 まとめ											
フィードバック方法は授業中に説明します。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末のレポートにより評価する。レポートは、到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に紹介する展覧会等を各自観覧し、実作品に触れる機会を作ること。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲本 泰生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業計画と内容 本年度は近年の東アジア仏教美術研究において、特に重視すべき作例及び事象を扱っている成果を以下の区分ごとに数篇選定し、その検討を通して研究動向の把握と展望を行う。ただし担当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【1～2週】 2．東アジア美術に反映された仏教と在来宗教の交渉【4～5週】 3．東アジア仏教美術におけるインド由来尊格の造形化【4～5週】 4．東アジア仏教美術史学史【3～4週】 5．フィードバック【1週】 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。</p>											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する
必要な資料を配付する。

[授業外学修(予習・復習)等]

仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。

(その他(オフィスアワー等))

特になし。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系123

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 稲本 泰生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東アジア仏教美術研究									
[授業の概要・目的]											
東アジアで制作された仏教美術の遺品から重要な作例を取り上げて、関連する諸資料を参照しつつ意味内容を読み解き、派生する問題に検討を加える。考察にあたっては「仏教美術が宗教美術であること」「東アジアにとって仏教が外来宗教であること」に特に留意し、最新の研究成果を反映して、造形作品や視覚イメージの生成・伝播等の実態を構造的に把握することをめざす。											
[到達目標]											
近年の東アジア仏教美術研究における主要な論点について理解を深め、考察を行うための足がかりを得る。											
[授業計画と内容]											
近年の東アジア仏教美術研究で、特に重視すべき作例や事象を扱っている成果を以下の区分ごとに数篇選定し、その検討を通して研究動向の把握と展望を行う。ただし当者の方針と受講者の背景や理解の状況に応じ、各区分の回数や順序は変更する場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．本講義の視点と問題意識【1～2週】 2．東アジア美術に現れた仏教の天界観と造形【4～5週】 3．東アジア美術に現れた仏教の地理観【4～5週】 4．日本古代中世の仏教美術と三国の観念【3～4週】 5．フィードバック【1週】 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
期末のレポートにより評価する。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する 必要な資料を配付する。											
[授業外学修(予習・復習)等]											
仏教美術鑑賞の基礎知識を得ておくこと。授業の前後を問わず、美術全集や各種図録を通して、また博物館や社寺において、作品に親しむ機会を積極的に作ってほしい。											
(その他(オフィスアワー等))											
特になし。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 呉 孟晋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本からみた中国絵画史									
【授業の概要・目的】											
<p>東アジア地域の美術のなかで、中国絵画は古くからその主題や様式などにおいて規範的な役割を果たしてきた。隣国の日本も例外ではなく、室町時代の足利将軍家の「東山御物」をはじめとして、日本にある中国絵画は「唐絵」と称されて珍重されてきた。日本の絵画史のみならず美術史や文化史を学ぶうえでも、日本で中国絵画がどのように受容され、鑑賞されてきたのかを理解する必要がある。本講義では、日本からみた中国絵画史について、古代から現代まで、近隣の朝鮮絵画や書、工芸品などもふくめて考えてみたい。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、討議も交えることで、中国絵画にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>											
【到達目標】											
中国絵画史について多面的な理解を深めることで、日本絵画史をはじめとする他分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．はじめに（講義のすすめ方など） 2．日本の文化財指定と「唐物」 3．正倉院宝物を中心に 4．絵巻について 5．寧波仏画と高麗仏画 6．肖像画・頂相について 7．牧谿と馬遠・夏珪 8．雪舟とその周辺 9．浙派について 10．東山御物の概要 11．東山御物の特徴 12．茶の湯とのかかわり 13．工芸品とのかかわり 14．書について 15．まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

『日本美術全集第6巻（テーマ巻1「東アジアのなかの日本美術」）』（小学館、2015年）
曾布川寛監修、関西中国書画コレクション研究会編『中国書画探訪 関西の収集家とその名品』（二玄社、2011年）

[授業外学修（予習・復習）等]

博物館や美術館、社寺などで、絵画作品をはじめとする文化財に親しんでもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 呉 孟晋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本からみた中国絵画史									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、日本からみた中国絵画史について、前期からの継続でおよそ明時代末期（日本では江戸時代）から現代まで、近隣の朝鮮絵画や書、工芸品などもふくめて考えてみる。各回とも講義レジュメを配布し、それにもとづいて関連する作品を紹介する。受講者の関心にそって、適宜、討議も交えることで、中国絵画にたいする理解を深めてもらうことをめざす。</p>											
【到達目標】											
<p>中国絵画史について多面的な理解を深めることで、日本絵画史をはじめとする他分野での研究にもその知見を活かすことができるようにする。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>基本的に以下の計画にそって講義をすすめる。ただし前期からの講義のすすみぐあいや受講者の関心などに応じて、順序や同一主題の回数を変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 版本・画譜について 3. 黄檗の書画 4. 来舶清人の書画、とくに沈南蘋について 5. 文人画について 6. 琉球・朝鮮の絵画 7. 書について 8. 来舶清人の書画、とくに明治期の作品について 9. 新渡りの中国書画コレクション 10. 明治・大正期の文人画 11. 近代の中国画 12. 近代の洋画 13. 戦争絵画と木刻 14. 現代美術まで 15. まとめ 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート：7割、授業参加状況（討議への積極的な参加を評価）と小課題（レポート1回）：3割として評価する。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
前期と同じ。

[授業外学修(予習・復習)等]

博物館や美術館、社寺などで、絵画作品をはじめとする文化財に親しんでもらいたい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 3回：小節線が可能にしたもの（2021年度後期の復習） 4回：音楽原理としての「ショック」と近代 5回：巨大音響建築に取り憑かれた世紀（ベルリオーズからマーラーに至る管弦楽曲） 6 - 8回：ホール建築とホール照明の歴史 9回：ハイデガーのGestell概念と「指揮者」への盲従 10回：足踏みする時間と第一次大戦後のストラヴィンスキーとテクノ 11 - 12回：「音楽の散文」と静止した時間とワーグナー 13 - 15回：反復の原理とラヴェル『ボレロ』とレヴィストロース											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で扱う音楽についてYoutubeなどで適宜実際に聴くこと

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 岡田 暁生			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		音楽の近代と時間意識 2									
【授業の概要・目的】											
音楽における「近代の時間意識」とはほぼ五線譜と同義である。縦横のグリッド（五線と小節線）で音高も音価も定量的に規定される音楽。それが近代西洋音楽＝洋楽であって、事情はクラシックであれジャズであれポピュラーであれ変わらない。この授業では五線譜的な時間意識からどのような脱出の試みが行われてきたかという視点から、19・20世紀音楽全般について考察する。											
【到達目標】											
音楽に限ることなく、人間のあらゆる営みを規定するものとしてのリズムにつき、受講者自身が思索を巡らせることを求める。											
【授業計画と内容】											
1 - 2回：前期の要約 3 - 4回：「遅刻」としての自由 シンコペーションとレイドバックとジャズ 5回：身体をマシンにすれば自由になる モダンジャズとポリリズムについて 6回：音楽は「点」に分解できるか シュトックハウゼンと戦後セリー音楽 7 - 9回：すべては波動だ？ 電子音楽の原理 10 - 11回：電子音楽は「楽譜・解釈・作品」の概念をどう変えたか 12回：ジョン・ケージと非決定論と賭博 13回：「終わらない時間」をどう音楽化する？ サティからマックス・リヒターまで 14回：同上 アンビエント・ミュージックの功罪 15回：テレパシー音楽は「作品」たりうるか？ シュトックハウゼンの直観音楽とフルクサス											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートによる。評価は到達目標の達成度に基く。独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。単なる既知情報のまとめではなく、各自の明快な問題意識およびその展開を最重視する。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
毎回レジメを配る予定。

[参考書等]

(参考書)
岡田暁生 『西洋音楽史』(中公新書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業中に言及した音楽についてYoutubeなどで適宜聴いておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1)「関係性」によって成り立つ作品、2)「鑑賞者参加型」という特徴、3)リレーショナル・アートに見られる社会批判的な側面、4)ニコラ・ブリオと『関係性の美学』、5)芸術と社会批判、6)「関係性の美学」の日本への影響、7)ミニマリズム、8)アルテ・ポーヴェラともの派、9)コンセプチュアル・アート、10)パフォーマンス・アート、11)リレーショナル・アートの系譜、12)「関係性としての敵対」、13)プロトタイプ、14)アート・プロジェクトの問題点。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
後期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配付する。

[参考書等]

(参考書)

Nicolas Bourriaud 『Relational Aesthetics』 (Les Presse Du Reel, 2002)

ニコラ・ブリオー 『ラディカント：グローバル化の美学に向けて』 (フィルムアート社、2022)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内で紹介した文献を読んできること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 准教授 武田 宙也			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		芸術生成論									
【授業の概要・目的】											
芸術の存在あるいは生成という主題をめぐって、とりわけ現代美術や現代思想におけるアクチュアルな議論を参照しつつ探究する。											
【到達目標】											
各自の研究テーマとのかかわりの中で、広義の芸術あるいは創造行為が果たす役割について知見・洞察を深めること。											
【授業計画と内容】											
<p>1．現代の芸術あるいは美学にかかわる問題を象徴的に表している議論や事例を取り上げ、論述する。</p> <p>2．受講者が各自の研究テーマとの関連においてこれを引き受け、考察を行う。</p> <p>3．それぞれの考察に対して、上の議論とのかかわりから、あるいはより広い美学・芸術学の見地からコメント・論評を行う。</p> <p>4．講義で扱われたテーマで論文を書くとしたらどのような形が可能であるか、各自の研究の進展状況を踏まえつつ指導する。</p> <p>授業では以下のような項目を取り扱うことを予定している。1) アウトサイダー・アート、2) ジャン・デュビュッフェ、3) 芸術と臨床、4) ジャン・ウリとラ・ポルド病院、5) 『すべての些細な事柄』、6) 『創造と統合失調症』、7) 生の美学、8) 収集とプリコラージュ、9) ヘテロトピア、10) フェルナン・ドゥリニの地図作成、11) 放浪と漂流、12) 「非口頭的な言語」としての身振り、13) ジャン・マリと『この子ども』、14) 身振りと現代美術。具体的な講義の進め方については適宜指示を行う。15週目はフィードバックとする。</p>											
【履修要件】											
前期の連続的な履修が望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。平常点には、授業への参加状況、授業内での報告および議論の内容を含む。											
【教科書】											
使用しない 適宜、資料を配付する。											
【参考書等】											
(参考書) ジャン・ウリ 『コレクティブ：サン・タンヌ病院におけるセミナー』(月曜社、2017)											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業内で紹介した文献を読んでくること。また、授業後はノートや配布物を読み直して論点整理を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学美術学部 教授 礪波 恵昭			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		飛鳥時代彫刻の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>飛鳥時代の彫刻は、7世紀初めから710年までの間、大陸の文化を受容し興味深い発展を遂げる。本講義は、具体的な作品に即しつつその様式・技法・図像について詳細に論じ、飛鳥時代彫刻の特徴を明らかにすることを目的としている。</p>											
【到達目標】											
<p>日本彫刻史の最新の研究成果を詳細に学ぶことによって、彫刻史の多様な展開を知るとともに、美術史研究のみならず当時の宗教や社会についての洞察を深めることを目標とする。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 仏像の基礎知識 3 日本仏教彫刻の黎明 4 飛鳥時代前期の彫刻（1） 5 飛鳥時代前期の彫刻（2） 6 飛鳥時代前期の彫刻（3） 7 飛鳥時代前期の彫刻（4） 8 飛鳥時代前期から後期への過渡期（1） 9 飛鳥時代前期から後期への過渡期（2） 10 飛鳥時代後期（白鳳期）の彫刻（1） 11 飛鳥時代後期（白鳳期）の彫刻（2） 12 飛鳥時代後期（白鳳期）の彫刻（3） 13 奈良時代への展開 14 菩薩半跏像をめぐる問題 15 総括 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>学期末に課すレポートの成績を重視し（80%）、平常点（授業への参加状況）も加味して（20%）評価する。 評価に際しては、飛鳥時代の日本彫刻史の展開についての具体的な作品に基づいた理解度を主として、関連する学問領域への言及も加味しつつ、評価する。</p>											
【教科書】											
<p>使用しない 授業資料は配付する</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で配付する資料に基づき予習・復習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東京藝術大学美術学部 准教授 佐藤 直樹			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ研究ーバウハウス前夜のモダニズム									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀末から20世紀始めに活躍したベルギーの芸術家アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデ (Henry van de Velde, 1863- 1957) は、1895年にパリでS・ピングのギャラリー「アール・ヌーヴォー館」Maison de l'Art Nouveau のインテリアを担当し、アール・ヌーヴォーからモダン・デザインへの展開を促した人物として知られている。本講義では、彼のアール・ヌーヴォーへの貢献だけでなく、ドイツにおけるモダニストとしてのヴァン・デ・ヴェルデの作品とその影響を主に検証したい。ヴァイマル市民の「趣味の向上」のために招聘されたヴァン・デ・ヴェルデは、工芸学校設立や美術教育の改革を行い、さらにはモダンな建造物によってヴァイマルに新しい風をもたらした。ゲーテやシラーの文化的遺産を保ちつつ、哲学者ニーチェも住まうヴァイマルは、ヴァン・デ・ヴェルデの活躍で、文化都市としての地位をさらに固めていくことになる。</p> <p>ヴァン・デ・ヴェルデの活動と作品、人的交流を辿りながら、ヴァイマルでバウハウスが設立されるまでを、当時のドイツにおける外国人芸術家の役割とその芸術的な影響とともに詳細に検討する。</p>											
【到達目標】											
<p>ヴァン・デ・ヴェルデの作品を見ながら、彼が単なる建築家ではなく、デザイン、工芸、建築の分野で当時をリードする総合芸術家であったことを理解する。また、なぜヴァイマル公国では「趣味の向上」が図られたのか、ザクセン公ヴィルヘルム・エルンストの文化政策にも注目したい。当時のドイツは、フランスやベルギー、イギリスといった文化先進国から、何を学び追いつこうとしたのか、この点を明らかにすることが本講義の到達目標である。また、バウハウスがヴァイマルで設立されたのが決して偶然ではなく、ザクセン公の伝統的な文化政策がもたらした歴史的な必然であったことも理解されるだろう。</p> <p>ヴァン・デ・ヴェルデが第一次大戦を機にヴァイマルを去る際、工芸学校の後継者にヴァルター・グロピウスを指名したことでバウハウスの原型が整備された。まさに、ヴァン・デ・ヴェルデが準備したアヴァンギャルドな方向性が、ドイツ人のグロピウスによって継承・展開されていくのである。2019年はバウハウス100年を祝う年であった。いま、バウハウス以前のドイツの芸術環境を振り返ることは、バウハウス成立の正しい理解に貢献してくれるはずである。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヴァイマルの文化伝統ーゲーテとディレタントたち 2. ドイツにおけるディレタントの伝統 3. ヴァン・デ・ヴェルデの初期一点描画家としてのスタート 4. パリでの失敗とドレスデンでの成功 5. ベルリン移住とハリー・ケスラー男爵との出会い 6. ミュンヘン分離派展 7. ベルリンのインテリア芸術 8. アール・ヌーヴォーとは何か 9. パリ万博でのアール・ヌーヴォー 10. ベルリンからヴァイマルへ 											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

11. ヴァイマルのニーチェ・ハウス
12. 新生ヴァイマル
13. 美術工芸学校の誕生
14. ホーエ・パペルンからハウス・アム・ホルンへ
15. 試験（およびフィードバック）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

コメント・シートを含む平常点（30%）、および試験（70%）により評価する。講義で取り上げた作品の造形的な理解ができていないことを特に評価の対象とする。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド 『アンリ・ヴァン・ド・ヴェルド自伝』（鹿島出版会、2012年）
デボラ・シルヴァーマン 『アール・ヌーヴォー：フランス世紀末と「装飾芸術」の思想』（青土社、1999年）
佐藤直樹 『東京藝大で教わる西洋美術の見かた』（世界文化社、2021年）
佐藤直樹編 『芸術愛好家たちの夢—ドイツ近代におけるディレクタントイズム』（三元社、2019年）
東京国立近代美術館[ほか]編 『ヴァン・ド・ヴェルド展』（東京国立近代美術館、1990年）
その他、授業中に指示します。

【授業外学修（予習・復習）等】

事前に、フランスを中心としたアール・ヌーヴォーの概略を把握しておくことが望ましい。また、国際芸術展や万博などは、当時の作家たちの作品制作の契機となっていることから、これら博覧会の歴史を大まかに理解しておくことも授業理解の役に立つ。

（その他（オフィスアワー等））

面会（ZOOM等でのオンライン面会も含む）はメールにて事前に予約すること。sato.naoki@fa.geidai.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系132

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		京都市立芸術大学美術学部 教授 加須屋 明子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代美術研究									
[授業の概要・目的]											
多様化する同時代における、現代美術の様々なありかたを考察する。具体的には、60年代以降のいわゆる現代美術の諸様相を検討しつつ、とりわけ近年顕著になった社会的関与芸術の成り立ち、それがどのように社会状況と関わりながら美術が変容してきたのかを考える。											
[到達目標]											
現代美術の成り立ちについて理解し、西欧諸国のみならず、旧東欧地域における美術の様相について基本的事項を知り、同時代の芸術表現について積極的に関わり、論述する姿勢を養う。											
[授業計画と内容]											
1 授業概要，ガイダンス【2週】 2 歴史的前衛【2週】 3 演劇化された生【3週】 4 ダダの季節【3週】 結束と分裂 5 芸術と参加【3週】 シチュアシオニスト 6 まとめ【2週】											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
評価方法： レポート											
[教科書]											
使用しない 適宜、プリント資料等を配付する。											
[参考書等]											
(参考書) クレア・ビショップ 『人工地獄』(フィルムアート) 加須屋明子 『現代美術の場としてのポーランド』(創元社) 山本浩貴 『現代美術史』(中央公論新社) アーサー・C. ダントー他 『アートとは何か: 芸術の存在論と目的論』(人文書院)											
[授業外学修(予習・復習)等]											
積極的な予習復習を歓迎します											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等はメールで kasuya@kcua.ac.jp まで。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET09 65731 LJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ビデオゲームと芸術の理論									
【授業の概要・目的】											
<p>さまざまな現代の文化のなかにあって、ビデオゲーム（コンピュータゲーム、デジタルゲーム、電子ゲーム、テレビゲーム、略してゲーム）は、産業規模の点でも創造性の点でもきわめて重要度の高い領域のひとつである。ビデオゲームの際立った特徴のひとつは、いわゆるインタラクティブ性（受け手が作品のありかたに能動的に関与できること）にある。</p> <p>この講義では、ほかの芸術形式や文化形式に対して適用されてきた諸理論をビデオゲームにあてはめることを通して、ビデオゲームというメディア（表現媒体）ならではの特徴を考える。またそうしたメディア上の特徴と、ビデオゲームをめぐる文化実践の現状（たとえば批評や歴史記述の成り立ちづらさ）にどれだけ関係があるのか／ないのかについても考えたい。</p> <p>扱う題材はビデオゲームだが、ビデオゲーム以外の文化の研究にも応用できるような内容にする予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 芸術や文化に関する諸理論を理解する。 ・ ビデオゲームならではの特徴を考える。 ・ あるメディアならではの特徴を考えることがどういうことなのかを理解する。 ・ メディアのありかたと文化実践のありかたの関係について考える。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 初期の歴史と二面性</p> <p>第3回 初期の歴史と二面性</p> <p>第4回 ビデオゲームと記号の理論</p> <p>第5回 ビデオゲームと記号の理論</p> <p>第6回 ビデオゲームとフィクションの理論</p> <p>第7回 ビデオゲームと物語の理論</p> <p>第8回 ビデオゲームと物語の理論</p> <p>第9回 ビデオゲームと感情の理論</p> <p>第10回 ビデオゲームと様式の理論</p> <p>第11回 ビデオゲームと狭義の美学</p> <p>第12回 ビデオゲームと制度の理論</p> <p>第13回 ビデオゲームと遊びの理論</p> <p>第14回 ビデオゲームを語ること</p> <p>第15回 まとめ（フィードバック）</p>											
<p>・ 各回とも、前半で理論を説明して、後半でそれをビデオゲームに適用するという順序で進める予定。</p>											
----- 美学美術史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

美学美術史学(特殊講義)(2)

- ・授業の進み具合によって、一部のトピックを取り上げない可能性がある。
- ・リアクションペーパーの質問・コメントを取り上げる時間を毎回設けるので、予定通りに進まない可能性もある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点：100%

- ・平常点は、毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出とその内容によってカウントする。
- ・質問やコメントは次回の授業で取り上げることがある。
- ・リアクションペーパーによるやりとりも授業の重要なパートとして考えるので、疑問や気になることがあれば積極的に書いてください。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

各回の理論については授業内では十分な紹介ができない。
参考文献はできるだけ示すので、関心のあるトピックは自分で学習してください。

(その他(オフィスアワー等))

わからないことなどがあれば気軽に質問してください。
いろいろ聞いてもらえたほうが授業をする側としてはありがたいです。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系134

科目ナンバリング		G-LET09 75741 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美術史学の实地指導									
【授業の概要・目的】											
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、実物の美術作品を前にして、美術史学の研究方法の实地指導を行う。											
【到達目標】											
美術作品を実見し、その造形要素を入念に分析することで、美術史研究に必須の様々な情報を集積して考察する能力をさらに向上させる。											
【授業計画と内容】											
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される展覧会と、優れた仏像や障壁画などを所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、KULASISの授業連絡メールや美学美術史学専修共同研究室前の掲示などを通じて告知されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美術史研究の基礎であり、多くの作品を実際に見ることによって養われる。したがって、すべての見学会に参加することを原則とする。見学時には、明確な目的意識をもって作品を実見し、適宜メモをとりながら、集中して作品の造形分析を行うこと。											
第1回 イン트로ダクション：美術作品の実見調査について 第2回～第8回 美術作品の实地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会展出作品を中心に 第9回～第11回 京都の寺社所蔵の美術作品の集中見学 第12回～第14回 美術作品の实地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会展出作品を中心に 第15回 フィードバック：授業の成果と今後の課題について											
【履修要件】											
作品を丹念に観察するという演習の性格上、美学美術史学専修に所属する学生に履修を制限する。また、美学美術史学専修に所属する正規生はできる限り本演習を履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の見学時に課される口頭発表またはレポートにより成績評価を行う。レポート等は到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、毎回の見学会の参加を必須とする。 ・入念な準備、明晰な作品分析、的確な論考、独自の創意工夫等が顕著なものについては、高い点を与える。 											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

大学の蔵書を適宜参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

見学会参加に際しては、見学する作品やその作品を制作した芸術家、作品が制作された時代等に関して専門文献を参照しつつ予習を行い、明確な目的意識をもって見学会に参加できるよう入念に準備すること。また、見学会終了後は、作品見学時に生じた疑問(作品制作の時代背景や作者について、または作品の図像内容や技法等)について、各自、事後学習を行い、美術作品に対する理解をより深めるよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

作品保存の観点から、メモを取る際には鉛筆のみ使用可。また、寺社見学に際しては、極度の肌の露出は避け(裸足も不可)、節度ある服装で参加すること。原則として、美学美術史学を専攻する学生は、少なくとも4単位を取得することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

思想文化学系135

科目ナンバリング		G-LET09 75741 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習Ⅰ) Aesthetics and Art History(Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美術史学の实地指導									
【授業の概要・目的】											
美術作品が所在する現場に実際に足を運び、実物の美術作品を前にして、作品の分析等、美術史学の研究方法の实地指導を行う。											
【到達目標】											
美術作品を実見し、その造形要素を入念に分析することで、美術史研究に必須の様々な情報を集積して考察する能力をさらに向上させる。											
【授業計画と内容】											
京都、大阪、奈良などに所在する美術館や博物館で開催される展覧会と、優れた仏像や障壁画などを所蔵する寺社が、指導の現場となる。見学の詳細については、KULASISの授業連絡メールや美学美術史学専修共同研究室前の掲示などを通じて告知されるので、各々確認すること。作品に対する鑑定眼は美術史研究の基礎であり、多くの作品を実際に見ることによって養われる。したがって、すべての見学会に参加することを原則とする。見学時には、明確な目的意識をもって作品を実見し、適宜メモをとりながら、集中して作品の造形分析を行うこと。											
第1回 イン트로ダクション：美術作品の実見調査について 第2回～第8回 美術作品の实地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会展出作品を中心に 第9回～第11回 京都の寺社所蔵の美術作品の集中見学 第12回～第14回 美術作品の实地見学：近畿の美術館・博物館所蔵品および展覧会展出作品を中心に 第15回 フィードバック：授業の成果と今後の課題について											
【履修要件】											
作品を丹念に観察するという演習の性格上、美学美術史学専修に所属する学生に履修を制限する。また、美学美術史学専修に所属する正規生はできる限り本演習を履修すること。											
【成績評価の方法・観点】											
毎回の見学時に課される口頭発表またはレポートにより成績評価を行う。レポート等は到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、毎回の見学会の参加を必須とする。 ・入念な準備、明晰な作品分析、的確な論考、独自の創意工夫等が顕著なものについては、高い点を与える。 											
【教科書】											
使用しない											
----- 美学美術史学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習Ⅰ)(2)

[参考書等]

(参考書)

大学の蔵書を適宜参照すること。

[授業外学修(予習・復習)等]

見学会参加に際しては、見学する作品やその作品を制作した芸術家、作品が制作された時代等に関して専門文献を参照しつつ予習を行い、明確な目的意識をもって見学会に参加できるよう入念に準備すること。また、見学会終了後は、作品見学時に生じた疑問(作品制作の時代背景や作者について、または作品の図像内容や技法等)について、各自、事後学習を行い、美術作品に対する理解をより深めるよう努めること。

(その他(オフィスアワー等))

作品保存の観点から、メモを取る際には鉛筆のみ使用可。また、寺社見学に際しては、極度の肌の露出は避け(裸足も不可)、節度ある服装で参加すること。原則として、美術史学を専攻する学生は、少なくとも4単位を取得することが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金1	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画作品の解釈をめぐる諸問題									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するドイツ語文献の講読を通じて、ドイツ語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を一層深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で執筆された美術史に関する専門的な文献を、適確に読解する能力を習得する。 ・美術史学におけるイメージ解釈についての知見を、さらに深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>本年度は、昨年度に引き続き、Oskar Bätschmann, Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik (Darmstadt, 1986; 2001) の精読を通じて、「絵画作品の解釈」をめぐる諸問題について理解を深めるとともに、美術史学の思考法について多角的に考察する。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストの概要について説明するとともに、昨年度の学習事項のまとめを行う。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを紹介し、授業の進め方と準備の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。</p> <p>第2回～第14回 上記論文集の所収論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>第2～4回 文字とイメージ 第5～7回 読むことと見ること 第8～10回 イメージはテキストか？ 第11～13回 シャルル・ルブランとディズニー 第14回 美術史的解釈学</p> <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック（詳細は授業中に説明します）</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

[履修要件]

- ・初級ドイツ語を習得していること。
- ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識をもって熱心に授業に参加してほしい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、40点）と期末試験（60点）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。

- ・原則として、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

Osker Bätschmann 『Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik』（Darmstadt, 1984/2001）
講読テキストはプリントで配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業に際しては、あらかじめテキストを各自精読し、不明な単語を調べ、文法構造を正しく理解し、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、インターネット、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 杉山 卓史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学史研究・講読篇 マイアー『あらゆる美しい学の基礎』を読む									
【授業の概要・目的】											
<p>美学の「創始者」は、周知のようにバウムガルテン(Alexander Gottlieb Baumgarten, 1714-62)であり、その『美学』(1750/58)は史上はじめてこの学科名を題名とした書である。しかし、同時代によく読まれ影響を及ぼした美学書は、難解なラテン語で書かれた同書よりもむしろ、その弟子マイアー(Georg Friedrich Meier, 1718-77)が師の講義内容を平易なドイツ語で執筆した3巻本の『あらゆる美しい学問の基礎』(1748-50)であった。わが国では、バウムガルテンの『美学』は、松尾大による世界初の全訳という偉業のおかげで、世界的に見てもきわめて深い理解が進んでいるが、反面、同時代の状況が見えにくくなっているとも言える。本演習では、マイアーの上掲書(1754年の第2版)の講読を通じて、美学という学科が誕生した当時の状況についての理解を深めることを目指す。古いドイツ語文献に特有の亀甲文字(Fraktur)に慣れる機会ともしたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた哲学的美学の古典を的確に読解する能力を習得する。 ・美学史についての知見を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>最初のうちは亀甲文字に慣れながら1回につき1§、慣れてきたら1回につき2§読み進め、学期中に第1節「感性的認識一般の美しさについて」を読了することを目標とするが、原典講読という授業の本性上、受講者の人数およびドイツ語読解能力によって変更が生じうることを了解されたい。</p> <p>第1回導入(講読予定のテキストおよび参考文献を紹介・解説し、授業の進め方と準備の方法を周知する)</p> <p>第2回 § 23</p> <p>第3回 § 24</p> <p>第4回 § 25</p> <p>第5回 § 26</p> <p>第6回 § 27</p> <p>第7回 § 28</p> <p>第8回 § 29f.</p> <p>第9回 § 31f.</p> <p>第10回 § 33f.</p> <p>第11回 § 35f.</p> <p>第12回 § 37f.</p> <p>第13回 § 39f.</p> <p>第14回まとめと補足(きりのよいところまで読み進められなかった場合は、この回を講読に充てる)</p> <p>第15回フィードバック</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

【履修要件】

ドイツ語の初級文法を習得しており、程度に差はあれ、辞書があればドイツ語の文章が読解できること。

【成績評価の方法・観点】

平常点（毎回の訳読および議論への参加状況）60% + 期末レポート（独文エッセイ）40%によって評価する。

理由のいかんを問わず総授業回数の1/3以上を欠席した者には、単位認定を行わない。

【教科書】

Georg Friedrich Meier 『Anfangsgründe aller schönen Wissenschaften』（Hemmerde, 1754）（第2版。2021年12月23日現在、後掲のURLより全文ダウンロード可能。）

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

（関連URL）

<https://books.google.co.jp/books?id=qdYsAAAAYAAJ>

【授業外学修（予習・復習）等】

講読箇所を翻訳して授業に臨むこと。単に日本語に置き換えるだけでなく「なぜそう訳したのか」と問われて答えられるようにしておくこと。不明点は何が（文法なのか語意なのか内容なのか）不明なのかを可能な限り明確にし、授業中にその疑問を解消するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のドイツ語能力の向上にも努めてほしい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 小寺 里枝			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目 [授業の概要・目的] 本演習では、西洋美術史、美学をめぐるフランス語文献の講読をおこないます。講読を通じて、フランス語の実践的読解力を高めると同時に、西洋美術史および美学の諸問題について考察することを目指します。 講読する文献は以下です。 LICHTENSTEIN Jacqueline, La couleur éloquente. Rhétorique et peinture à l'âge classique, Paris, Flammarion, 1989.											
[到達目標] ・美術史学と美学にまたがる専門書をフランス語で読解できるようになる。 ・哲学的考察と実作品分析を往来するという美学美術史学の思考法を体感し、広く芸術学に関する知見を深める。											
[授業計画と内容] 上記 Lichtenstein による書籍 (1989) を、冒頭から読み進めていきます。 各受講者が一文を訳読し、輪読してゆくという形式です。 適宜、哲学史的背景や美術史的背景の補足説明もおこないます。 受講者の人数およびフランス語習熟度によって、講読の進度は大きく異なることとなるでしょう。 第1回 ガイダンス 第2~14回 上記の方法で、指定書籍を読み進めていきます。 第15回 フィードバック (授業内で詳細をお伝えします。)											
[履修要件] ・初級以上のフランス語知識を身につけていることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点] 平常点 (第2~14回授業での訳読および議論への参加度) 50パーセント、期末レポート点 (指定するテキストのフランス語訳および日本語小論) 50パーセント 原則として、4回以上欠席した場合は単位を認めません。 遅刻・早退は欠席扱いとします。											
[教科書] LICHTENSTEIN Jacqueline, La couleur éloquente. Rhétorique et peinture à l'âge classique, Paris, Flammarion, 1989.											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

初回にコピーを配布します。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各授業内にて、次回の講読箇所をお伝えします。
授業参加の前に各自でその箇所を精読し、適切な日本語訳文をつかった上で参加してください。
また精読の過程では、哲学史的・美術史的背景への参照が必要となります。こちらも事前に、各自でおこなっておいてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		神戸学院大学人文学部 講師 倉持 充希			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		絵画における感情表現									
【授業の概要・目的】											
<p>・本演習では、西洋美術に関するフランス語の専門書の精読を通じて、フランス語の読解力を高めると同時に、絵画における感情表現について考察することを目的とする。</p> <p>・具体的には、1667年にフランス王立絵画彫刻アカデミーで開催された講演のうち、ニコラ・プッサン作《マナの収集》に関するシャルル・ル・ブランの講演録を精読し、身振りや表情による感情表現について考察する。加えて、物語画を分析する様々な論点や専門用語、視覚芸術における時間表現についても検討し、草創期の美術アカデミーにおいて物語画がいかに議論されたのかを学ぶ。 Christian Michel and Jacqueline Lichtenstein (ed.) Les conférences au temps d'Henry Testelin, 1648-1681, Conférences de l'Académie royale de peinture et de sculpture, t. 1, 2 vols., Paris, 2006, vol. 1.</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史に関するフランス語の専門書を読むために必要な読解力を習得する。 ・17世紀の物語画における身振りや表情による感情表現の手法について理解を深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 イン트로ダクション まず、講読テキストの概要について説明し、内容の理解を助ける参考文献や予習方法、評価方法を示す。テキストのコピーを配布し、全体的な解説も行うので、受講を希望する人は必ず初回に出席すること。あわせて、受講生の興味関心や専門分野、要望を知るためのアンケートも実施する。</p> <p>第2回～第15回 テキストの精読 授業の冒頭で、テキストの一部を翻訳する小テストを行う。その後、受講者で一文ずつ輪読する。受講者の習熟度によって進度は大きく異なるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね1～2ページ程度を読み進めることになる。必要に応じて、文法事項や専門用語、歴史的事象、研究史などに関して、補足説明をする。</p> <p>フィードバックについては、毎回の小テストを添削して返却することにし、学期末には特に実施しない。疑問点があれば、メールでも回答する。</p>											
【履修要件】											
フランス語の中級以上の知識を習得していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>毎回の小テスト（テキストの翻訳：50点）と、期末レポート（自分の専門分野に関わる論文の翻訳：50点）に関して、文法理解・適切な訳文・内容理解という観点から評価する。</p> <p>・小テストに際しては、予習ノートやテキストの書き込みなどを参照しても良い。</p>											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

- ・原則として、4回以上欠席した場合は、単位を認めない。
- ・原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

初回に、講読テキストのコピーを配布する。

Christian Michel and Jacqueline Lichtenstein (ed.) Les conférences au temps d'Henry Testelin, 1648-1681, Conférences de l'Académie royale de peinture et de sculpture, t. 1, 2 vols., Paris, 2006, vol. 1.

[参考書等]

(参考書)

- ・初回に、以下の参考文献等を紹介し、講読テキストに関する予備知識をつける。

栗田秀法「王立絵画彫刻アカデミー」『西洋美術研究』2、1999年、53-71頁。

大野芳材「1667年の「コンフェランス」 宗教画事始（キリスト教と文化（4））」『青山学院女子短期大学総合文化研究所年報』12、2004年、129-146頁。

- ・その他、授業中に紹介し、適宜、必要箇所のコピーを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

・予習としては、各自テキストを精読し、不明な単語や文法事項を調べ、適切に翻訳できるように準備しておくこと。文中に登場する固有名詞、図像、参考図版についても、事前に調べておくこと。

・復習としては、授業中の発表と解説に基づき、自身の訳文の再検討を行うこと。専門用語の定訳などもまとめておくこと。

(その他（オフィスアワー等）)

・質問や相談は、授業前や授業中に、あるいはメールでも受け付ける。

・ラジオやオンライン教材、講演会などを活用し、実践的なフランス語運用能力を養う機会を積極的に設けて欲しい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 75745 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習II) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		サンタ・マリア・ノヴェッラ教会における1400年代の絵画									
【授業の概要・目的】											
本演習では、美術史に関するイタリア語文献の講読を通じて、イタリア語の実践的読解力を養うとともに、美術史の諸問題について理解を深めることを目指す。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・美術史に関するイタリア語専門文献を的確に読解する能力を養う。 ・テキストの内容を吟味し、問題意識を持って批判的に専門文献を読む力を身につける。 ・西洋美術史の専門用語・基礎的知識を習得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>主として、Giovanni Giura, "La seconda età della pittura in Santa Maria Novella" in Santa Maria Novella. La basilica e il convento, v.2 (a cura di Andrea De Marchi), Firenze 2016, pp. 97-153 を取り上げ、文献の講読を通じて、サンタ・マリア・ノヴェッラ教会における1400年代の絵画について理解することを目指す。</p> <p>第1回 イン트로ダクション 講読テキストについて、概要を紹介する。参考文献や自習に役立つ学術サイトなどを案内し、授業の進め方と準備の方法について説明する。</p> <p>第2回～第14回 論文の精読 イントロダクションで示した方式によって、上記テキストを精読し、内容についても討議する。担当者の習熟度によって進度は大きく異なるため毎回の予定を示すことはできないが、少なくとも1週ないし2週に1度は各受講生に精読発表の機会を与えられるよう、適宜調整を行う。理解が困難な専門用語や歴史的事象については、補足説明を行う。</p> <p>《期末試験》</p> <p>第15回 フィードバック フィードバック方法は授業中に説明する。</p>											
【履修要件】											
<ul style="list-style-type: none"> ・初級以上のイタリア語を習得していること。 ・西洋美術史に関する予備知識の有無は問わないが、各自、問題意識を持ち、未知の用語は事前に調べるなどして、積極的に授業に参加してほしい。 											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（出席状況および担当箇所の精読の発表、50%）と期末試験（50%）に関して、到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 美学美術史学(演習II)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習II)(2)

- ・ 授業を欠席した場合は、減点の対象となる可能性がある。
- ・ 原則として、授業を4回以上欠席した場合には、単位を認めない。
- ・ 原則として、遅刻・早退は欠席扱いとする。

[教科書]

講読テキストは印刷して配付する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

授業の準備として、各自テキストを精読し、不明な単語は調べておくこと。また、文法構造を正しく理解するよう努め、適切な日本語に翻訳する作業を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

ラジオやテレビ、講演会等、様々な機会を活用して、聞く、話す、書くといった読解以外のイタリア語能力の向上にも努めましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 7M286 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学美術史学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の問題意識に基づき研究課題を設定し、関連する研究動向を把握し、先行研究を的確かつ批判的に理解しうる高度な能力を身につける。 ・各自設定した研究課題について先行研究を踏まえたうえで新知見をもって対処する力量や、論文執筆にあたり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量をさらに向上させる。 											
[授業計画と内容]											
受講者各自が修士論文および博士論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、1時間程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写するなど、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。											
第1回 ガイダンス：研究課題の設定について 第2回～第14回 研究発表および討論 第15回 フィードバック：今後の課題について											
[履修要件]											
美学美術史学専修に所属する正規生に限る。専修の正規生は必ず参加してください。											
[成績評価の方法・観点]											
研究発表および討論への参加の度合いにより評価する。研究発表については到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、毎回の演習への出席を必須とする。 ・入念な準備、的確な問題設定と論考、新知見等が顕著なものについては、高い点を与える。 											
----- 美学美術史学(演習III)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習III)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

各自の問題設定に応じて、必要となる先行研究や参考図書を早めに入手し、研究の適切な遂行に努めること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、できるだけ早い時期にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

研究テーマの選定や参考書籍についての疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しても、適宜相談を受け付けている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET09 7M286 SJ34									
授業科目名 <英訳>		美学美術史学(演習III) Aesthetics and Art History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 平川 佳世 文学研究科 准教授 杉山 卓史 文学研究科 准教授 筒井 忠仁			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		美学美術史学の諸問題									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文の作成に向けて、受講者全員が各自設定した美学美術史学に関する問題について口頭発表を行い、研究を進展させることを目指す。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の問題意識に基づき研究課題を設定し、関連する研究動向を把握し、先行研究を的確かつ批判的に理解しうる高度な能力を身につける。 ・各自設定した研究課題について先行研究を踏まえたうえで新知見をもって対処する力量や、論文執筆にあたり考慮すべき論理、構成、表記等、研究を遂行する上で必要な力量をさらに向上させる。 											
[授業計画と内容]											
受講者各自が修士論文および博士論文を視野に研究テーマを設定し、作成した原稿に基づき、1時間程度の発表を行う。発表に際しては、必要に応じて、パワーポイント等で画像資料を提示する、ビデオ等で映像資料を映写するなど、各自工夫すること。発表後は全員で内容についての討論を行い、問題意識を共有することとする。											
第1回 ガイダンス：研究課題の設定について 第2回～第14回 研究発表および討論 第15回 フィードバック：今後の課題について											
[履修要件]											
美学美術史学専修に所属する正規生に限る。専修の正規生は必ず参加してください。											
[成績評価の方法・観点]											
研究発表および討論への参加の度合いにより評価する。研究発表については到達目標の達成度に基づき評価する。											
<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、毎回の演習への出席を必須とする。 ・入念な準備、的確な問題設定と論考、新知見等が顕著なものについては、高い点を与える。 											
----- 美学美術史学(演習III)(2)へ続く -----											

美学美術史学(演習III)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

各自の問題設定に応じて、必要となる先行研究や参考図書を早めに入手し、研究の適切な遂行に努めること。

[授業外学修(予習・復習)等]

各自の研究の根幹をなす重要な演習なので、できるだけ早い時期にテーマを決定し、常時問題意識を念頭において研究を進め、充実した研究発表を行うことが求められる。また、関連する芸術作品に直接触れる機会を有するよう、常に努力してほしい。

(その他(オフィスアワー等))

研究テーマの選定や参考書籍についての疑問がある場合は、出来るだけ早目に教員に相談すること。また、画像資料、映像資料の処理法に関しても、適宜相談を受け付けている。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。